



實科高等
女學校用裁縫教科書
今村順子著
卷二

1/4
453

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



11-45)

今村順子著

實科高等
女學校用 裁縫教科書 卷二

東京

成美堂
目黒書店 合梓

實科高等
女學校用 裁縫教科書 卷二

目次

第一章 前衿裁給	一
第一 裁ち方積り方	一
第二 前衿裁給仕立方	七
一 普通仕立上げ寸法	七
二 標附け方	八
三 縫ひ方順序	二
第二章 本裁女給	一七
第一 裁ち方積り方	一七
第二 本裁女給仕立方	二〇
一 普通仕立上げ寸法	二〇

大正
10 5 12
内交

目次

二	標附け方	二〇
三	縫ひ方順序	二四
第三章 本裁男衿		
一	部分縫	三〇
二	本裁男衿裏地裁ち方	三一
三	本裁男衿仕立方	三三
一	普通仕立上げ寸法	三四
二	標附け方	三四
三	縫ひ方順序	三五
第四章 本裁女綿入		
一	部分縫	四〇
二	本裁女綿入裁ち方積り方	四四
三	本裁女綿入仕立方	四五
一	普通仕立上げ寸法	四五

二	標附け方	四六
三	縫ひ方順序	四七
第五章 本裁男綿入		
片面物・中幅物・大幅物にて <small>小裁</small> の裁ち方積り方		
及び各種長着普通仕立上げ寸法		
一	片面物にて三つ身の裁ち方	五五
二	中幅物にて <small>小裁</small> の裁ち方	五五
三	大幅物にて <small>中裁</small> の裁ち方	五七
四	各種長着普通仕立上げ寸法表	六四
第七章 女衿長襦袢		
一	裁ち方積り方	七九
一	並幅物にての裁ち方	七九
二	中幅物にての裁ち方	八〇
三	大幅物にての裁ち方	八一

目次

第二章 女衿長襦袢仕立方 八三

一 普通仕立上げ寸法 八三

二 標附け方 八四

三 縫ひ方順序 八六

第八章 本裁女綿入羽織 八九

第一 羽織各部の名稱 九〇

第二 羽織部分縫 九一

一 前身頃及び襦 九一

二 衿の折り方及び附け方 九三

第三 本裁女綿入羽織裁ち方積り方 九六

第四 本裁女綿入羽織仕立方 一〇〇

一 普通仕立上げ寸法 一〇〇

二 標附け方 一〇一

三 縫ひ方順序 一〇四

第九章 一つ身袖無綿入羽織 一一二

第一 一つ身袖無綿入羽織裁ち方 一一二

第二 一つ身袖無綿入羽織仕立方 一一三

一 普通仕立上げ寸法 一一三

二 標附け方 一一四

三 縫ひ方順序 一一五

第十章 四つ身綿入羽織 一一七

第一 四つ身綿入羽織裁ち方積り方 一一七

第二 四つ身綿入羽織仕立方 一二二

一 普通仕立上げ寸法 一二二

二 標附け方 一二三

三 縫ひ方順序 一二六

第三 三つ身羽織裁ち方積り方仕立上げ寸法 一二九

第十一章 本裁男綿入羽織 一三二

第一	裁ち方・積り方	一三二
第二	本裁男綿入羽織仕立方	一三四
一	普通仕立上げ寸法	一三四
二	標附け方	一三五
三	縫ひ方順序	一三六
第十二章 本裁男袴羽織		
第一	部分縫	一三七
一	前身頃及び裾	一三七
二	袴の折り方及び附け方	一三八
第二	本裁男袴羽織裁ち方・積り方	一四〇
第三	仕立方	一四〇
一	普通仕立上げ寸法	一四〇
二	標附け方	一四〇
三	縫ひ方順序	一四一

第十三章 片面物及び中幅・大幅物にて羽織の裁ち方・積り方及び各種羽織仕立上げ寸法表		
第一	片面物にて小裁羽織の裁ち方	一四六
第二	中幅物にて中裁・本裁羽織の裁ち方	一四七
第三	大幅物にて小裁・中裁・本裁羽織の裁ち方	一四九
第四	各種羽織普通仕立上げ寸法表	一五〇
第十四章 手提袋の類		
第一	桔梗形手提袋	一五六
一	裁ち方	一五七
二	縫ひ方順序	一五七
第二	千代田袋	一六一
一	割り出し方	一六一
二	裁ち方	一六二
三	縫ひ方順序	一六三

第三	四季袋	一六五
第十五章	子供腹掛	一六七
第十六章	涎掛	一七五
第十七章	女袴	一七九
第一	女袴各部の名稱	一八〇
第二	大人女袴裁ち方積り方	一八一
一	三尺幅物にて女袴の裁ち方積り方	一八二
二	二尺幅にて女袴の裁ち方積り方	一八五
三	女袴の裁ち方寸法割り出し方	一八八
第三	大人女袴仕立方	一八九
一	普通仕立上げ寸法	一八九
二	標附け方	一九〇
三	縫ひ方順序	一九一
四	大人女袴髷取り方	一九七

五	女袴仕立上げ寸法割出し方	二〇二
第十八章	小裁・中裁女袴	二〇六
第一	小裁女袴	二〇六
第二	中裁女袴	二一〇
第三	各種女袴普通仕立上げ寸法表	二一一

卷二 目次終

實科高等
女學校用 裁縫教科書 卷二

今村順子 著

第一章 前衿裁衿

第一 裁方積り方

通し裏

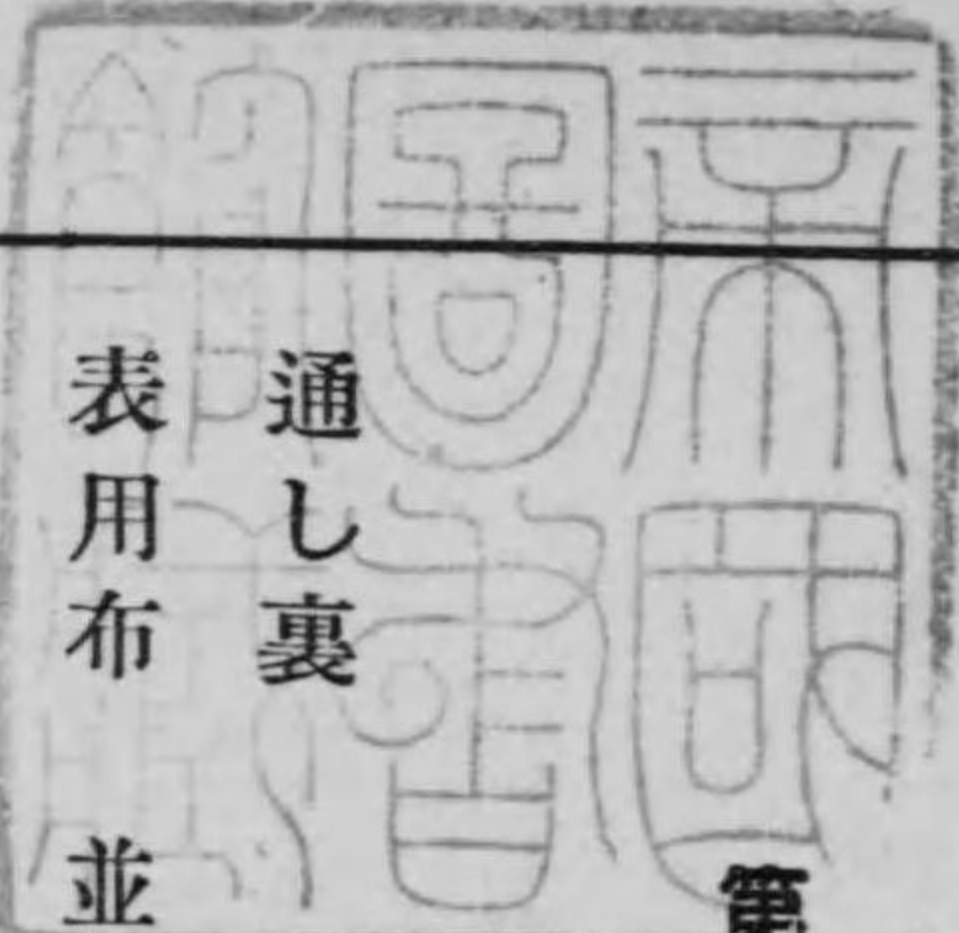
表用布 並幅二丈三尺二寸

裏用布 並幅二丈二尺三寸二分

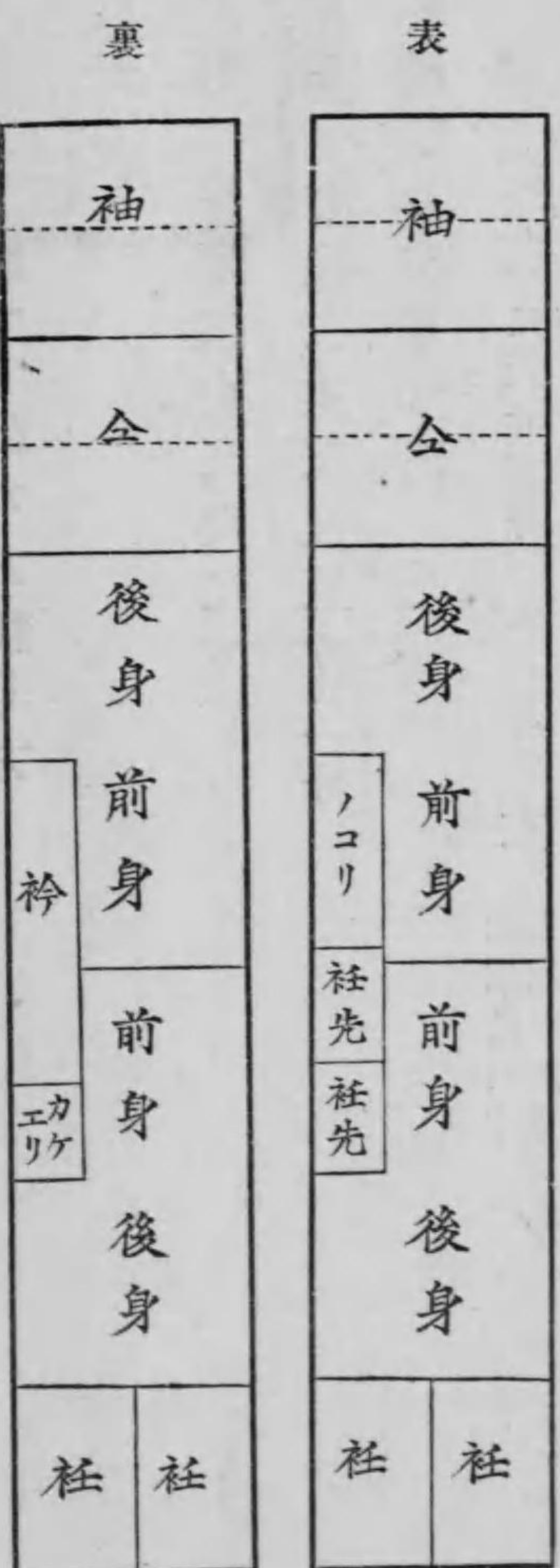
普通裁ち切り寸法

袖丈	一尺六寸五分	身丈	表三尺四寸三分
衿丈	表三尺	衿幅	裏三尺四寸三分
	裏衿二尺		三寸五分

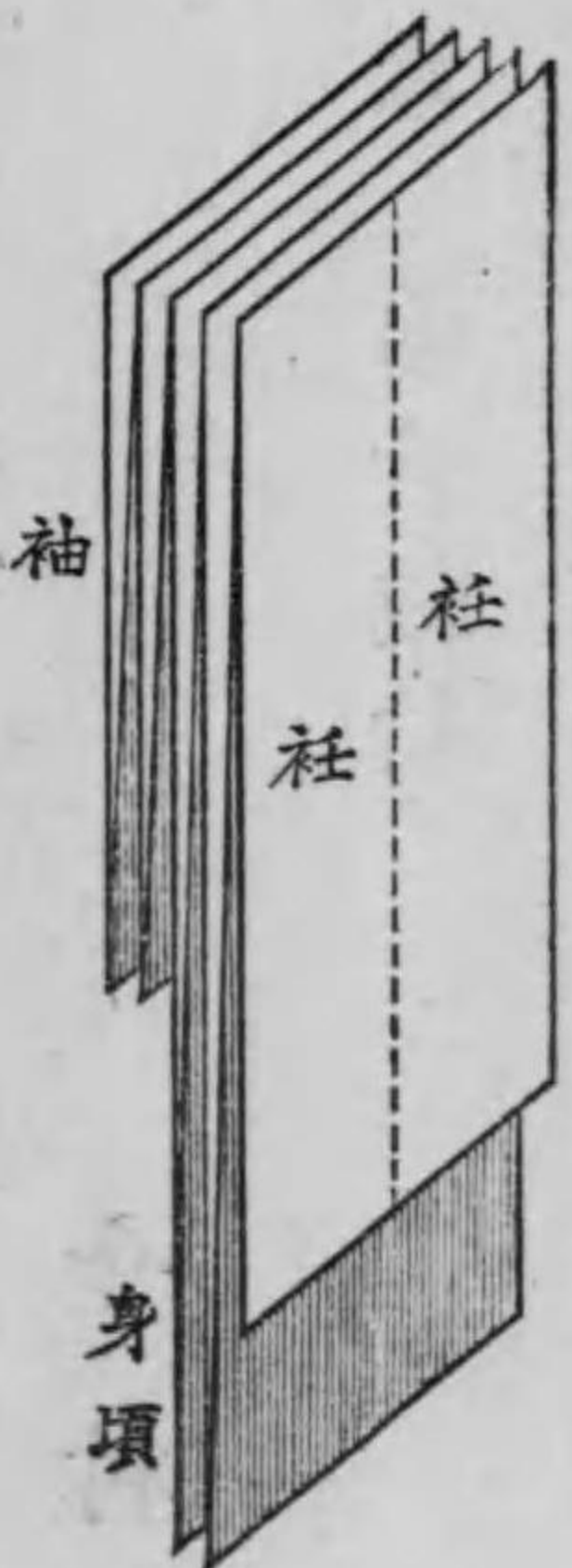
第一章 前衿裁衿



裁ち方の圖



折り方の圖



積り方(表)

$$16.5 \times 4 + (34 \times 5 - 4) = 223.2^{\text{寸}} \dots \dots \dots \text{總丈}$$

之を公式にて示せば左の如し。

$$\begin{aligned} (223.2 - 16.5 \times 4 + 4) + 5 &= 34.3^{\text{寸}} \dots \dots \dots \text{身丈} \\ 34 - 4 \dots \dots \dots &= 30^{\text{寸}} \dots \dots \dots \text{衿丈} \\ \{223.2 - (34 \times 5 - 4)\} \div 4 &= 16.5^{\text{寸}} \dots \dots \dots \text{袖丈} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{總丈} &= \text{袖丈} \times 4 + (\text{身丈} \times 5 - \text{衿下り}) \\ \text{身丈} &= \text{總丈} - \text{袖丈} \times 4 + \text{衿下り} \div 5 \\ \text{衿丈} &= \text{身丈} - \text{衿下り} \\ \text{袖丈} &= \{\text{總丈} - (\text{身丈} \times 5 - \text{衿下り})\} \div 4 \end{aligned}$$

積り方(裏)

$$\begin{aligned} 16.5 \times 4 + (34 + 0.15 \times 2) \times 4 + 20 &= 223.2^{\text{寸}} \dots \dots \dots \text{總丈} \\ (223.2 - 16.5 \times 4 + 14.3) \div 5 &= 34.3^{\text{寸}} \dots \dots \dots \text{身丈} \\ 34.3 - 14.3 = 20^{\text{寸}} \dots \dots \dots & \text{衿丈} \\ \{223.2 - (34.3 \times 5 - 14.3)\} \div 4 &= 16.5^{\text{寸}} \dots \dots \dots \text{袖丈} \end{aligned}$$

之を公式にて示せば左の如し。

總丈 = 袖丈 × 4 + 裏身丈 × 4 + 衿丈
 裏身丈 = 總丈 - 袖丈 × 4 + 衿下り及び衿不足分) ÷ 5
 衿丈 = 身丈 - 衿下り及び衿不足分

袖丈 = {總丈 - (裏身丈 × 5 - 衿下り及び衿不足分)} ÷ 4

注意 右の積り方に於ける一尺四寸三分は、衿下り及び衿丈の不足分即ち裏衿丈は、表衿丈の三尺に衿の分三分を加へたる三尺三分を要するなり。之れより衿丈二尺を減すれば不足分は一尺三分となる、之に衿下りの四寸を加へたるものなり。又積り方の際衿の二倍を加へたる外に裾廻しの破れたるとき、之を切り拂ひても差支なきやう用布若干を加へ置くこと必要なりとす。

裾廻し附

胴裏 總丈一丈五尺九寸六分

裾廻し 總丈六尺八寸

普通裁ち切り寸法

胴裏丈 二尺三寸四分

衿先丈 一尺二寸

裾廻し丈 一尺二寸

衿裏丈 二尺

此の他の寸法は凡て通し裏の時に同じ。

裁ち方の圖



積り方 胴裏

$34 - 12 + 1 + 0.4 = 23.4^{\text{寸}}$ 胴裏丈
 $16.5 \times 4 + 23.4 \times 4 = 159.6^{\text{寸}}$ 胴裏總丈
 又 $(16.5 + 23.4) \times 4 = 159.6^{\text{寸}}$ 胴裏總丈
 $(159.6 - 16.5 \times 4) \div 4 = 23.4^{\text{寸}}$ 胴裏丈

(159.6 - 23.4 × 4) ÷ 4 = 16.5⁺.....袖 丈

之を公式にて示せば左の如し。

胴裏 丈 = 表身丈 - 裾廻し丈 + 縫代(即ち胴接) + 衿 × 2

胴裏總丈 = 袖丈 × 4 + 胴裏丈 × 4

胴裏總丈 = 袖丈 + 胴裏丈 × 4

胴裏 丈 = (胴裏總丈 - 袖丈 × 4) ÷ 4

袖 丈 = (胴裏總丈 - 胴裏丈 × 4) ÷ 4

同 裾廻し

34 - 23.4 + 1 + 0.4 = 12.....裾廻し 丈

12 × 4 + 20 = 68.....裾廻し總丈

之を公式にて示せば左の如し。

裾廻し 丈 = 表身丈 - 胴裏丈 + 胴接縫代 + 衿 × 2

同 總 丈 = 裾廻し 丈 × 4 + 衿 裾 丈

注意 衿裾丈を二尺として衿先の接ぎ代を計算せざるは、裏は衿を要せざるが

故に、胴裏前の裁ち落しを衿先となすを以て丈十分あるが故なり、又胴裏に接ぎ代一寸となしたれども、尙裾の破れたる時の裁ち切り分として、縫ひ込みを多く加へ置くを可とす。

【設問】

前の裁ち切り寸法により、衿裏接ぎなしとして通し裏に積るときは裏地總丈何程を要するか。

右と同じく普通寸法により前衿裁衿裾廻し附裏地を裁つに、裾廻し丈一尺五寸、衿裾丈二尺、胴接ぎ代二寸となさんとせば、胴裏及び裾廻しの總丈は何程なるか。又胴裏丈は何程となるか。

前衿裁の袖丈、身丈を知りて總用布を知るには如何なる算式によるべきか。

第二 前衿裁衿仕立方

一 普通仕立上げ寸法

袂袖

袖丈	一尺六寸	袖口	五寸	袖附	五寸
袖幅	八寸	身丈	三尺三寸五分	身八つ口	二寸五分
衿肩明	二寸	後幅	七寸	肩幅	七寸
衿下り	四寸	前幅	五寸五分	衿下	一尺三寸
衿幅	三寸八分	合襖幅	三寸四五分	衿幅	一寸三分
衽	一分五厘	衽	一尺五寸		

二 標附け方

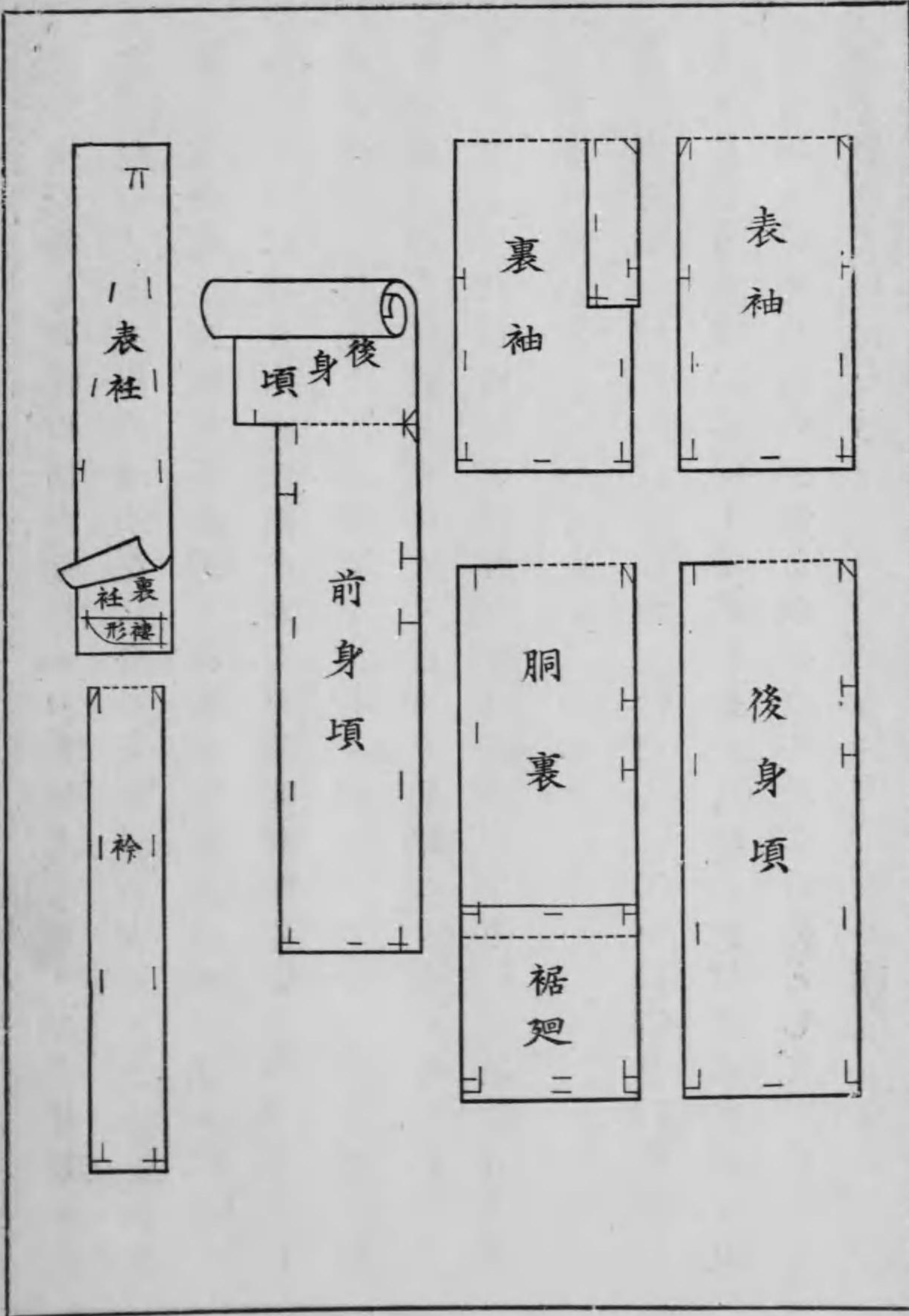
- 一 表袖
- 二 裏袖袖口掛とも
- 三 表身頃
- 四 裏身頃
- 五 表裏の衽
- 六 衿

1 袖 表袖の表を中にして一枚づゝ横に折りて重ね、寸法通り山丈・口明・附幅の標を付け、次に裏袖も表袖の如くに折り、袖口ぎれを幅一分出して載せ、表に準じて標を附くること四つ身

袷の時の如し、裏袖口は表袖口より五厘をつめ、八つ口明は一分をつむること四つ身及び三つ身の時に同じ。

2 表身頃 女物單衣の通り表身頃の表を合せて、後身頃を上にして下に置き、山丈・袖附・身八つ口・後幅・肩幅の標をつけ、次に後身頃を左に開きて前身頃を出し、丈・袖附・身八つ口・後幅等の標を確かにつけ直し、それより衽下り、前幅及び其の中間に標をつくべし。但し前幅を幅廣くなさんとして布幅不足なるときは、前脇の縫込を出すべし。

3 裏身頃 胸裏の表を合せて衿肩より二つに折り、四枚揃へて下に置き、次に裾廻しを四枚揃へて縫込だけ重ねて置き、其の丈は表の丈に衽の二倍と、胸接ぎの着せの分として一分とを加へ、胸接ぎの標を付け、直ちに之を接ぎて並の縫込(五分より一



寸位まで)のものは、胴裏の方へ返し、若し縫込多き時は裾廻しの方
 方に返して隠し縫或は縫襷をかけ、表と同じ方法にて山丈袖附
 身八つ口後幅肩幅及び衤下り前幅抱幅衤附の標をなすべし。
 4 衤 裏の衤先を接ぎて衤先の方に折り返し、胴接ぎを裾の
 方に返したるときは、衤接ぎも亦裾の方に返す、隠し縫をなし、表
 を中にして二枚揃へて下に置き、表衤を衤の二倍ひきて裏衤の
 上に重ね、三つ身衤の時の如く丈衤下衤幅合襷幅衤附衤附の標
 を附け、次に表を除きて裏裾に襷形をのせ、形の通りに標を附
 くべし。
 5 衤 表を中にして丈を二つに折り、山衤肩衤下り衤附及び
 ゆるみの一分を加へて、丈の標をなし、縫代衤幅(衤幅の二倍)等の
 標をなすべし。

三 縫ひ方順序

- 一 表裏の袖
- 二 表身頃及び衿
- 三 裏身頃及び衿
- 四 丈調べ
- 五 裾合せ
- 六 脊脇の縦綴及び身八つ口
- 七 袖附
- 八 衿の縦綴及び衿下縫
- 九 衿附並に衿紵
- 一〇 横綴

1 袖 四つ身衿の時の如く袖口をかけ、表を返して両端を紵け、廻りに平襷及び縫襷をかけ、表裏の袖口を合せて待針をなし、裏袖の縫代を袖口山の處にて五厘淺くし、袖口元は表裏ともに同じ縫代となし、袖口元より五分程の間は裏を斜になして縫ひ、他は縫代を五厘淺くして一針抜き又は刺し縫にして並の着せより稍深くして表の方に折をつけ、丈を二つに折りて袖口元を

四つ留になし、袖口のかゝりある處まで返し針となし、其の他は一針抜き又は刺し縫となして袖下幅標の二三寸手前まで縫ひ廻し、一針返して此の處より裏袖を除き表袖のみを縫ひ、次に裏の残りを裏の共色の絲にて幅標の一分先きまで縫ひ、袂を整へ、表を出して袖口及び袖下に襷をかくべし。
而して表裏の八つ口を合せ、裏を稍張りめ(殊に袖下の處を多く張る)にして待針を打ち、袖下の縫目より袖附の方へ縫ひ上げ、表の方へ折をつけて平襷をかくべし。但し裏袖幅は表袖幅より五厘程ひきて縫ひ置くべし。
2 表身頃及び衿 先づ表身頃を取り、衿肩明をかゝり、四つ身衿の如く脊脇及び衿を縫ひて折をつけ、脇縫込多くして前幅の不足の時は、脊縫の次に衿をつけ、次に脇を縫ふもよろし

次に裏身頃の衿肩明をかゝり脊脇及び衿を縫ひ、脊脇ともに裾口の處一二寸の間にて幅を五六厘縫ひ込むべし、脇の縫込を開きて割り襷をかけ、表裏共に脊脇及び衿の裾口一二寸の間に平襷をかけ、袖疊みとなし、裏を下に置き肩を揃へて表を其の上に重ね、肩へ待針を刺して丈調べをなすべし。

3 裾合せ 表裏の裾口を合せ、裏の方を稍張りめにして各縫目に待針を打ち、表を見て四裾を合せ、縫目毎に返し針をなし、裏を見て左右の襷をあげ、衿だけ隠し襷をなしおき、四裾は一分の着せにて表の方に折を付け、襷の寸法を定めて全體に表裏合せて平襷をかくべし。(但し襷綿を入れるときは一寸幅の綿一枚を二つに折り、裾口先へ平らに入れ、次に平襷をかくべし)

4 脊脇の縫綴及び身八つ口 表裏の脊縫を合せて待針をなし、表を見て七八分の針目にて衿肩の方よりあらく綴ち、裾口一二寸手前にて打ち留をなして絲を切り、次に兩脇を綴ちつけ、それより脇明のところは前身頃にて後身頃を挟みて四つ留をなし、身八つ口を袖附の標まで縫ひ、並の着せにて表の方に折り返し平襷をかくべし。

5 袖附 表身頃の山標と袖山とを合せて待針をなし、袖の方を稍弛めに内外共に四つ留をなし、先づ表袖をつけて(山の處二三寸は小針に縫ふ)袖の方に折り返し、次に裏袖をつけ又袖の方に折をつけ何れも平襷をかくべし。

6 衿の縫綴及び衿下縫 表裏の衿附を合せて劔先より裾口まで縫綴をなし、次に衿の幅標を合せて待針を打ち、(但し裏衿幅を五厘せまく)襷先を揃へ衿下標の處まで縫ひ、表を出して表

裏合せて平膝をかくべし。

7 衿附並に衿紵 表裏の衿附を合せて膝絲にて綴ちおき、衿の山と脊縫とを合せて待針を打ち、尙衿肩衿先合襖其の外中間にも待針をなし、劔先二三寸の間は返し針又は一針抜に縫ひ、順次上前の方に縫ひ行き、始め終りは抄ひ留をなして返し縫をなすべし。それより衿先を三つ留となし、其の留より一分先の處衿先を縫ひ裏の方に返して縫込を綴ちつけ、三つ衿を入れ、幅を定めて折りをつけ、衿先衿肩衿肩脊縫等に待針をなし、衿の歪まぬ様平らになして下前より順次上前まで紵け行くこと三つ身及び四つ身衿の如し。

8 横綴 裾に横綴をなすこと四つ身衿に同じ、掛け衿あるものは之を掛け、絲屑ちり等をはらひ、烙鏝或は火熨斗をあて、仕上げをなすべし。

【設問】

四つ身と前衿裁と異なる點を述べよ。
前衿裁の裁ち方、積り方を問ふ。
前衿裁は何歳位のもの、着用すべき衣服なりや。

第二章 本裁女衿

第一 裁ち方、積り方

表用布 本裁女單衣に同じ。(卷一、二、三、四頁参照)
裏用布 胴裏丈 二丈一尺六寸二分
裾廻し丈 七尺六寸

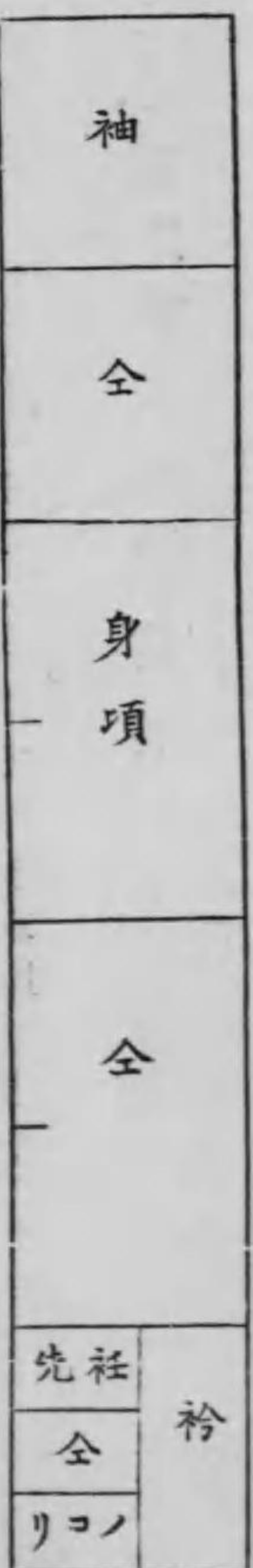
裏の寸法は前にも述べたる如く表に準じて定むべく、又縫ひ込みの多少によりても異なるものなれども、左に女物單

衣の時の裁ち切り寸法に準じて、胴裏並に裾廻しの普通裁ち切り寸法を擧ぐべし。

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸 胴裏丈 二尺八寸三分 衿裏丈 三尺九寸
 裾廻し丈 一尺二寸 衿裾丈 二尺三寸 衿先 五寸

裁ち方の圖



胴裏裁ち方及び折り方の圖



裾廻し裁ち方の圖



右の裁ち切り寸法によりて、積り方を示せば次ぎの如し。但し鈎衿裁ちにても、積り方の算法は之に同じ。

表身丈 裾廻し丈 縫代 衿裏丈
 $39 - 12 + 1 + 0.15 \times 2 = 28.3^{\circ}$ 衿裏丈
 表衿丈 衿先 縫代 衿裏丈
 $47 - 10 + 2 = 39^{\circ}$ 衿裏丈
 袖丈 胴裏丈 衿裏丈
 $(16 + 28.3) \times 4 + 39 = 216.2$ 胴裏總丈
 表身丈 胴裏丈 縫代 衿裏丈
 $39 - 28.3 + 1 + 0.15 \times 2 = 12$ 裾廻し丈
 裾廻し丈 衿裾丈 衿先
 $12 \times 4 + 23 + 5 = 76^{\circ}$ 裾廻し總丈

【設問】

女物衿地として表用布二丈八尺、胴裏用布二丈二尺の布あり、之に要する裾廻しの總丈如何。但し袖丈は一尺五寸五分、裏の衿先六寸、他は普通とす。

並幅九尺の用布にて袖口ともの裾廻しを裁たんとす、如何なる裁ち方によるべきか。但し衽裾丈二尺五寸とす。

第二 本裁女衿仕立方

一 普通仕立上げ寸法

本裁女單衣仕立上げ寸法に同じ。(卷一、二、三、九頁参照)
但し衽は一分五厘とす。

二 標附け方

- 一 表袖
- 二 裏袖袖口掛とも
- 三 表身頃
- 四 裏身頃
- 五 表裏の衽
- 六 衽

1 袖 表袖の表を中にして一枚づゝ横に二つに折りて重ね、寸法通り、山・丈・口明・附・幅の標を附け、次に裏袖も表袖の如くに

折り、袖口ぎれを幅一分出して載せ、表の通り標をつくべし。但し丈は表より口明にて五厘、八つ口にて一分をつむること、四つ身衿の時の如くすべし。

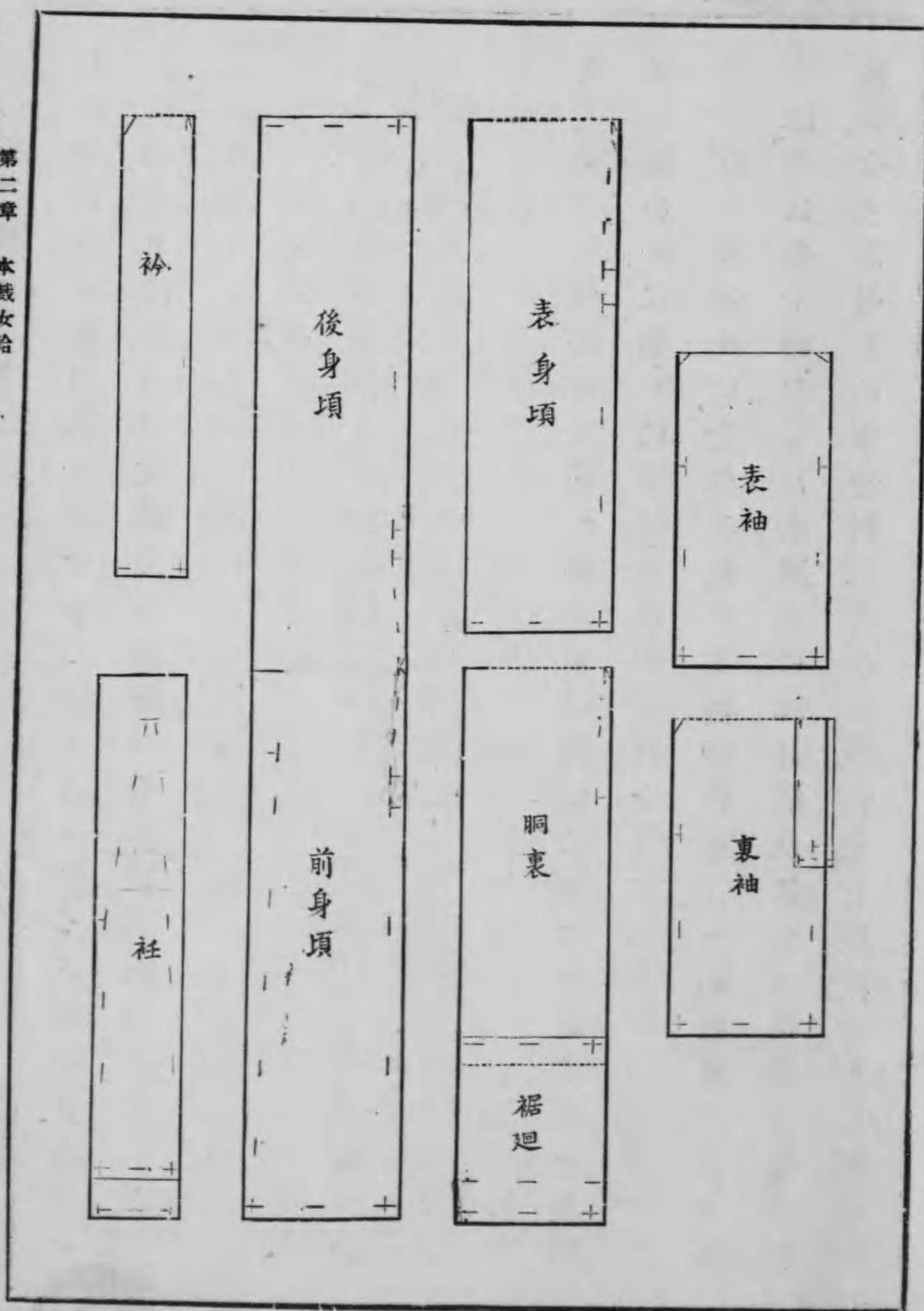
2 表身頃 單衣の通り、表身頃の表を合せて衿肩より二つに折り、後身頃を上にして下におき、山・丈・袖・附・身八つ口・後幅・肩幅の標をつけ、次に後身頃を左に開きて前身頃を出し、丈・袖・附・身八つ口・後幅等の筥標を確かにつけなほし、それより衽下り・前幅・抱幅及び其の中間に標をつくべし。但し裾口三四寸の間は、凡そ眞直に標すること單衣の時の如し。

3 裏身頃 胸裏の表を合せて衿肩より二つに折り、四枚揃へて下に置き、次に裾廻しを四枚揃へて上に載せ、丈をはかりて(丈は表の丈に衽の二倍と胸接ぎの着せの分として一分を加ふ)

胴接ぎの標を附け、直ちに之をはぎて並の縫ひ込み一寸位までのものは胴裏の方に、又縫ひ込み多きものは裾廻しの方に返して隠し、襷をかけ、後、表に準じて山丈袖附身八つ口、後幅、肩幅及び衽下り、前幅、抱幅、衽附の標をなすべし。

4 衽 裏の衽先きをはぎ、衽先の方に折り返して、(胴接ぎを裾の方に返したるときは、衽も亦裾の方に返す) 隠し、襷をなし、表を中にして二枚揃へて下に置き、上に表衽を襷の二倍ひきて置き、単衣の通り丈、衽下幅、合襷幅、衽附衽附の標をつけ、次に表を除きて裏裾に襷形を載せ、形の通りに標をつくべし。

5 衽 裏衽に衽先の布をはぎ、裏衽の方に返して(衽のときと同じく胴接ぎを裾の方に返したるときは、衽先切れの方に返す、何れにても、四裾と、衽と、衽先とは、同じ方向に折り返すものとす) 隠



し、襷をなし、單衣の通り表を中にして二つに折り、裏を下に表を上にして下に置き、山丈縫代の標をつくべし。

三 縫ひ方順序

- 一 表裏の袖
- 二 表身頃及び衽
- 三 裏身頃及び衽
- 四 丈調べ
- 五 裾合せ
- 六 脊脇の縦綴及び身八つ口
- 七 袖附
- 八 衿の縦綴及び衿下縫
- 九 衿附並に衿衿
- 一〇 横綴

1 袖 三つ身衿の時の如く、先づ裏袖に袖口をかけ、表を返して両端を衿け、廻りに平襷及び縫ひ襷をなすべし。

それより表裏の袖口の處にて裏袖の縫代を幅五厘ひきて表の山標に合せ、袖口元は表裏共に同じ縫代にして待針をなし、口明元より五分程の間を斜に縫ひて縫代を五厘淺くし、口明を一

針抜き又は刺縫ひにし、表の方に折りをつけ、並の着せより稍深くす袖口下に四つ留をなし、此の絲にて袖口ぎれのある處迄返し針に四つ縫ひにし、夫れより袖下の幅標より二三寸手前まで縫ひ廻し、一針返して此の處より裏袖を除きて表袖のみを縫ひ、次ぎに裏の残りを共色の絲にて幅標の一分先きまで縫ひ、袂を整へ、表を出して袖口及び袖下に襷をかくべし。

次ぎに表裏の八つ口を合せ、裏を稍張りめ、殊に袖下を多く張るにして待針を打ち、袖下の縫ひ目より兩方に縫ひ上げ、表の方に折りて平襷をかくべし。但し八つ口を縫ふには、裏の袖幅を表の袖幅より少しく減きて縫ふべし。

2 身頃及び衽 先づ表身頃を取りて衿肩明をかゝり、三つ身衿の時の如く、脊脇及び衽を縫ひて折りをつくべし。

次ぎに裏身頃の衿肩明をかゝり、脊脇及び衿を縫ひ、脊脇共に裾口のところにて幅を五六厘程つめて縫ふべし。裏を出して袖疊みとなして下に置き、前に縫ひたる表身頃も亦裏を返して袖疊みとなし、裏身頃の上に載せて待針にて留め、能く丈調べをなし、脇の縫ひ込みを開きて割り躰をかけ、表裏共に脊脇及び衿の縫ひ目に、上下五六寸づゝの間平躰をなすべし。

3 裾合せ 表裏の裾口を合せ、裏の方を稍張りめにして各縫ひ目に待針を打ち、表を見て四裾を合せ、縫ひ目毎に返し針をなし、裏を見て左右の裾をあげ、このところは隠し躰をなし、おき、後、一分の着せにて全體に折りをつけ、衿の寸法を定めて總體に表裏合せて平躰をかくべし。

但し衿綿を入れるものは、一寸幅程の綿一枚を二つに折りて

躰をかくる前に入れおくべし。

4 脊脇の縦綴及び身八つ口 表裏の脊縫を合せて待針をなし、表を見て一二寸の針目にて衿肩の方よりあらく綴ち行き、次ぎに兩脇を綴ちつけ、それより脇明のところは前身頃にて後身頃を挟み、四つ留をなし、身八つ口を袖附の標まで縫ひ、並の着せにて表の方に折り返し、平躰をかくべし。

5 袖附 表身頃の山標と袖山とを合せて待針をなし、袖附の標を合せて袖の方を稍緩めに内外に四つ留をなし、先づ表袖をつけて(山の處二三寸の間小針にす)袖の方に折り返し、次ぎに裏袖をつけて又袖の方に折り返し、何れも平躰をかくべし。

6 衿の縦綴及び衿下縫 表裏の衿附を合せて劔先より四五寸下まで縦綴をなし、次ぎに衿の幅標を合せて待針を打ち、袷先

を拵へ、衿下標の處まで縫ひ、表を出して平臈をかくべし。

7 衿附並に衿紵 表裏の衿附を合せて、綫糸にてあらく綴ち
おき、衿の表裏にて身頃を挟み、單衣の時の如く脊、衿肩廻し、劔先
及び衿の衿附等に待針を打ち、能く釣り合を見て下前の方より
四つ縫になし、劔先二三寸の間は返し針又は一針抜に縫ひ、衿肩
廻しは小針に、脊は一針返して順次上前の方に縫ひ行き、始め終
りは抄ひ留をなして、返し針をなすべし。

それより衿先を縫ひ、留より一分さき裏へ返して縫ひ込みを
綴ちつけ、三つ衿を入れ、幅を定めて折りをつけ、裏衿を表より二
分狭く折り、之を表に合せて一分五厘程ひきて紵け、裏衿の幅を
稍張りめにす、裾に横綴をなし、掛け衿あるものは之をかけ、後、仕
上げをなすべし。但し横綴の針目は、前身頃は縫ひ目を除きて、

表に七針裏に三針、後身頃は同じく縫ひ目を除きて、表に九針裏
に四針を出し、各縫ひ目には三つ身衿の時の如く表裏に出すも
のとす。

注意 袖の縫ひ方は前に説きたるものと異なる方法あり、その仕方は先づ袖口
を合せて四つ留をなしたる後、袂の角迄縫ひ、次ぎに袖下を縫はずして内外の
八つ口を縫ひ、それより内袖にて外袖を包み、八つ口の折りは表の方に返して
袖下を四つ縫になすなり、こは袖下の縫ひ目は内袖の方稍厚くなる嫌あれど
も、時間を要すること少きを以て、粗末なるものは此の仕立を用ふることあり

【設問】

胴接ぎの返し方を述べよ。

古き衣服を仕立換ふるに當り注意すべき箇條を述べよ。

女衿衿附の仕方を問ふ。

第三章 本裁男袴

第一 部分縫(袖縫ひ方)

標附け方 並幅二尺五寸の運針用布二枚と一尺八寸の四つ割りぎれ一枚とを取りて表裏の袖及び袖口ぎれと看做し、表を中にして二つに折り、先づ表袖に男物單衣の通り丈・口明・人形・幅及び丸みの標をつけ、次に裏袖の上に袖口ぎれを載せて袖口掛の標をなし、のち表に準じて各部分に標をつくべし。

但し口明は、表より五厘若くは七厘程(地厚の袖口ぎれをかけたる場合)をつむるものとす。

縫ひ方 裏袖に袖口をかけ縫代を幅五厘ひきて表袖と合せ袖口を稍張りめにして女物の如く袖口元の標を合せて待針をな

し、口明を一針抜き又は刺縫ひにし、少しく深目に着せを掛けて表の方に折り、袖口下を四つ留にし、其の絲にて袖口ぎれのある處まで返し針に、其の他は一針抜きに袖下まで四つ縫ひにし、人形の處は表裏別々に縫ひ、外袖の幅の縫ひ込みを斜に開きて表裏綴ち合せ、次に袖の丸みを拵へ、表を出して躰をかくべし。

注意 袖幅の縫ひ込み多きときは、幅標より二寸程手前まで四つ縫ひになし、残りには表裏別々に人形の標まで縫ひ、外袖を斜に開きて表裏綴ち合はすべし。

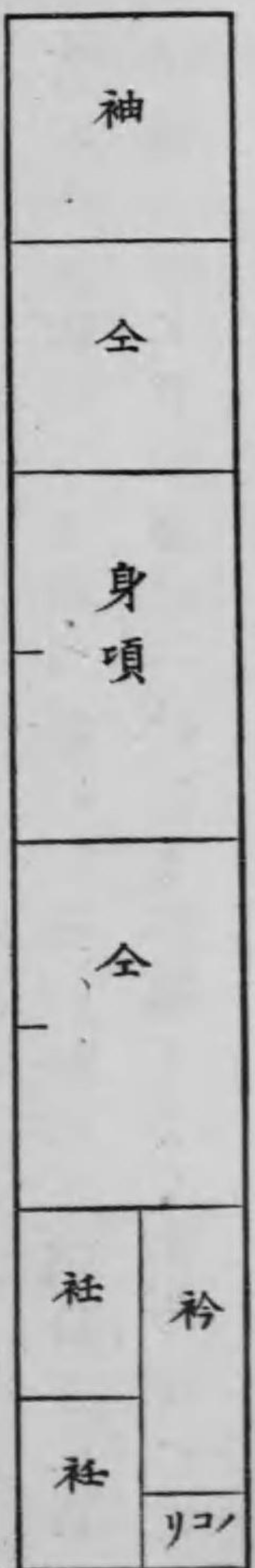
第二 本裁男袴裏地裁ち方

男物の裏は女物と異なり、大方通し裏を用ふるものなれば、その裁ち方は表と同じく、唯丈に於て衽の二倍を長くなすと、鉤衽ならば第二圖の如く鉤の切り込み方を表と反對になすとの差

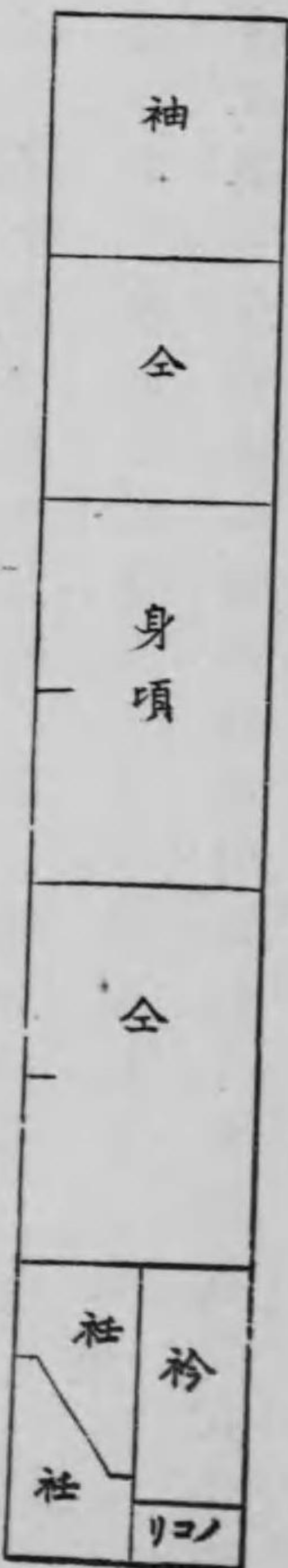
あるのみなり。又丈短きものを棒衤になさんとせば、第三圖の如く衤にて山接ぎをなすやうに裁つべし、是れ男物は何れも衤衤なれば、裏衤にて山接ぎをなすも見苦しき事なきを以てなり。

注意 裏の寸法は凡て表に準じて定むべきものなれば、こゝに記載せず、又裏地の丈十分あるときは、衤の二倍の外一、二寸程長くして揚をなしおくべし。通し裏に揚なきときは、裾の破れたるときこれを取り拂ふ便なくして、甚だ不經濟なるものなれば、裁ち方の際能く注意して、なるべく揚を多くするやう裁ちおくべし。

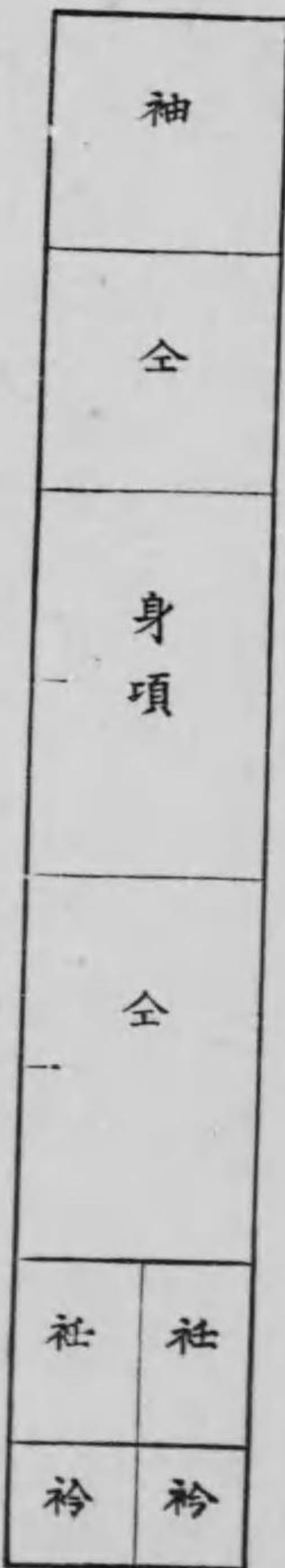
第一圖 男物裏棒衤の裁ち方



第二圖 男物裏鈎衤の裁ち方



第三圖 男物裏棒衤山接ぎの裁ち方



【設問】

幅に縫ひ込みある男物衤袖の縫ひ方を述べよ。
男物衤につき表の「裁ち方」と裏の「裁ち方」と異なる所を述べよ。

第三 本裁男衤仕立方

一 普通仕立上げ寸法

本裁男單衣の仕立上げ寸法に同じ。(卷一、二五、六頁参照)
但し衽は一分とす。

二 標附け方

- 一 表袖
- 二 裏袖袖口掛とも
- 三 表身頃
- 四 裏身頃
- 五 表裏の衽
- 六 衽

- 1 袖 部分縫の通り表裏の袖に標をつくべし。
- 2 表身頃 後前共に單衣の通り標をなすべし。
- 3 裏身頃 左右の身頃の表を中にして下に置き、表の丈より衽の二倍を長くして裾口の方よりはかりて丈を定め、残りは圖

の如く肩にて揚の標をなし、後、表に準じて標をつくべし。
但し裾廻しを附くる場合には、胴裏と接ぐところにて縫ひ込むこと女物に同じ。



4 衽衿共に第二章女物衿に同じ。

三 縫ひ方順序

- 一 表裏の袖
- 二 表身頃及び揚
- 三 裏身頃及び揚
- 四 丈調べ
- 五 裾合せ
- 六 脊脇の縦綴
- 七 袖附
- 八 裄上げ及び衽附
- 九 衿附並に衿衿
- 一〇 横綴

- 1 袖 部分縫の通り左右の袖を縫ひ、表を出して、裏をかくべし。
- 2 表身頃 先づ衿肩明をかゝり、脊を縫ひ、後前の揚をなし、裾の方に返して平裏をかけ、脇布を見て上前は裾口より、下前は脇明の標より縫ひ始め、上下共に返し針をなすべし。
- 3 裏身頃 衿肩明をかゝり、脊を縫ひ、揚のところは衿肩明まで標の通り小針に縫ひ、左右に開きて、縫ひ目より二分程はなし、隠し裏をかけ、表の通り兩脇を縫ひ、(裾口のところにて五六厘をつむること女物の時に同じ)返し針をなすべし。
- 4 丈調へ・裾合せ・縫綴 女物の時の如く表裏共に裏を出して袖畳みとなし、裏を下に表を上に乗せて待針をなし、能く丈及び幅を調べ、次に表は揚のところまで、裏は二分の着せにて裾口

まで後身頃を開きて割り、裏をなし、表裏共に上下五六寸の間平裏をかけ、裾口のところ表裏の縫ひ目を合せて待針をなし、表の方を見て四裾を合せ、襷を不同なく定めて表裏通して裏をかく、次に脊及び兩脇を綴ちおくべし。

- 5 袖附 表の袖山と肩山とを合せて待針をなし、袖の方をやや弛めにして袖附元のところは表袖にて身頃の表を包み、單衣の時と同じ仕方にて四つ留をなし、此の絲にて直ちに表袖をつけ、次に裏も表の通り山標を合せ、表と反對に身頃の方に裏袖を包み、四つ留をなし、表の縫代にも一針かけて留め、此の絲にて裏袖をつけ、終りは一針返して打ち留をなすべし。それより表は袖の方に、裏は身頃の方に折りをつけ、表を出して何れも平裏をかくべし。

次ぎに前幅の表裏を合せ、處々に待針を打ち置き、衽附の標を正して一分程縫代によりたる方を綴ち置くべし。

6 裷上げ及び衽附 左右の裷を拵へ、隠し躰をなし、表裏の衽にて前身頃を挟み、衽の方をやや弛めにして待針を打ち、裾口のところは能く折り目を合せて確とまき、一方を掛け針にて張り、絲留をなして、裾口の方より一針抜き又は四五針づゝ縫ひて絲を引き、縫ひ目の縮まぬ様十分絲扱きをなし、劔先の留は單衣の通りに斜に縫代の方に縫ひ行き、並の着せにて表の方に返し、劔先及び裾口五六寸の間は平躰をかけ、それより裷先を拵へ、衽下を縫ひて綴ちかけ、後、表裏合せて衽附を躰ち置くべし。

注意 地質厚き品は、女物の時の如く衽を表裏別々につけおき、後綴ちおくべし。

7 衽附並に衽拵 表裏の衽の山標を脊の縫ひ目に合せ、身頃

を挟みて待針をなし、女衿の時と同じく下前より一針抜きに四つ縫ひにし、劔先及び衽肩廻し、脊縫等にては返し針或は小針に縫ふなど、すべて女物と同じ仕方にて縫ひ、附け始め及び終りは抄ひ留をなし、衽先を縫ひ、裏に返して縫ひ込みを綴ちつけ、三つ衽を入れ、衽幅を定めて折りをつけ、衽先の縫ひ込みを斜に折りて綴ちつけ、次ぎに幅を二つに折りて脊、衽肩、劔先、及び其の他にも待針をなし、單衣の時の如く衽附より一分五厘、衽先より二分程離れたるところに、表裏共に小さく一針出してかたく留め、後、下前より拵け行き、終りも前の如くして留め、二三針拵け戻して縫ひ目の間にて打ち留をなすべし。

8 横綴 横綴の針數及び其の仕方はすべて女衿に同じ。

右終らば、縞目を合せて掛け衽をかけ、絲屑等を取り除き、先づ

裏を返して烙鏝をかけ、後表を出して仕上げをなすべし。

【設問】

男袴の普通仕立上げ寸法を問ふ。

仕立方に於て女物と異なるところを述べよ。

掛け袴の掛け方につき注意すべき事項を述べよ。

第四章 本裁女綿入

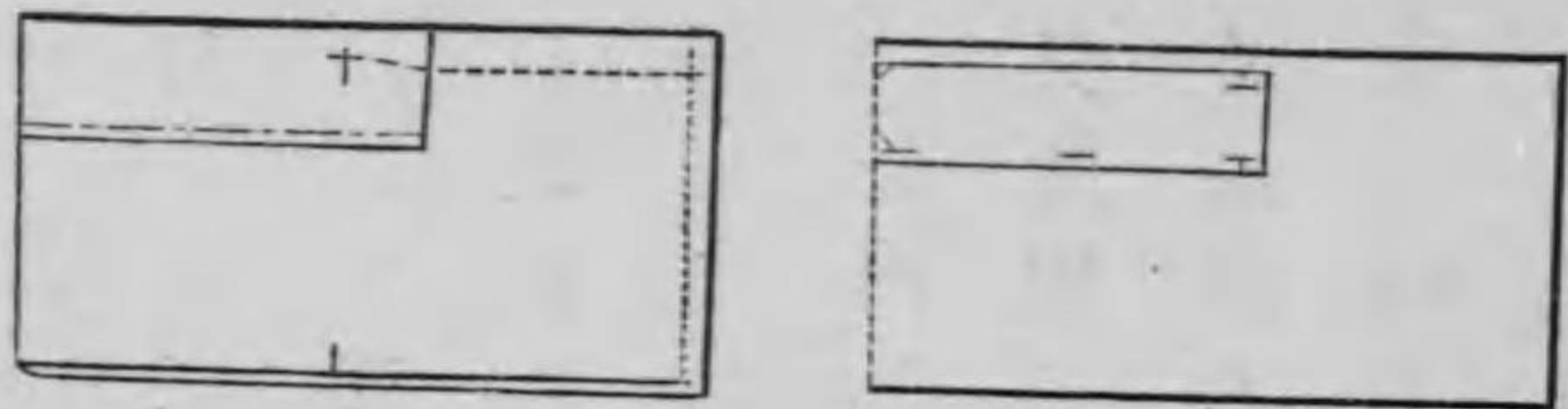
第一 部分縫(袖縫ひ方)

標附け方 並幅二尺五寸の運針用布二枚と一尺八寸の四つ割りぎれ一枚とを取りて、表裏の袖及び袖口ぎれと看做し、表を中にして二つに折り、先づ表袖に袴の時の如く丈口明・附幅の標をつけ、次に裏袖の上に袖口ぎれを圖の如く幅一分ひきて載せ、

袖口掛の標をなし、のち表に準じて各部分の標をなすべし。

但し裏袖丈及び袖口明は、表より五厘をつめ、八つ口のところは更に一分をつむ、又裏の幅狭くして袖口ぎれより一分を出すこと能はざるときは、袖口下に一寸幅程の持ち出しぎれをつけ、このきれより一分減きて袖口ぎれを載せ標をなすべし。又袖口襷は一分五厘出すものとして、その倍即ち三分だけ、表の袖幅より廣くして標しておくべし。

縫ひ方 標の通り先づ裏袖に袖口ぎれをかけ、表裏の袖を縫ひ、裏袖は袖口明の標の五分程下より圖の如く斜に五厘程縫ひ出しおく、引き返して平襷をかけ、袖口に含み綿をなすべし。含み綿は並の青梅綿二枚若しくは三枚



を重ね、薄きものは三枚、長さは口明の二倍より二寸程長くし、最初先づ一寸幅のもの一枚を切り、次に六七分幅のもの一枚若しくは二枚を切り、其の上に載せ、左の食指を真中より稍、向ふにあて、順次に右手にて二つに折り、其の上を手にて能く壓へ、綿の離れぬやうになし、夫より真中を袖の山標に合せ、下方を掛け針にて張り、口明の五分程下より含め始め、口明の處にて小さく一針出し、これより五分程先きの處にて袖口衽だけ幅を出して、又此處に針を出し、綿を弛めに含ませつゝ、一つ身綿入の時の如く一針おきに綿のみを抄ひ、表には極めて小針に出して刺縫ひにて綴ち行き、山の處は中央より一分づゝ離して左右に針目を出し、順次前の如くして向側をも綴ち行くべし。又袖口の表に出づる針目は、一寸二三分の隔りとし、豫め其の數を見計ひてチ

ヨークにて標しおくべし。

次に八つ口に含み綿をなす。其の仕方は、一つ身綿入と同じく、先づ七八分幅に綿を切り、これを二つに折りて裏の袖幅標より五厘つめて折りをつけ、袖口の時の如く、折り角より三四分下りて一寸程の針目にて綴ち行くべし。



斯くて袖口八つ口共に綿を含め終らば、表裏袖の山標を合せ、寸法通りに袖口衽を出して、口明元より五六分の間は少しく表を張りめに、他は表を弛めにして待針をなし、口明元は圖の如く表裏合せて四つ留をなし、此の絲にて直ちに袖口を三分程の針目にて拵け行き、終らば口明下より袂のところまで綴ち置くべし。又

袖口元のところは、五六分程の間は、袂の如く丸く袖口を出し、表に皺等出来ぬやう注意して、紵け行くべし。

それより八つ口の表裏を合せ、表を弛めにして、殊に袖下を稍多く弛めに待針を打ち、一つ身綿入の時の如く、紵け行くべし。

注意 綿入の袖口は、袂と同じく衣服仕立方中の要所なれば、種々の地質につき十分練習して、巧に縫ひ上げんことを務むべし。

【設問】

綿入袖口掛の標附け方を述べよ。

袖口下に持ち出し、ぎれをつくるは何故なるか。

袖口の四つ留の仕方を述べよ。

袖口は如何にせば美事に紵け上ぐることを得べきか。

第二 本裁女綿入裁ち方積り方

裁ち方積り方共に本裁女衿に同じ。(本書一八、一九頁参照)

【設問】

並幅二丈九尺の布にて女綿入の表を裁たんとするに、袖丈一尺七寸五分、衿下り五寸として、衿裁ちにせば、身丈何程となるか。

又之に要する裏地、及び裾廻しの總丈を問ふ。

但し衿三分、胸接ぎの縫ひ込み一寸五分、裾廻しの高さ一尺三寸、衿裏裾丈二尺五寸、衿先五寸として計算すべし。

前題に於て、表地を鈎衿裁ちとせば、身丈何程となるか。

第三 本裁女綿入仕立方

一 普通仕立上げ寸法

本裁女單衣仕立上げ寸法に同じ。(卷一、二三九頁参照)

但し袖口衿一分五厘、裾衿二分五厘若しくは三分とす。

二 標付け方

- 一 表袖
- 二 裏袖袖口掛とも
- 三 表身頃
- 四 裏身頃
- 五 表裏の衽
- 六 衿

1 袖 表裏共に部分縫の時の如く標をなすべし。

2 身頃 衿の通り先づ表身頃に山丈袖附身八つ口後幅肩幅前幅抱幅衽下り衽附の標をつけ、次に胴裏の上に裾廻しをおきて胴接ぎの標をつけ、表に準じて各部分に標をなすべし。但し裏丈は表丈より衽の二倍と、外に胴接ぎの着せの分一分を長くして標すること、衿の時の如くすべし。

3 衽 裏の衽先をはぎ、衽先の方に折り返して隠し襷をかけ、衽の二倍出して表と合せ、裏を下に表を上にして板上に置き、衽

の通り丈衽下幅合襷幅衽附衿附の標を付け、次に表を除きて裏衽に襷の標をつくべし。

4 衿 裏衿に衿先の布をはぎ、裏衿の方に折り返して隠し襷をかけ、衿の時の如く表裏共に表を中にして二つに折り、裏を下に表を上にして下におき、山丈縫代の標をなすべし。

注意 裏の衿丈長きときは、衿先をはぐ處にて縫ひ込むべし。

三 縫ひ方順序

- 一 表裏の袖
- 二 表身頃及び衽
- 三 裏身頃
- 四 後前の裾廻し
- 五 胴接ぎ
- 六 裏の衽
- 七 丈調べ
- 八 表裏の衿及び袖附
- 九 裾合せ
- 一〇 袖口及び八つ口の含み綿
- 一一 綿入れ
- 一二 裾の假綴
- 一三 袖口衿
- 一四 八つ口衿

一五 衿下衿

一六 衿綴及び衿衿

一七 縦綴

一八 横綴

一九 掛衿

1 袖 部分縫の通り裏袖に袖口をかけ、表裏の袖を縫ひ、引き返して、裏をかくべし。

2 表身頃及び衿 表身頃の衿肩明をかゝり、脊脇及び衿を縫ひて、衿の時の如く、絲留をなして折りをつくべし。

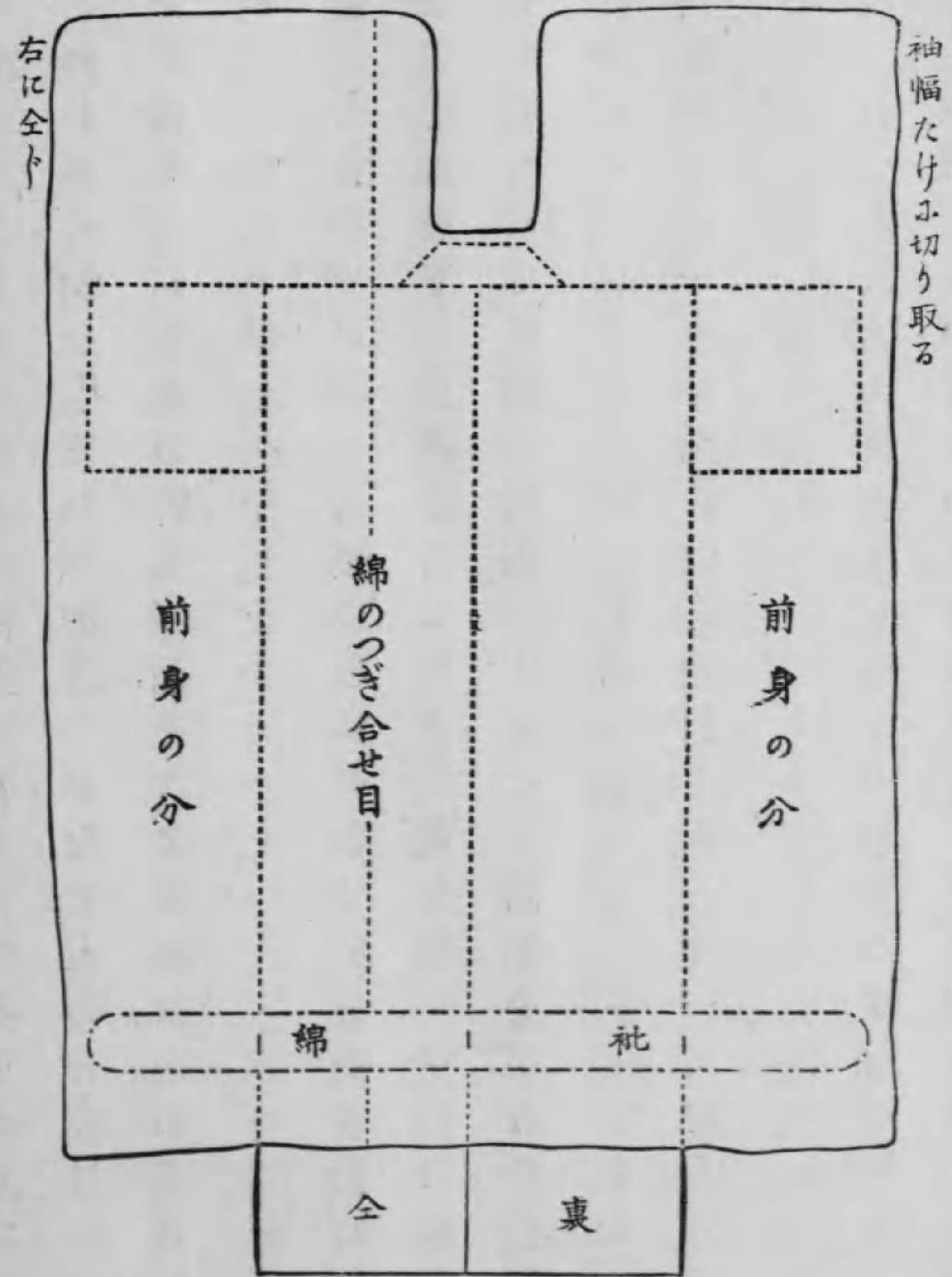
3 裏身頃 裏の衿肩明をかゝり、脊及び両脇を縫ひて、絲留をなし、次に後前の裾廻しの脊及び脇を縫ひ、裾口は衿と同じく幅を少しくつめて縫ひ、並の着せにて折りをつけ、脇は胴裏も裾廻しも縫ひ込みを開きて割り、裏をなし、各縫ひ目には何れも平裏をかけ、それより胴接ぎの標を合せてはぎ、胴裏の方に返して、隠し裏をなし、次に衿をつけて、平裏をかくべし。

4 丈調べ及び表裏の衿並に袖附 表裏共に裏を返して袖疊みとし、裏を下に表を上にして丈調べをなし、表の脊脇及び衿に平裏をかけ、次に表裏の衿及び袖をつけ、表袖は袖の方に、裏袖は身頃の方に折り返して平裏をかくべし。

5 裾合せ及び含み綿 表裏の裾口を合せ、裏を張り目にして待針をなし、表を見て四裾を合せ、次に裏を見て左右の裾を揚げ、一分の着せにて、襷先五厘隠し裏をなし、四裾及び表の衿下には平裏をかけ、袖口及び八つ口に含み綿をなし、次に裏を返して夜具疊みとし、一つ身綿入の時の如く表を伸べて綿を入れるべし。

6 綿入れ 表身頃の後を出してひろげおき、襷綿を作るべし、襷綿は先づ二寸幅の綿を長くひろげおき、これに一寸幅の綿二

綿の入れ方の圖



枚を中央より少しく一方によせて重ね、二つに折り、丈は總體の幅を合せたるものに二三寸を加へたる長さとなしおくべし。

次に伸びたる後身頃に眞綿をひき、袖は附より裏の方に折り返し置き、其の上に圖の如く綿を表より丈幅を出して縦に擴げ、丈は上を袖附だけ、下は衽標より四寸程出し、幅は前幅・衽幅を合せたるものより一寸程廣くなしおく、敷き切れに附け綿をなし、裾綿を返して前に拵へおきたる衽綿を載せ、上より之を包み、袖附の處にて綿を切りて前身に入る、分となし、上に眞綿を引き、衽綿の動かぬやうに裾の處に二尺指をおき、前に疊み置きたる裏を順次に其の上に伸へ行き、袖の足らぬ處には別に綿を入れ、脊線の片よらぬやう能く表裏を合せ、眞綿を引き、残しおきたる綿をその上に載せて丁寧につき合せ、衽下の處は別に八分幅

程の綿一枚をのせ、下の綿と共に二つに折り、袂先を拵へ、また總體に眞綿を引き、表の袖口明より手を入れて袖を半ば返しおき、次に衿及び衿下のところより手を入れて表をかぶせ、能く引き伸ばし、次に片前も同じ仕方にて入るべし。斯くて全體入れ終らば、肩の處に兩手を入れ、兩脇共に表裏の縫ひ目を合せて十分引き伸ばし、次に袖及び裾をよく引き合はすべし。

7 假綴及び衿付け方 綿を入れ終らば、直ちに裾及び衿下に假綴をなすべし。裾の假綴は一つ身の時の如く、表を見て裾を己れの方にむけ、針にて能く綿を引きよせつゝ、裾口より五六分上のところを躰絲にてあらく綴ちゆき、又衿下は裏衽に綿を含め、躰絲にてあらく綴ち置くなり。

次に部分縫の通り袖口及び八つ口を衿下は絲を綿に

通して衿付け、表裏の衿を綴ち合せ、衿附の始め終りに四つ留をなし、衿先を縫ひ、裏に返して綴ちつけ、三つ衿を入れ、衿の時の如く裏の衿幅を二分狭く折り、稍幅を張りめにして表に合せ、綿は總べて表に含み、眞中及び所々に待針をなして、裏の方を見て三四分の針目にて衿付けあぐべし。

8 縦綴・横綴・掛衿 能く表裏の縫ひ目を合せ、脊及び上前は表を、下前は裏を見て、何れも裾口より二尺程上まで綴ち行き、終りは縫ひ目を開きて打ち留をなし、それより衿の時と同じ針數及び方法にて横綴をなすべし。

右終らば、掛衿をかけ、裏を返して、烙鏝或は火熨斗をかけ、次に表を出して又更に仕上げをなすべし。

【設問】

裏の縫ひ方につき袷と異なるところを述べよ。
女綿入の縫ひ方順序を述べよ。
綿の入れ方を問ふ。

第五章 本裁男綿入

男綿入の裁ち方・仕立上げ寸法・標付け方等は、第三章(三一頁参照)男袷と同じく、只袷の寸法を一分五厘乃至二分となすのみなり。又その縫ひ方順序は、女綿入の如く、表裏別々に縫ひ、裾を合せ、綿を入れ、袖口・衿下及び衿を紵け、縦横の綴ちをなし、掛衿をかけ、仕上げをなすべし。

【設問】

男綿入の普通仕立上げ寸法を述べよ。
袷綿の厚さ及び寸法等につきて、女物と男物と異なるところを述べよ。

第六章

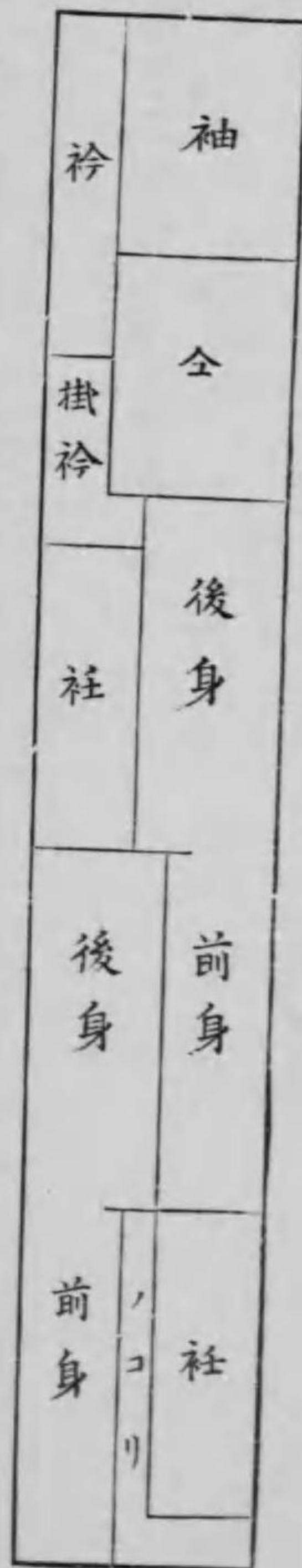
片面物・中幅物・大幅物にて小裁本裁の裁ち方・積り方及び各種長着普通仕立上げ寸法

第一 片面物にて三つ身の裁ち方

一、片面物長さ一丈三尺五寸幅九寸にて三つ身の裁ち方
裁ち切り寸法

袖丈	一尺三寸五分	袖幅	六寸五分	身丈	二尺七寸
後幅	五寸二分	前幅	三寸八分	衿幅	三寸八分
衿肩明	一寸四分	衿幅	二寸五分		

圖の方ち裁



積り方公式

總丈 = 袖丈 × 4 + 身丈 × 3
 身丈 = (總丈 - 袖丈 × 4) ÷ 3
 袖丈 = (總丈 - 身丈 × 3) ÷ 4
 後幅 = (布幅 + 衿肩明) ÷ 2

二、片面物長さ一丈四尺幅一尺にて三つ身の裁ち方

裁ち切り寸法

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 袖丈 一尺四寸 | 袖幅 七寸五分 | 身丈 二尺八寸 |
| 後幅 五寸七分 | 前幅 四寸三分 | 衿幅 四寸三分 |
| 衿肩明 一寸四分 | 衿幅 二寸五分 | |

圖の方ち裁



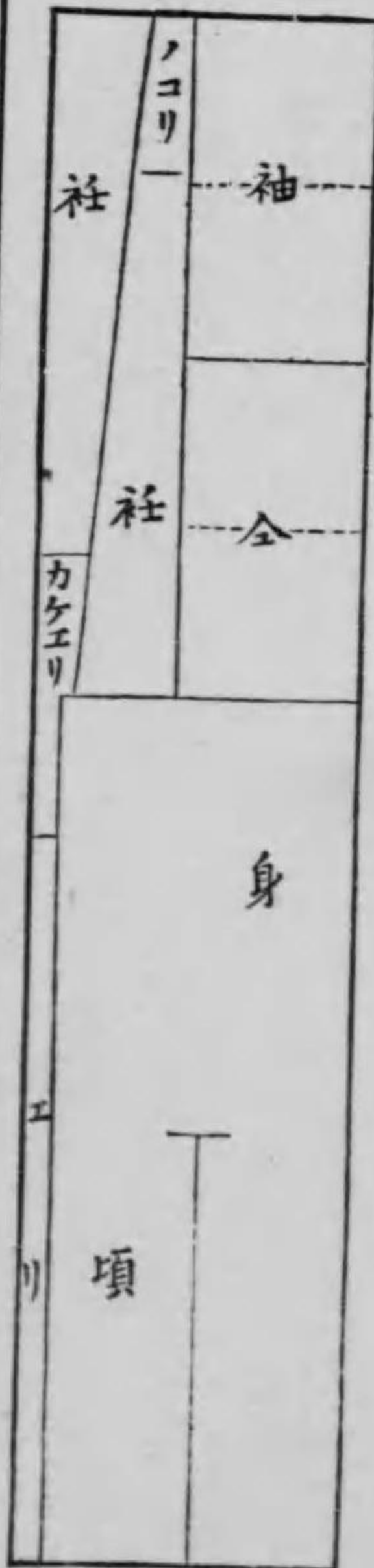
積り方は前題に同じ。

第二 中幅物にて小裁本裁の裁ち方

一、幅一尺一寸五分長さ七尺二寸の用布にて小裁元祿袖の裁ち方(一つ身相當) 裁ち切り寸法

- | | | |
|---------|-----------|---------|
| 袖丈 七寸 | 袖幅 六寸 | 身丈 二尺二寸 |
| 後幅 九寸五分 | 前幅 四寸七分五厘 | 衿肩明 九分 |
| 衿丈 二尺一寸 | 衿幅 上下三寸 | 衿丈 三尺九寸 |
| 衿幅 二寸 | 衿幅 二寸五分 | |

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = 袖丈 × 4 + 身丈 × 2

身丈 = (總丈 - 袖丈 × 4) ÷ 2

袖丈 = (總丈 - 身丈 × 2) ÷ 4

二、幅一尺二寸長さ一丈一尺二寸の用布にて小裁の裁ち方(三つ身相當)

裁ち切り寸法

一、袖丈 一尺四寸

袖幅 七寸

身丈 二尺八寸

衿肩明 一寸五分

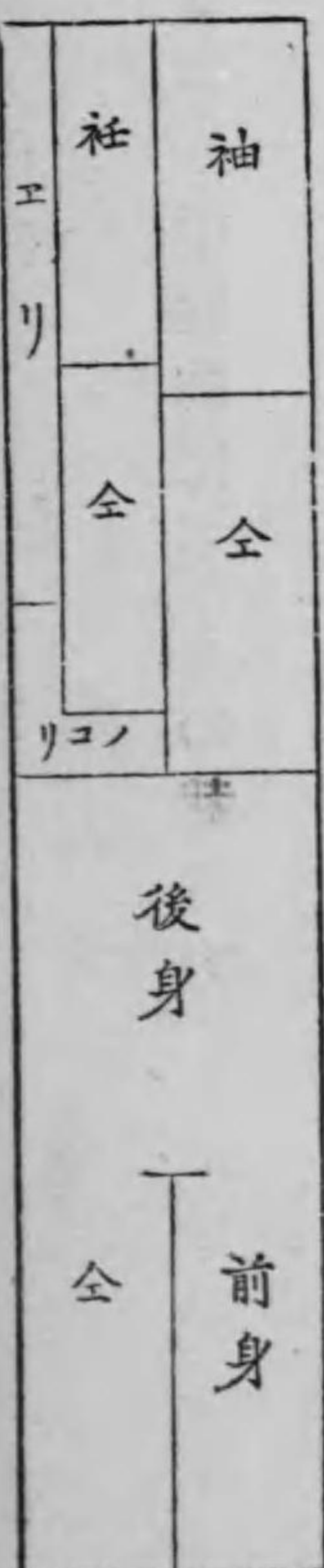
衿丈 二尺六寸

衿幅 三寸三分

衿丈 四尺八寸

衿幅 一寸七分

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = 袖丈 × 4 + 身丈 × 2

身丈 = (總丈 - 袖丈 × 4) ÷ 2

袖丈 = (總丈 - 身丈 × 2) ÷ 4

三、丈幅共に前題と同じ用布を用ひて身幅・衿幅等を廣くなさんとせば左圖の如く裁つべし。
裁ち切り寸法

袖丈 一尺四寸

袖幅 七寸

身丈 二尺八寸

後幅 六寸五分

衿肩明 一寸五分

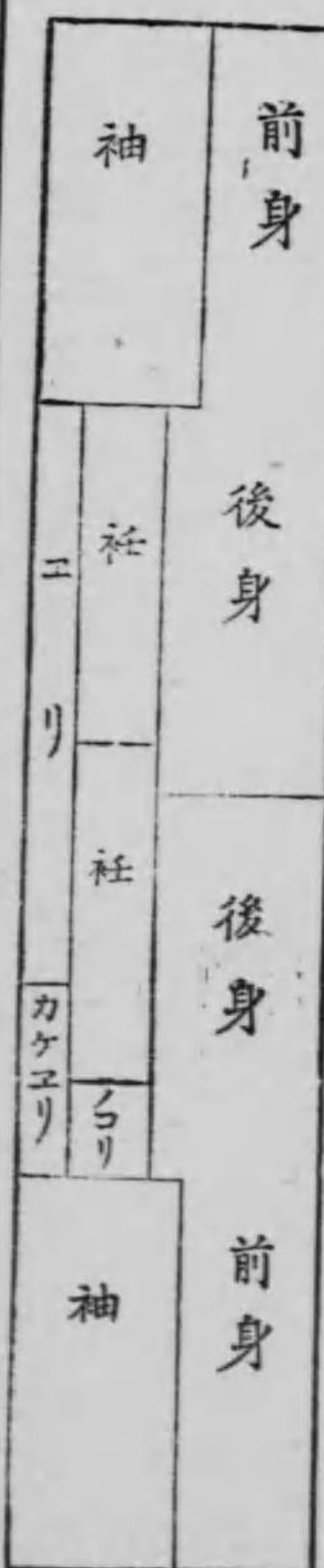
前幅 五寸

衿丈 四尺八寸

衿幅 三寸七分

衿幅 一寸八分

裁ち方の圖

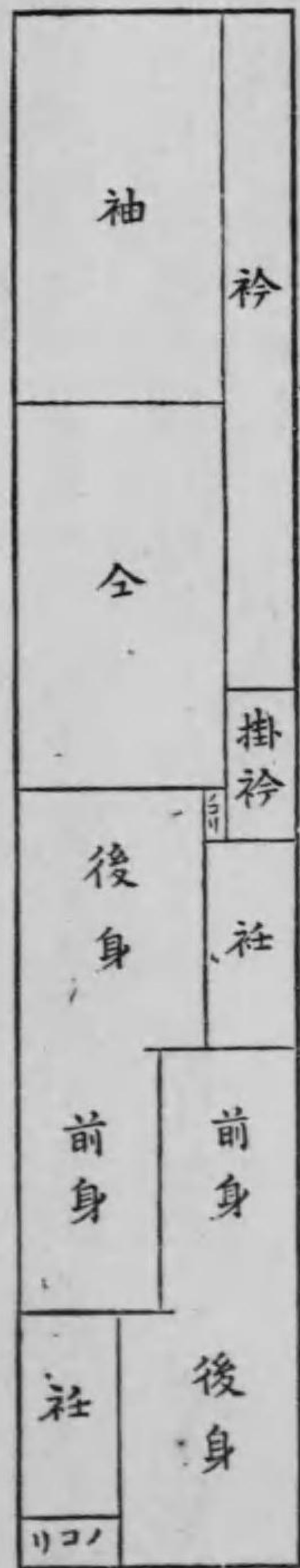


四、幅一尺一寸五分長さ一丈六尺一寸の用布にて中裁の裁ち方
(四つ身相當)

裁ち切り寸法

袖丈 一尺七寸	袖幅 九寸	身丈 三尺一寸
後幅 七寸五分	前幅 五寸七分五厘	衿肩明 二寸
衿幅 四寸	衿丈 二尺九寸	衿幅 二寸五分
衿丈 五尺四寸		

裁ち方



五、幅一尺二寸長さ一丈二尺六寸の片面物にて四つ身元祿袖の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈 九寸	袖幅 九寸	身丈 三尺
衿肩明 二寸	後幅 七寸	前幅 五寸
衿幅 五寸	衿幅 三寸及び二寸	

裁ち方の圖



積り方公式

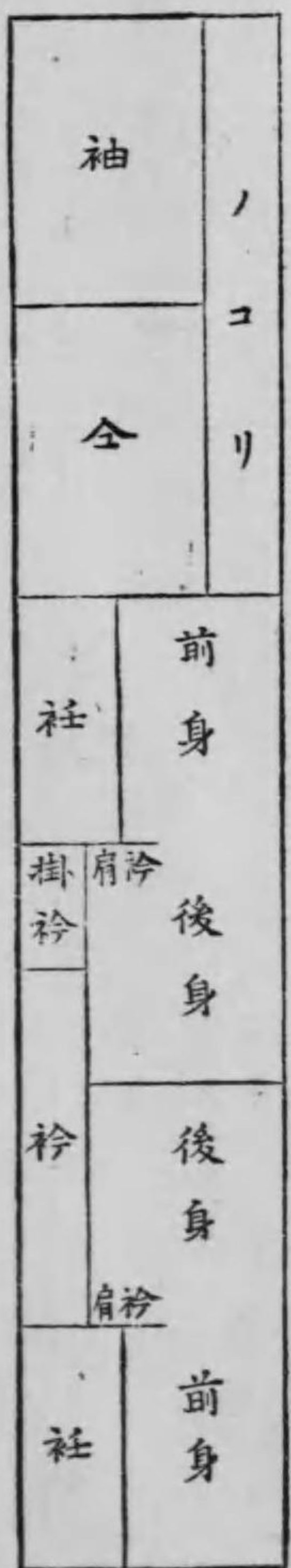
總丈 = 袖丈 × 4 + 身丈 × 3
 身丈 = (總丈 - 袖丈 × 4) ÷ 3
 衿丈 = (總丈 - 身丈 × 3) ÷ 4

六、幅一尺二寸長さ一丈三尺の用布にて本裁女物の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈 一尺七寸	袖幅 九寸五分	身丈 四尺五分
後幅 八寸五分	衿肩明 二寸五分	前幅 七寸三分
衿丈 三尺六寸	衿幅 四寸七分	衿丈 四尺八寸
衿幅 三寸五分		

裁ち方の圖



積り方公式

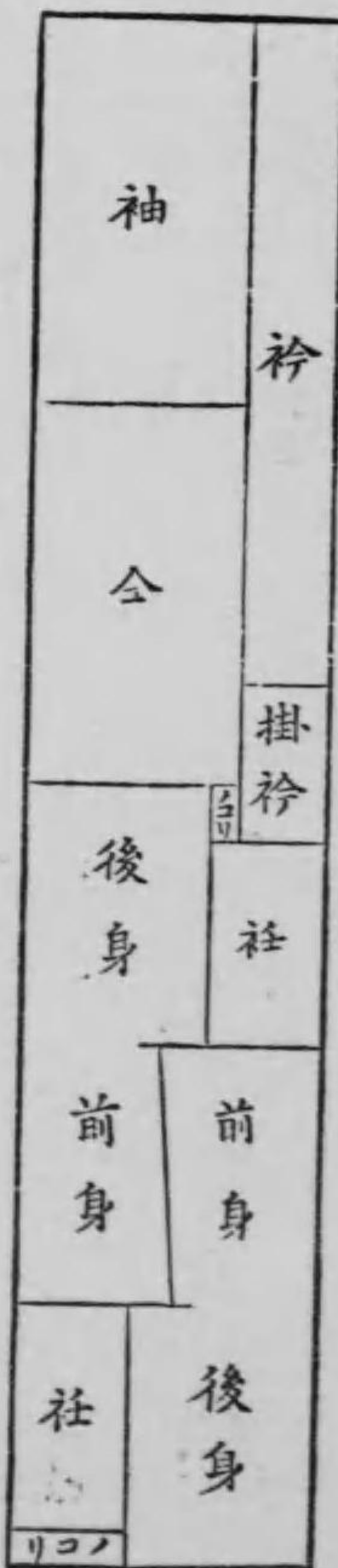
總丈 = (袖丈 + 身丈) × 4
 身丈 = (總丈 - 袖丈 × 4) ÷ 4
 袖丈 = (總丈 - 身丈 × 4) ÷ 4

セ、中幅にて一尺三寸以上あるときは次ぎの如き裁ち方によるべし。

裁ち切り寸法

袖幅 九寸二分	前幅 六寸九分	衿幅 四寸五分
衿幅 三寸八分	衿肩明 二寸五分 <small>内一分裁ち込む</small>	他の寸法は凡て前題に同じ

裁ち方の圖



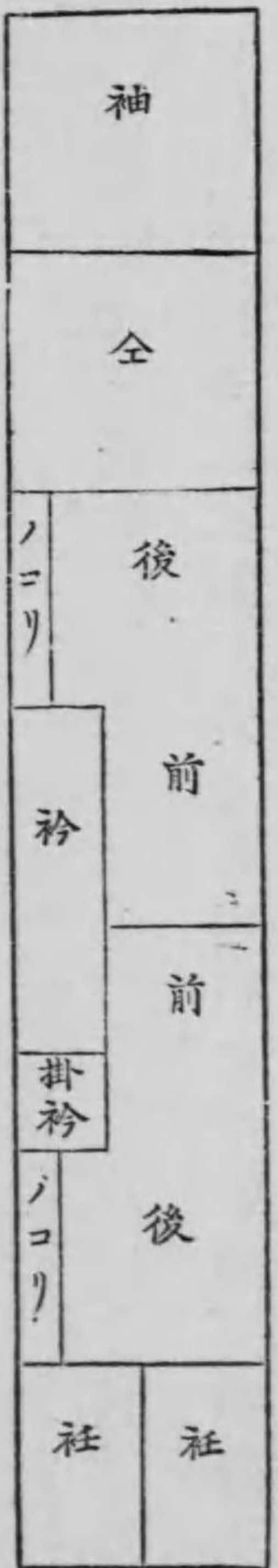
積り方(本書六一頁参照)

ハ、幅一尺二寸長さ二丈四尺六寸の用布にて本裁男物の裁ち方裁ち切り寸法

袖丈 一尺四寸五分	身丈 三尺八寸五分	後幅 九寸五分
-----------	-----------	---------

前幅、八寸
 衿丈四尺八寸
 衿肩明 二寸五分内一寸裁ち込む
 衿幅 三寸五分
 衿丈 三尺四寸

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = (袖丈 + 身丈) × 4 + 衿丈
 身丈 = $\frac{\text{總丈} - \text{袖丈} \times 4 + \text{衿下} \times 5}{4}$
 袖丈 = $\frac{\text{總丈} - (\text{身丈} \times 5 - \text{衿下} \times 4)}{4}$

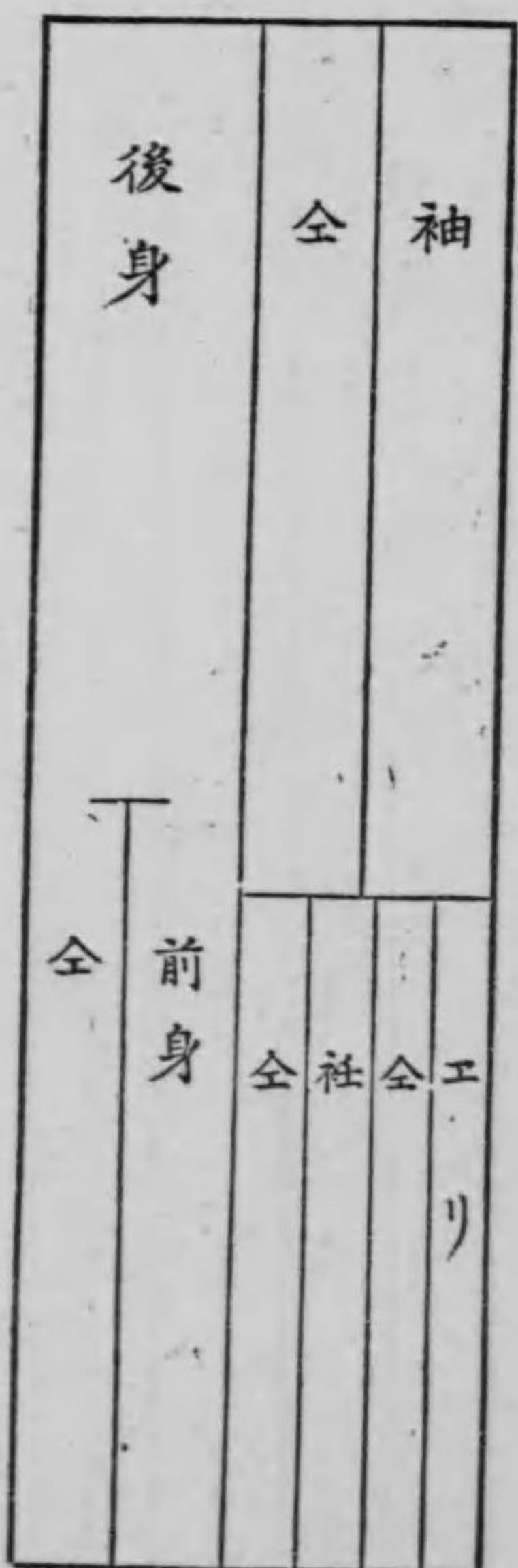
第三 大幅物にて小裁中裁本裁の裁ち方

一、幅二尺長さ四尺六寸の用布にて小裁の裁ち方(一つ身相當)

裁ち切り寸法

袖丈 一尺二寸五分
 袖幅 五寸五分
 身丈 二尺三寸
 身幅 九寸
 衿丈 二尺一寸
 衿幅 三寸八分
 衿丈 四尺二寸
 衿幅 一寸七分
 衿肩明 九分

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = 身丈 × 2

二、幅二尺長さ五尺二寸の用布にて小裁の裁ち方(一つ身相當) 裁ち切り寸法

袖丈 一尺三寸 袖幅 六寸五分 身丈 二尺三寸五分
 身幅 九寸五分 衿丈 二尺二寸五分 鈎下 八寸五分
 衿幅 四寸 衿丈 四尺二寸 掛衿幅 三寸
 衿肩明 九分 衿幅 二寸

裁ち方の圖



積り方公式

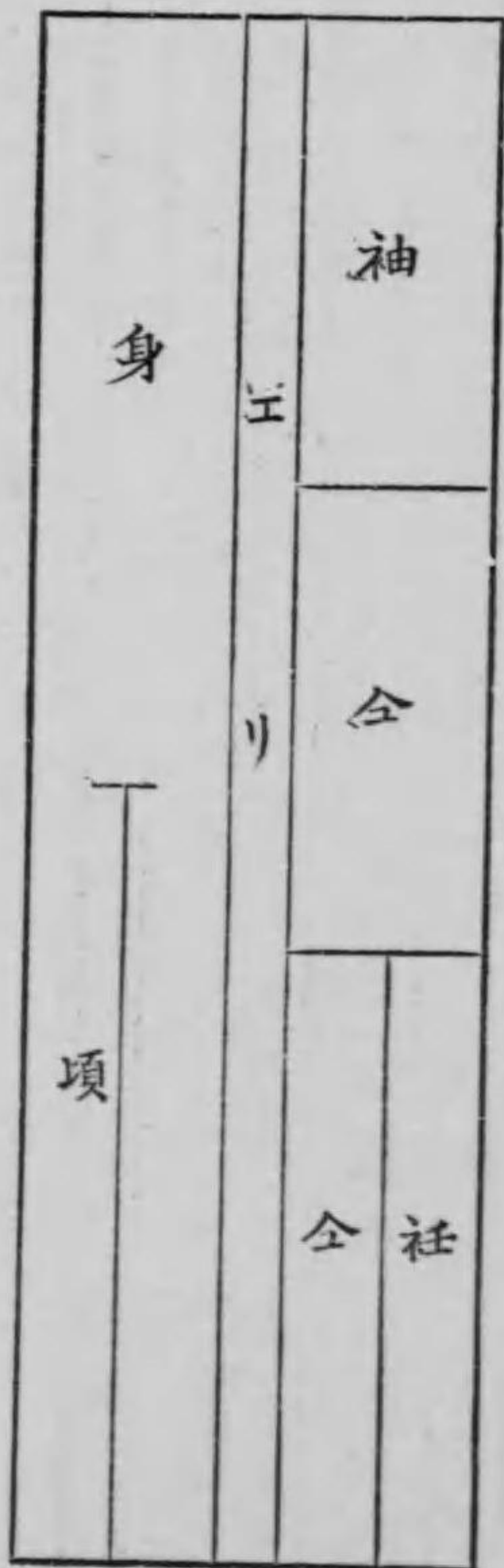
總丈 = 袖丈 × 4

三、幅二尺長さ四尺八寸の用布にて小裁筒袖の裁ち方(一つ身相當)

裁ち切り寸法

袖丈 六寸五分 袖幅 七寸五分 身丈 二尺四寸
 身幅 一尺 衿丈 二尺二寸 衿幅 三寸七分五厘
 衿丈 いっぱい 衿幅 二寸五分 衿肩明 九分

裁ち方の圖



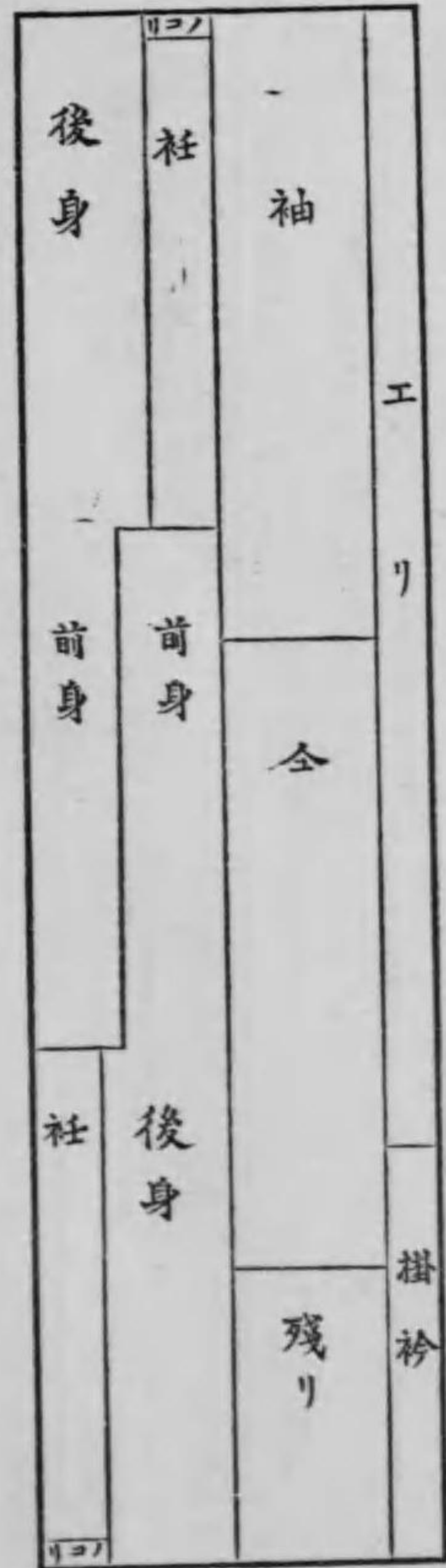
積り方公式

總丈 = 身丈 × 2

四、幅二尺長さ八尺一寸の用布にて小裁の裁ち方(二つ身相當) 裁ち切り寸法

- 袖丈 一尺五寸
- 袖幅 七寸三分
- 身丈 二尺七寸
- 後幅 六寸五分
- 前幅 五寸
- 衿丈 二尺五寸五分
- 衿幅 三寸五分
- 衿丈 四尺七寸
- 衿幅 二寸七分
- 衿肩明 一寸六分

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = 身丈 × 3
 身丈 = 總丈 ÷ 3

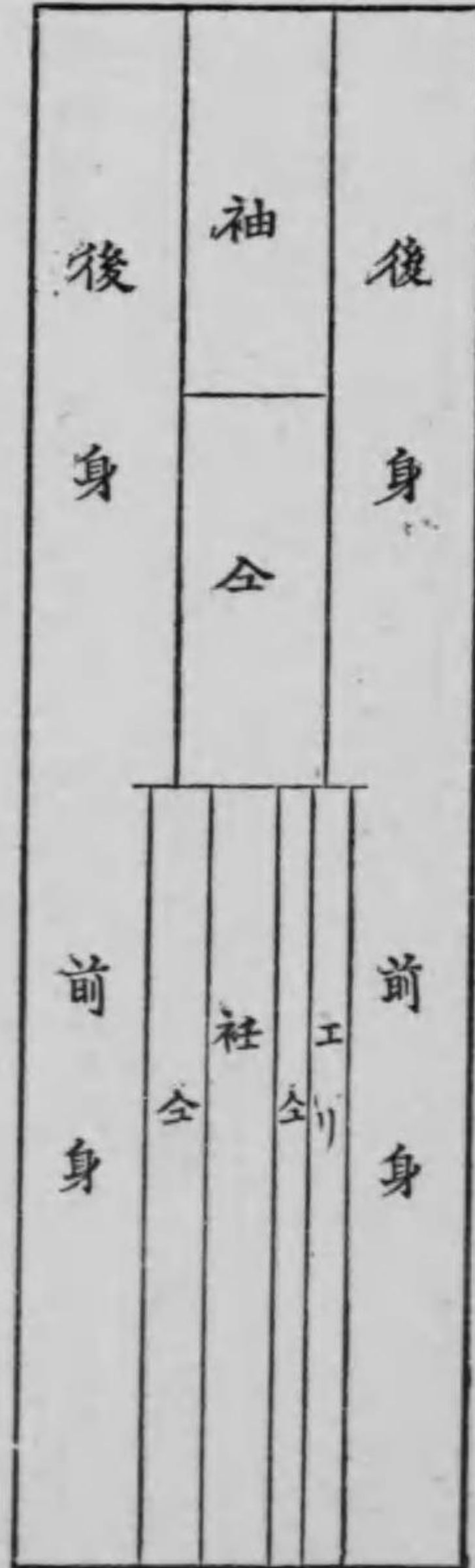
五、幅二尺長さ五尺六寸の片面物にて小裁筒袖の裁ち方(三つ身

相當)

裁ち切り寸法

- 袖丈 七寸
- 袖幅 七寸六分
- 身丈 二尺八寸
- 衿肩明 一寸四分外に一分切り込む
- 後幅 六寸二分
- 前幅 四寸八分
- 衿幅 三寸四分
- 衿幅 一寸八分

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = 身丈 × 2

六、幅一尺八寸五分長さ九尺三寸の用布にて中裁の裁ち方(四つ

身相當

裁ち切り寸法

- 袖丈 一尺六寸五分
- 袖幅 八寸二分
- 身丈 三尺
- 身幅 一尺四寸五分
- 衿丈 二尺八寸
- 衿下 一尺五寸
- 衿幅 四寸
- 衿丈 いっぱい
- 衿幅 二寸一分
- 衿肩明 一寸九分

裁ち方の圖



積り方公式

$$\text{總丈} = (\text{袖丈} + \text{身丈}) \times 2$$

$$\text{身丈} = (\text{總丈} - \text{袖丈} \times 2) \div 2$$

$$\text{袖丈} = (\text{總丈} - \text{身丈} \times 2) \div 2$$

七幅二尺長さ八尺の用布にて中裁元祿袖の裁ち方(四つ身相當)裁ち切り寸法

- 袖丈 九寸
- 袖幅 八寸七分
- 身丈 三尺一寸
- 衿肩明 二寸
- 後幅 七寸五分
- 前幅 五寸五分
- 衿幅 四寸五分
- 衿幅 二寸五分

裁ち方の圖



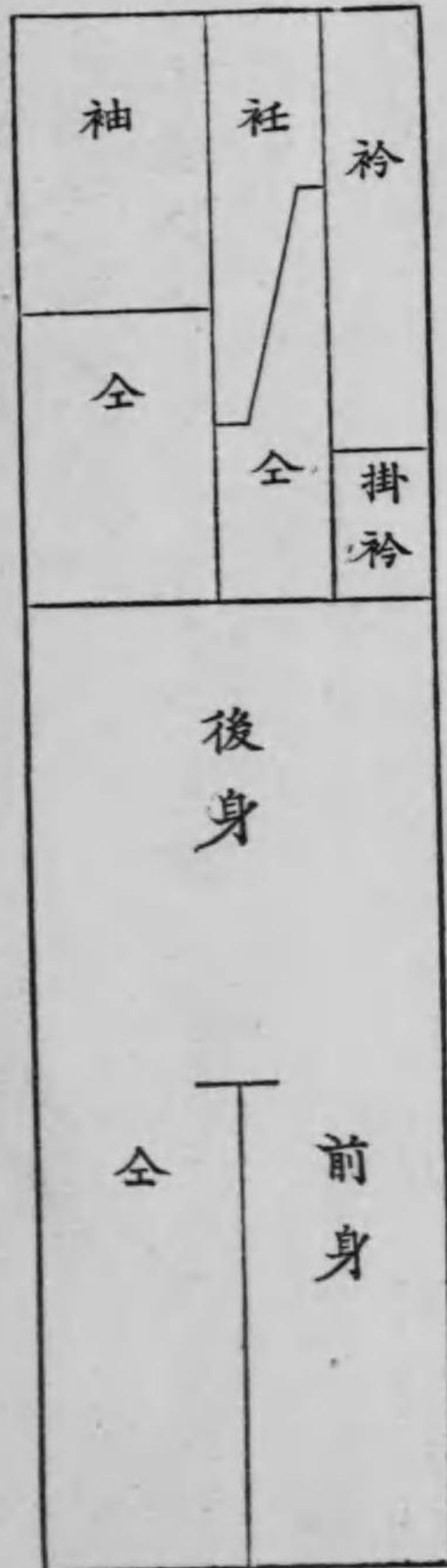
積り方公式

$總丈 = (袖丈 + 身丈) \times 2$
 $身丈 = (總丈 - 袖丈 \times 2) \div 2$
 $袖丈 = (總丈 - 身丈 \times 2) \div 2$

八、幅一尺九寸長さ一丈四尺の用布にて本裁男物の裁ち方
裁ち切り寸法

- | | | | | | |
|-----|--------|----|------|----|--------|
| 袖丈 | 一尺五寸 | 袖幅 | 九寸五分 | 身丈 | 四尺 |
| 衿丈 | 三尺五寸五分 | 衿幅 | 四寸八分 | 衿下 | 二尺四寸五分 |
| 衿肩明 | 二寸五分 | 衿丈 | 四尺七寸 | 衿幅 | 四寸七分 |

圖の方ち裁



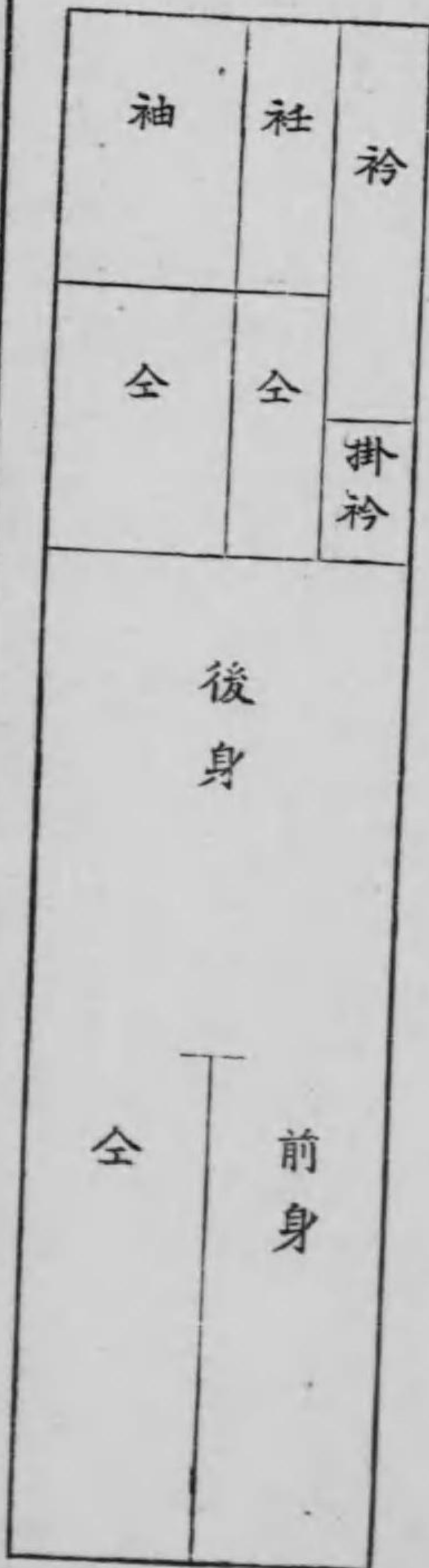
積り方公式

$總丈 = 袖丈 \times 4 + 身丈 \times 2$
 $身丈 = (總丈 - 袖丈 \times 4) \div 2$
 $袖丈 = (總丈 - 身丈 \times 2) \div 4$

九、幅一尺七寸五分長さ一丈五尺の用布にて本裁女物の裁ち方
裁ち切り寸法

- | | | | | | |
|----|--------|----|------|----|------|
| 袖丈 | 一尺七寸五分 | 袖幅 | 九寸二分 | 身丈 | 四尺 |
| 衿丈 | 三尺五寸 | 衿幅 | 四寸七分 | 衿丈 | 四尺八寸 |
| 衿幅 | 三寸六分 | | | | |

圖の方ち裁



積り方公式前題に同じ。

【設問】

幅一尺長さ一丈一寸五分の片面物にてこぶり三つ身筒袖の裁ち方を圖解せよ。

但し袖は丈幅共に七寸とす。

幅一尺長さ二丈二尺四寸の片面物にて三つ身二枚を裁たんとするに身丈二尺六寸とせば他は如何なる割合にして可なるか、其の寸法及び裁ち方の圖を示せ。

幅一尺一寸の両面物にて袖丈一尺五寸身丈二尺八寸の女兒服を裁たんとせば、總丈何程を要するか、又その裁ち方の圖及び各部の寸法を記せ。

幅一尺六寸長さ一丈六尺二寸の片面物にて女物を裁たんとす。如何なる裁ち方によるべきか、又各部の寸法をも問ふ。

幅八寸五分長さ七尺五寸の布にて、女物裾廻しの裁ち方を圖解せよ。但し裾の高さは一尺一寸とす。

幅一尺二寸長さ六尺の布にて、女物裾廻しの裁ち方を圖解せよ。

以上述ぶる所により、普通長着の種類を終りたれば、左に其の普通仕立上げ寸法を掲ぐ

第四 各種長着、普通仕立上げ寸法表

部分種類	袖丈	袖口	袖附	袖幅	身丈	身八つ口	衿肩明	後幅
一つ身	一尺二寸五分内		三寸八寸分	五寸内外	二尺三寸五分内	二寸五分	一寸	いっばい
三つ身	一尺三寸五分内		三寸五分	六寸内外	二尺七寸五分内	同上	一寸三分	いっばい
四つ身	一尺四寸五分内		四寸五分	七寸五分	二尺九寸五分内	同上	一寸六分乃至八分	六寸五分
前衿裁	一尺六寸		五寸	八寸	三尺三寸乃至三尺五寸	同上	二寸	七寸
本裁女物	一尺五寸五分内		六寸五分	六寸五分	三尺八寸五分内	三寸	二寸三分	七寸五分
本裁男物	一尺四寸		七寸五分	一尺二寸	三尺六寸五分		同上	八寸

第六章 片面物及び中幅大幅物にて小裁、中裁、本裁の裁ち方

衿	襷	紐	衿	合	衿	抱	前	衿	肩
入	綿	附	幅	襷	幅	幅	幅	幅	幅
いっばい	三分	二分	八分	三寸内外	三寸内外	乃四寸五分	いっばい	二寸五分	いっばい
いっばい	女男二分五分厘	同上	七寸(同上)	いっばい	いっばい	六寸	いっばい	三寸	いっばい
一尺四寸五分至	同上	一分五厘	七寸五分(同上)	三寸二分	いっばい	一尺一寸迄	いっばい	三寸五分	六寸五分
一尺五寸	同上	同上	同上	一寸三分	三寸四分内外	至一尺三寸五分	五寸五分	四寸	七寸
一尺六寸五分	二分五厘	同上	同上	廣衿一寸五分	三寸五分乃至三寸七分	一尺九寸内外	五寸四分	六寸	八寸
一尺七寸五分	二分	一分	同上	一寸五六分	三寸六七分	一尺七寸五分	六寸二分	六寸五分	八寸七分

筒袖仕立上げ寸法

袖	袖	袖	袖	部
幅	附	口	丈	分
五寸五分	四寸	三寸	五寸	一
六寸五分	四寸三分	三寸五分	六寸	三
八寸	四寸八分	三寸五分	六寸五分	四

元祿袖仕立上げ寸法

袂	袖	袖	袖	袖	部
丸	幅	附	口	丈	分
三寸五分	五寸五分	四寸	三寸	六寸	一
三寸五分	五寸五分	四寸	三寸	七寸	三
三寸五分	五寸五分	四寸	三寸	八寸	四

第六章 片面物及び中幅大幅物にて小裁中裁本裁の裁り方

子供物衿及び身丈の着丈寸法

身丈	部分		年齢
	男	女	
一尺五寸五分	男	女	一、二歳
	一尺七寸	同	三歳
一尺七寸五分	男	女	五歳
	一尺九寸	同	七歳
一尺九寸五分	男	女	九歳
	二尺一寸	同	十一歳
二尺一寸五分	男	女	十三歳
	二尺四寸	同	十五歳
二尺四寸五分	男	女	十七歳
	二尺七寸	同	十九歳

右は大體の寸法を示したるものにして、大人・子供共に着用者の身長・肥瘦等によりて多少斟酌を要するものなれば、實際の場合に於ては、成る可く着用者に適切なる寸法によりて仕立つべし。殊に子供物の肩揚腰揚等の仕方は、大に恰好の良否に關するものなれば、是等の事にも亦十分なる注意を拂ふべきなり。

第七章 女衿長襦袢

第一 裁ち方・積り方

一 並幅物にての裁ち方

用布 並幅二丈七尺四寸

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸五分

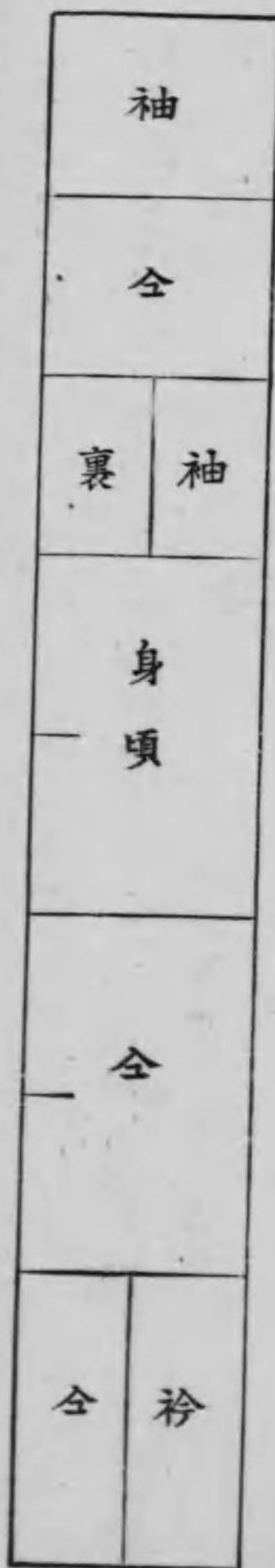
後身丈 三尺五寸

前身丈 三尺五寸五分

衿肩明 二寸三四分

衿丈 四尺

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = 袖丈 × 6 + 身丈 × 5 + 前下_{0.5} × 2 + 衿肩明及び縫ひ代
 後丈 = {總丈 - (袖丈 × 6 + 前下_{0.5} × 2 + 衿肩明及び縫ひ代)} ÷ 5
 前丈 = 後丈 + 前下_{0.5}
 袖丈 = {總丈 - (身丈 × 5 + 前下_{0.5} × 2 + 衿肩明及び縫ひ代)} ÷ 6

二 中幅物にての裁ち方

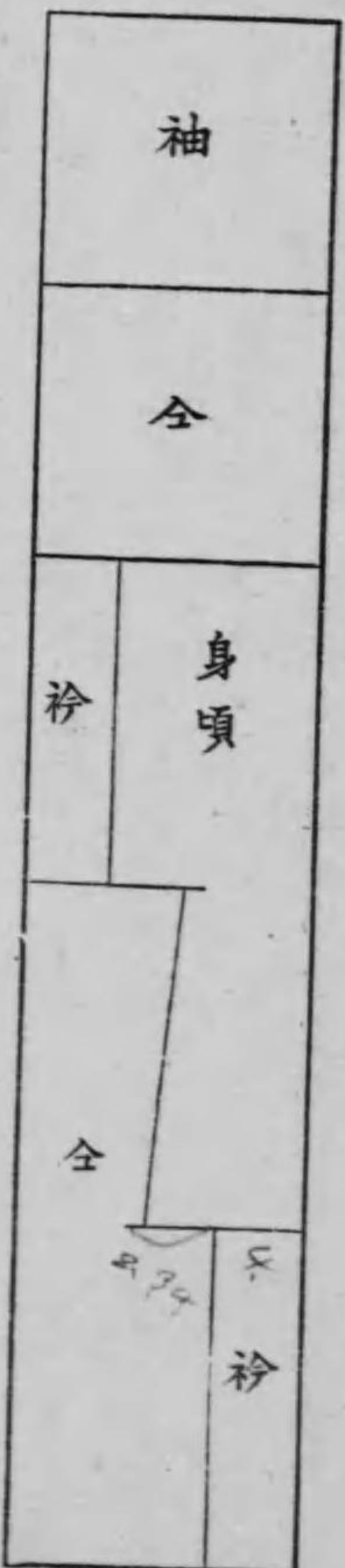
用布 幅一尺二寸五分長さ一丈六尺七寸五分

普通裁ち切り寸法

袖丈	一尺五寸五分	後身丈	三尺五寸	前身丈	三尺五寸五分
衿肩明	二寸三四分	後幅	八寸五分	前幅	六寸三分
衿幅	四寸				

但し衿山に足しぎれを用ふ。

裁ち方の圖



積り方公式

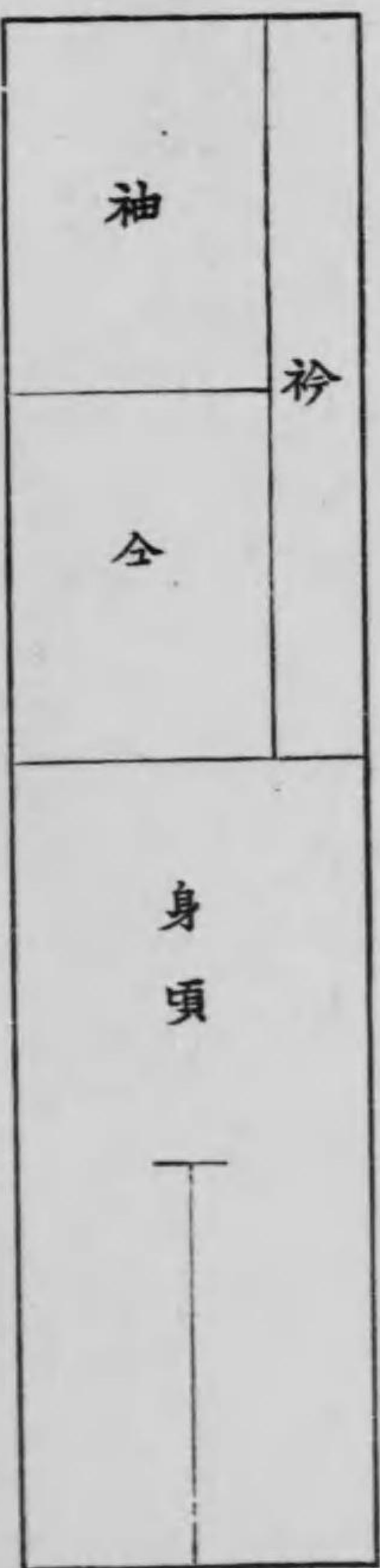
總丈 = 袖丈 × 4 + 身丈 × 3 + 前下_{0.5}
 後丈 = {總丈 - (袖丈 × 4 + 前下_{0.5})} ÷ 3
 前丈 = 後丈 + 前下_{0.5}
 袖丈 = {總丈 - (身丈 × 3 + 前下_{0.5})} ÷ 4

三 大幅物にての裁ち方

用布 幅一尺六寸五分長さ一丈三尺二寸五分

裁ち切り寸法

袖丈・身丈・前下り・袖幅・衿幅等の寸法は前題に同じ。
裁ち方の圖



積り方公式

$$\begin{aligned} \text{總丈} &= \text{袖丈} \times 4 + \text{後丈} \times 2 + \text{前下り} \\ \text{後丈} &= \{ \text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{前下り}) \} \div 2 \\ \text{前丈} &= \text{後丈} + \text{前下り} \\ \text{袖丈} &= \{ \text{總丈} - (\text{後丈} \times 2 + \text{前下り}) \} \div 4 \end{aligned}$$

注意 右に掲げたる寸法は、何れも普通の場合を示したるものなれば、袖丈は上着の袖丈より三分乃至五分短く裁ち、身丈は着用者の身長に準じて定むべき

なり。又用布の都合によりては長く裁ち置きて内揚をなしおくも可なり。又前下りは人々の好みにより、八分乃至一寸位下げおく事あり。

【設問】

幅一尺二寸の片面物にて、女長襦袢を裁つに、袖丈一尺七寸、後身丈三尺四寸五分裁ち切りとせば、總用布何程となるか。
但し前下りは八分とす。

用布一尺六寸の大幅物一丈三尺四寸五分にて女長襦袢を裁つに袖丈一尺六寸五分裁ち切りとせば、後前身丈何程となるか。
中形羽二重の並幅物にて男長襦袢を裁つに、袖・衿廻しとも無雙になさんとせば、各部の寸法は如何にして可なるか。又用布の總丈何程なるか。
但し袖丈・身丈等普通寸法に仕立上げたる長着の下に着用するものとす。

第二 女裕長襦袢仕立方

一 普通仕立上げ寸法

袖丈	一尺五寸内外	袖附	六寸
袖幅	八寸三分	身丈	三尺三四寸
身八つ口	後三寸 前三寸五分	衿肩明	二寸一二分
後幅	八寸内外	肩幅	八寸三分
前幅	六寸五分内外	衿幅	上一寸四分 下一寸八分
衽	一分五厘	衽	一尺六寸四五分

注意 すべて襦袢の寸法は長着に準じて定むべきこと巻一第四章第三(五〇頁参照)に述べたるが如くなれども、尙ほ襦袢の如きは其の地質にも關係するものなれば、袖丈の詰め方衿の合せ方等よく斟酌して定むべきなり。

二 標附け方

- 一 袖
- 二 表後身頃
- 三 表前身頃
- 四 裏後身頃
- 五 裏前身頃
- 六 裾廻し

七 衿

- 1 袖 表袖の表を中にして二つに折り山丈袖附及び袖口縫代の標をつけ、次に裏袖も同様に標すべし。
- 2 表裏身頃 表身頃の表を中にして左右の身頃を合せ、衿肩より二つに折り、衿肩を左に脊を手前にして下に置き、山丈袖附身八つ口後幅肩幅の標をつけ、次に後身頃を左に開きて、前身頃に身八つ口前幅及び衿附の標をなすべし。次に裏身頃を取りて丈を表より衽の二倍だけ長くして標をつけ、其の他の寸法は表と同寸となすべし。
- 3 裾廻し 裾廻しを四枚揃へ、裏身頃に準じて丈及び縫代の標をつくべし。
- 4 衿 山より二つに折りて、丈及び衿附縫代の標をつくべし。

三 縫ひ方順序

- 一 袖
- 二 表身頃
- 三 裏身頃
- 四 裾廻し
- 五 表裏の裾合せ
- 六 裾の含み綿及び假綴
- 七 脊脇の縦綴
- 八 身八つ口
- 九 袖附
- 一〇 衿附及び衿衿
- 一一 半衿

1 袖 表袖と裏袖との袖口を合せて縫ひ、裏の方に折り返して、襷をかけ、表布を幅一寸内外裏へ折り返して待針を打ち、八つ口の方に幅標をつけて之れを縫ひ、次に袖下を四枚合せて縫ひ、其の折りは裏袖の方に返して留め、表を引き返して八つ口及び袖下に平襷をかくべし。

2 表裏の身頃及び裾廻し 表身頃の脊及び脇を縫ひ、縫ひ込みを開きて割り襷又は縫ひ襷縮緬の類は縫ひ襷をなし、身の丈長きものは身八つ口より一寸程下の方に内揚をなし、次に裏も表に準じて縫ひ四裾をはぎて後前の身頃につけ、折りは裾廻しの方に返して襷をかくべし。

但し裾口は表の幅より稍張りめに縫ひ置くべし。

3 裾合せ及び含み綿假綴 表裏の裾口を合せて各縫ひ目に待針をなし、よくひきあひを見て之れを縫ひ、一分の着せにて表の方に折り返し、青梅綿二寸幅程にきり之れを二つに折りて入れ、(真綿にてもよし)表を返して襷を極め、假綴をなすべし。

4 脊脇の縦綴及び身八つ口 表裏の脊線を合せて中より縦綴をなし、次に両脇を綴ち、八つ口元に四つ留をなして後前の八つ口を縫ひ、平襷をなしおくべし。

5 袖附及び衿附 表裏の袖附元に四つ留をなして、先づ表袖

をつけ折りは表の方に返し、次に裏袖をつけて裏身頃の方に折り返すべし。

それより衿附を綴ち、地質軟きものは衿布に心を入れ、前身頃の幅標に合せて之れを縫ひ、衿の方に返して躰をかけ、次に衿先を縫ひ、衿幅(下より一尺五寸程の間は一寸七八分、三つ衿の處は一寸四分)を定めて折りをつけ、脊衿肩明及び處々に待針をなして新け上ぐべし。

右終らば前身八つ口の後身八つ口より長さ分、即ち五分又は八分を八つ口元の處にて二つに折り、裾口の方へ返して脇縫に綴ちつけ置くべし。

6 半衿 表の地色と同色の衿心を一重、若しくは二重となして表布の裏の方に合せ、之れに裏を合せて何れも中表にして縫

ひ横は二寸程縫ひ残し置き、先づ横を折り、次に縦を折りて角を留め、引き返して表を出し、躰をかけ半衿の左の方を五分程長くして二つに折り、其の山を表の脊線に合せて待針を打ち、半衿の方を下衿より五厘程出して新けつけ、次に裏衿を新け、三つ衿に引絲をつけて、仕上げをなすべし。

注意 長襦袢の裾廻しは、七八寸乃至一尺程の高さにつくるを可とすれども、時宜によりては半幅の横布を用ふることあり、この場合に於ても脊脇の縫目をなしおくものとす。

【設問】

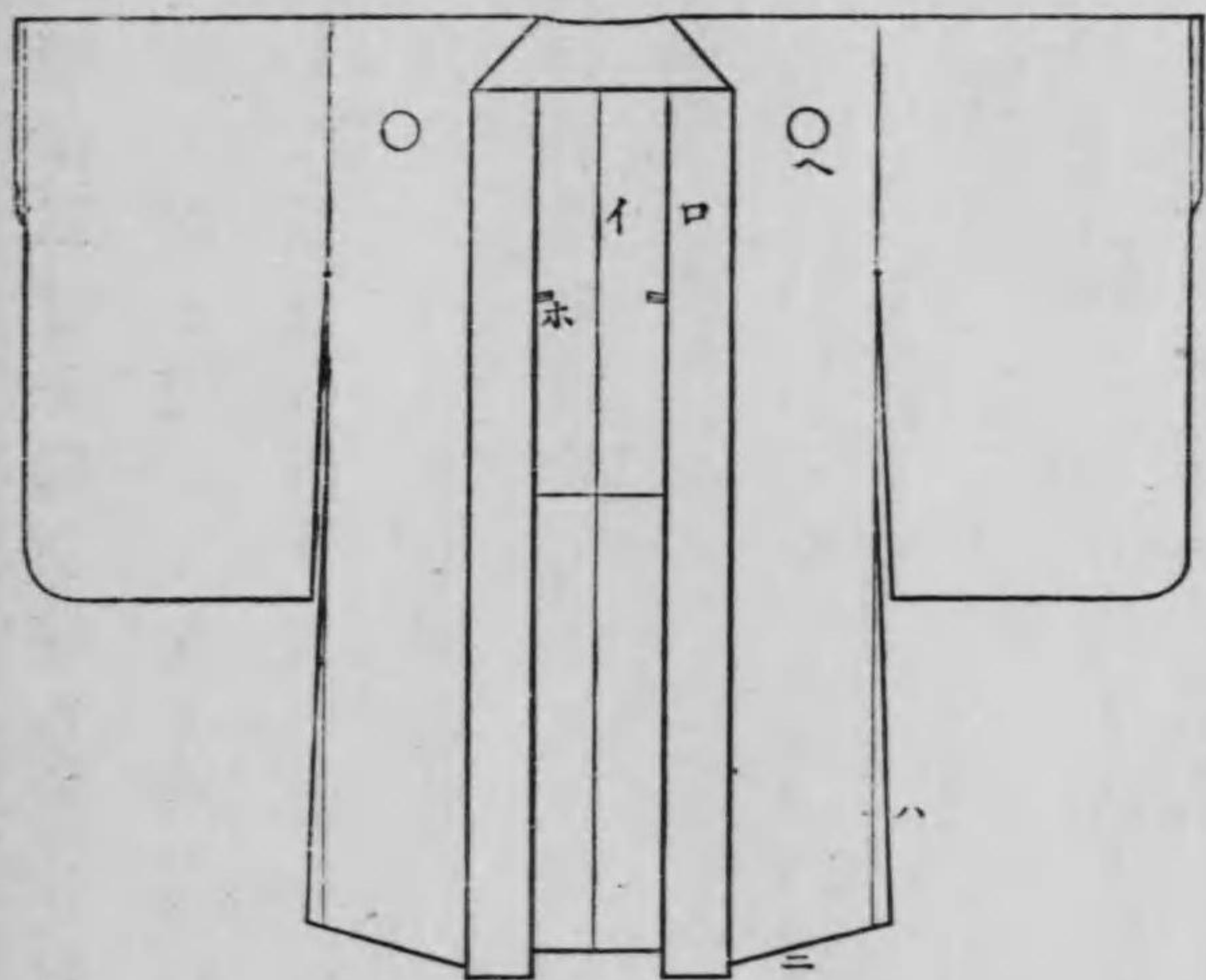
長襦袢の普通仕立上げ寸法を問ふ。
又其の縫ひ方順序如何。
半衿の拵へ方を述べよ。

第八章 本裁女綿入羽織

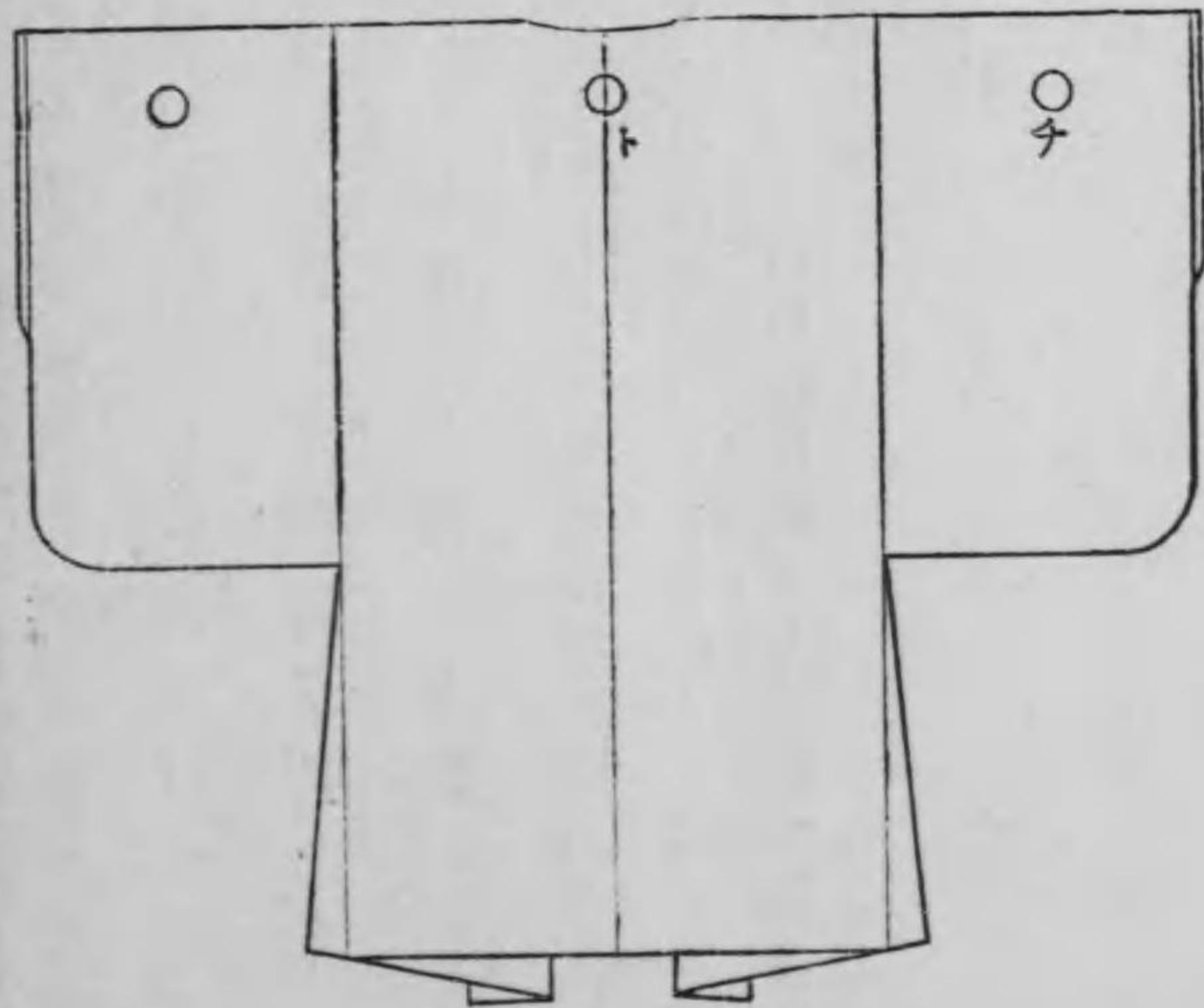
第一 羽織各部の名稱

イ 胴裏 ロ 衿 ハ 襦 ニ 前下り ホ 紐附 ヘ 抱紋 ト 脊紋 チ 袖紋

前 織 羽 女



後 織 羽 男



他の名稱はすべて單衣に同じ。

第二 羽織部分縫

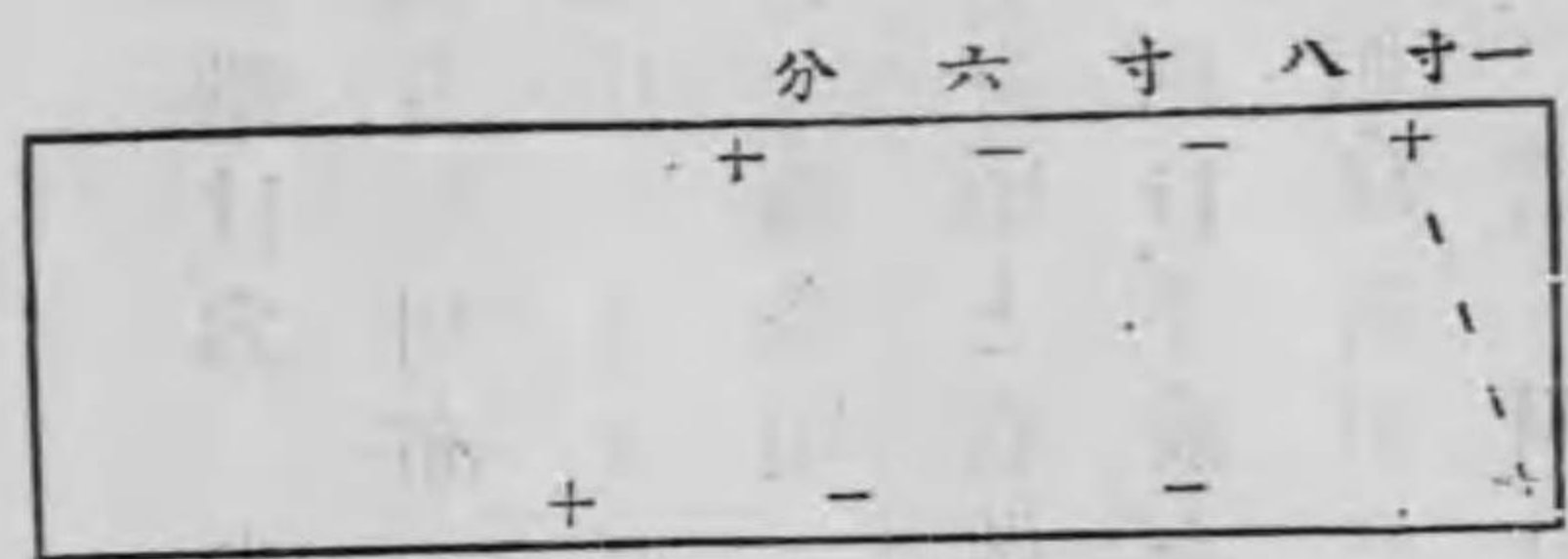
一 前身頃及び襦

標附け方 半幅二尺三寸の用布二枚と、四つ割り幅一尺八寸の部分縫用布一枚とを取りて前身頃及び襦と看做し、圖に示せる順序によりて標をなすべし。

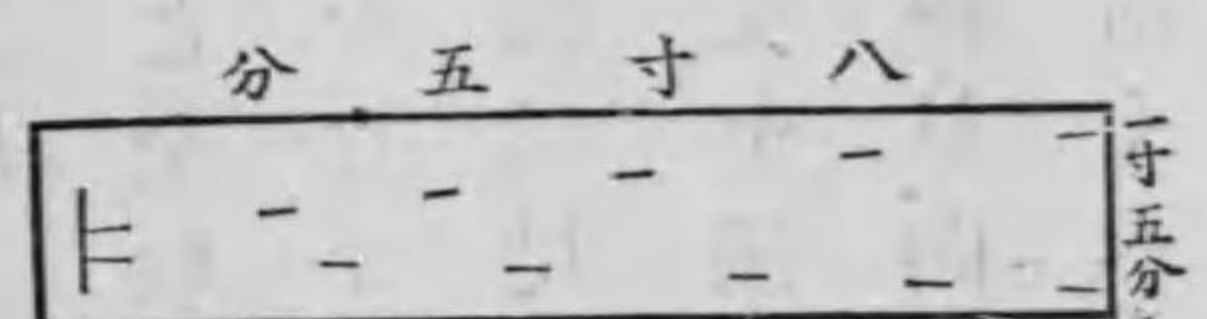
い 前身頃 半幅二尺三寸の部分縫用布二枚を取りて表裏の前身頃と看做し、丈を揃へて正しく裁板の上に置き、左を衿肩、右を裾口、手前を衿付け、向ふを脇となし、第一圖の如く前幅前下り、脇明紐附の標を附くべし。

ろ 襦 四つ割り幅一尺八寸の用布を取りて、第二圖の如く丈

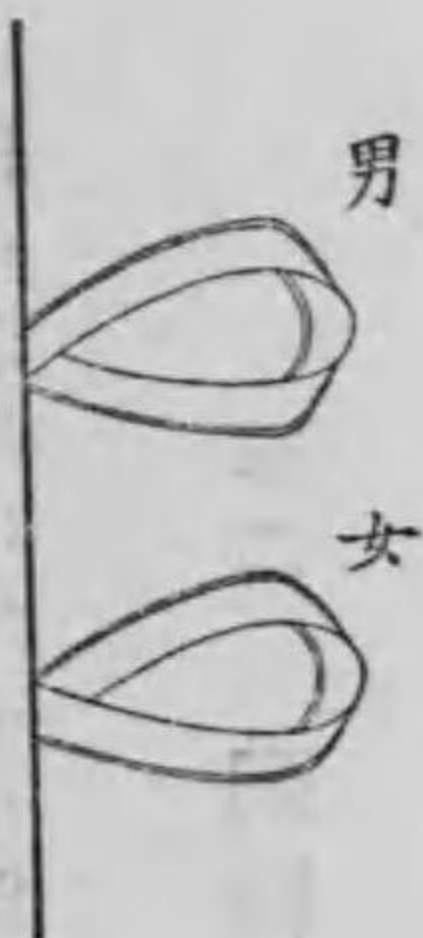
第一圖



第二圖



第三圖



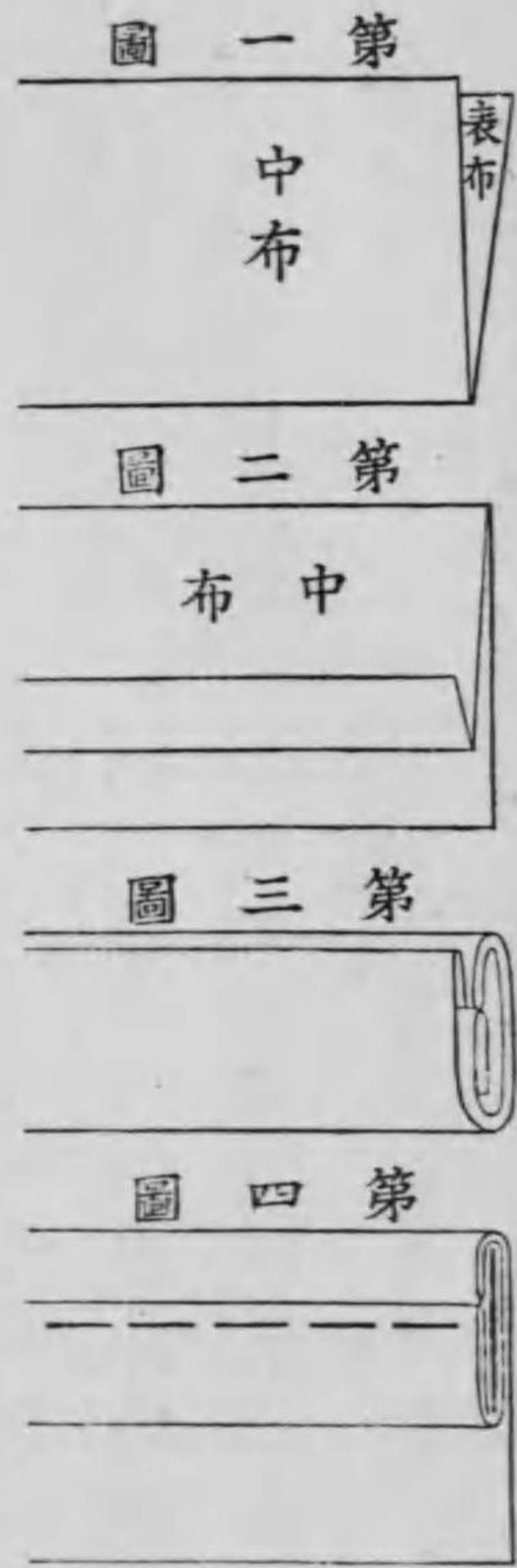
を二つに折りて表裏の襠と看做し、丈幅を極め、後前の曲りの標を附くべし。但し曲りの割合は仕立上げの下の襠幅より上の襠幅を減じ、残りを三分して其の一を後身の方へ、其の二を前身の方へ曲ぐるものとす、又縫ひ込みあるものはすべて後身の方に置くべし。

縫ひ方 裾口の丈標(實物にては山標)を一分表身頃の方に越して表裏の差を二分とし、表を見て前下りの斜なる標の一分上を縫ひ、此の時裏の幅を五

厘程ゆるくして縫ふ、並の着せにて裏の方に返し平麩をかけ、表身頃を一分裏に折り返して山標をつけ、次に襠布を取りて標の通り折りをつけ、稍張りめにして前身頃に合せ待針をなして之れを縫ひ、身頃の方に折り返して平麩をかけ、次に衿附を綴ち、紐附を一分幅程に縮上げ、五六分の長さに第三圖の如く二つに折りて、身頃の紐附標の處に確かと綴ちつくべし。

二 衿の折り方及び付け方

い 衿の折り方 並幅二尺五寸の運針用布を取り、表を出して衿幅の二倍に六分五厘を加へて第一圖の如く縦に折り、中になるべき布はそれより六分五厘を減きて第二圖の如く折り、後縫代として輪の方を四分、一枚の方を三分に折り、輪の方を幅一分



出して更に第三
圖の如く二つに
折り、山標・丈標及
び合標をつけ、次
ぎに全體に烙鏝

をかくべし。但し烙鏝をかくるには、なるべく折り目を延ばさ
ぬ様になすべし。

又地質薄きものには心を入れる、心は其の幅を出来上りの衿幅
より一分狭くして平に切り、兩方五厘づつひきて二枚に折りた
る方の上に載せ、第四圖の如く幅の折り込みにて包み、簾にてあ
らく綴ちおくべし。

ろ 衿の附け方 衿の二枚になりたる方を裏身頃の衿附の處

に合せ、紐附より上は衿の方を稍弛めに、下は同様に成して五寸
程づつを置きて待針をなし、衿の方を見て縦の折り目の一分上
即ち三分の縫代にて一針抜きに縫ひ、紐附の處は二度程返し針
をなして能く留め、夫れより衿先を縫ひ、(附け終りより二三分下
にて幅は二枚になりたる方即ち衿の表になるべき方を五厘程
弛め置く)裏の方に、返して縫ひ込みを綴ち附け、次ぎに表を出し
合標を合せて新けつくべし。

但し衿附けの際、前身頃の下の方は三寸程上より自然に幅
一分五厘程を縫ひこみ、又心は衿先きに縫ひ附けずして折り
目の處までにて切り取るべし。

【設問】

羽織紐つけの附け方に於て男女によりての區別を問ふ。

羽織並幅衿の折り方及び付け方を述べよ。

第三 本裁女綿入羽織裁ち方・積り方

い 表用布 並幅二丈八尺二寸

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸五分

後丈 三尺三寸五分

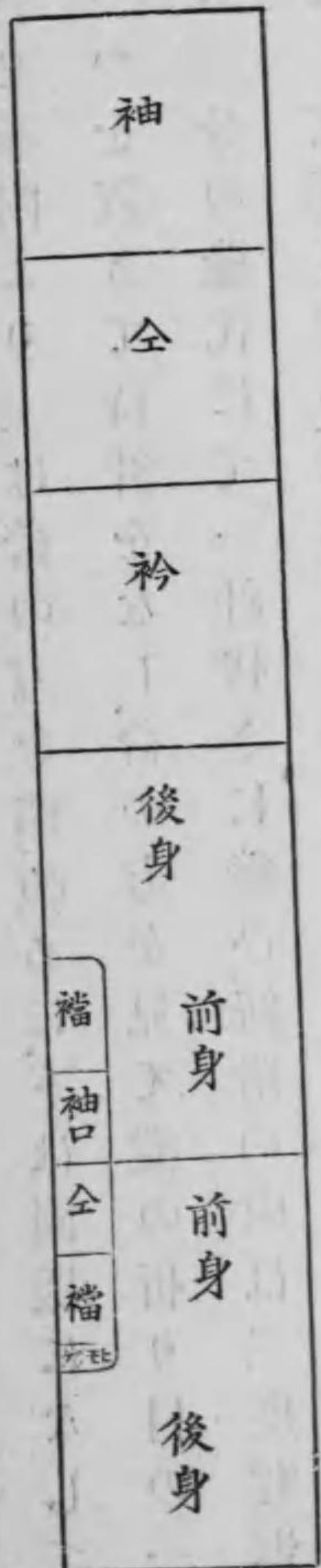
衿肩明 二寸七分内四分の廻し

衿丈 六尺二寸

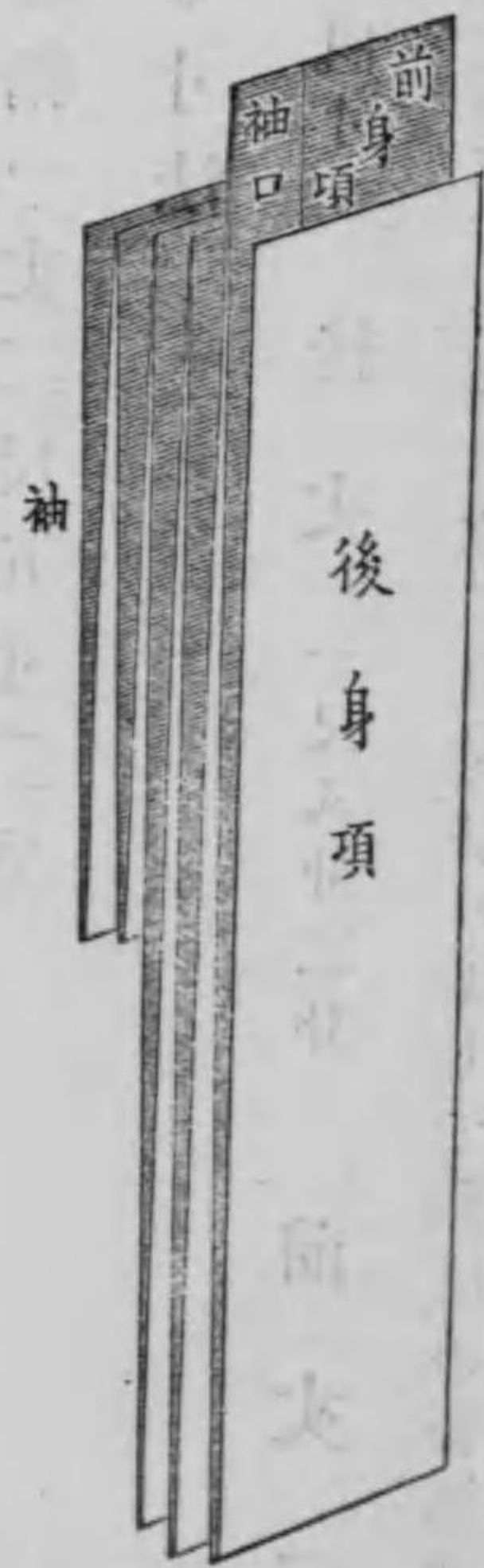
前丈 四尺三寸五分

袖口 一尺六寸

裁ち方の圖



折り方の圖



積り方公式

$$\text{總丈} = (\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 4 + \text{衿丈} + \text{後前の差} \times 2$$

$$\text{後丈} = \frac{\text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿丈} + \text{後前の差} \times 2)}{4}$$

$$\text{前丈} = \text{後丈} + \text{後前の差}$$

注意

後前の差はなるべく一尺となすを可しとすれども袖丈身丈など長くして後の折り返し餘り少きものは八寸若くは六寸となすも可なり。衿丈を定むるには仕立上げの身丈と衿肩明と前下りと縫代(一寸以上)を加へて之れを二倍すべし。又紋の附きたるものはよく其の位置に注意して裁つべし。

紋所 紋の附け方には一つ紋三つ紋五つ紋の三種あり、その大きさは時の流行によりて異れども、女物は八九分、男物は一寸位を普通とす、左にその位置をか

かぐ。

羽織紋所の位置

部分の名稱	種類	本	裁	四	つ	身	三	つ	身
脊紋下り		一寸七八分	(袴用の裁 ち目より)	一寸七分	(同)	上	一寸六分	(同)	上
袖紋下り		一寸八分乃至	(袖の山よ り)	一寸八分	(同)	上	一寸六分	(同)	上
抱紋下り		四寸	(身頃の山 より)	三寸五分	(同)	上	三寸	(同)	上

右の内脊紋は脊線の中央、袖紋は外袖幅の中央、抱紋は大人物ならば脊線より二寸五分即ち袴肩明を除きて残りの前幅の中央につく、三つ身及び前袴裁も之れに準ず。

ろ 裏用布 並幅一丈二尺五寸二分

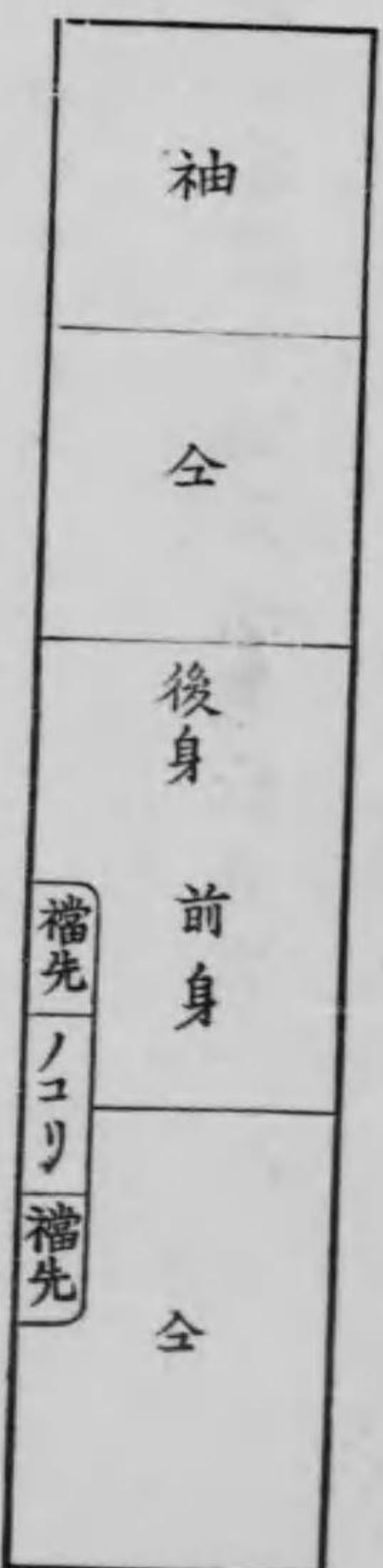
普通裁ち切り寸法

袖丈 表と同寸 後丈 一尺八寸三分 前丈 一尺一寸三分

注意 右は次ぎに述ぶる普通仕立上げ寸法によりて、裏地の各部寸法を定めた

るものなれども、若し表地の總尺及び仕立上げ寸法異るときは、従て裏地の寸法も異なるものなれば、其の寸法は總べて着用者寸法の如何によりて定まるものと知るべし。

裁ち方の圖



積り方

- 16.5 × 4 = 66裏袖丈
- 33.5 - (25 + 0.4) = 8.1表後身の折り返し
- 但 25 = 身丈 0.4 = 袴肩縫代及び後へ繰り越しの分
- 25.4 - 8.1 = 17.3後の胴裏丈
- 43.5 - (25.4 + 1.5) = 16.6表前身の折り返し
- 但 1.5 = 前下り
- 25.4 + 1.5 - 16.6 = 10.3前の胴裏丈

$$66 + (17.3 + 10.3) \times 2 + 4 = 125.2 \dots \text{裏地總丈}$$

但4=胸の總代

【設問】

並幅長さ二丈八尺五寸の布にて女綿入羽織表を裁たんとするに袖丈一尺七寸、衿丈六尺三寸とせば前後の身丈何程となるか。但し前後の差は八寸として計算すべし。

前題に於ける表裏の裁ち方圖を示せ。

二子縞棒衿裁の長着表を女綿入羽織に仕立て換へんとせば、後前身頃及び衿襠袖口等の布は如何に裁つべきか。

第四 本裁女綿入羽織仕立方

一 普通仕立上げ寸法

袖丈 一尺五寸七八分九五分丈は長着より二三分長く 袖口明 六寸乃至六寸五分

袖附 六寸六分長着より一分多く 袖幅 八寸六七分長着より二分廣く

身丈 二尺五寸 身八つ口 二寸乃至二寸五分

前下り 一寸 衿肩明 二寸五分長着より二分廣く

後幅 七寸五分 肩幅 八寸

前幅 四寸八分 紐附 八寸肩より

襠幅 下一寸七分 衿幅 一寸七分

衿 一尺六寸六分

注意 絹布類ならば袖丈を長着と同寸とす。

二 標付け方

一 袖 二 胸接ぎ 三 後身頃

四 前身頃 五 襠 六 衿

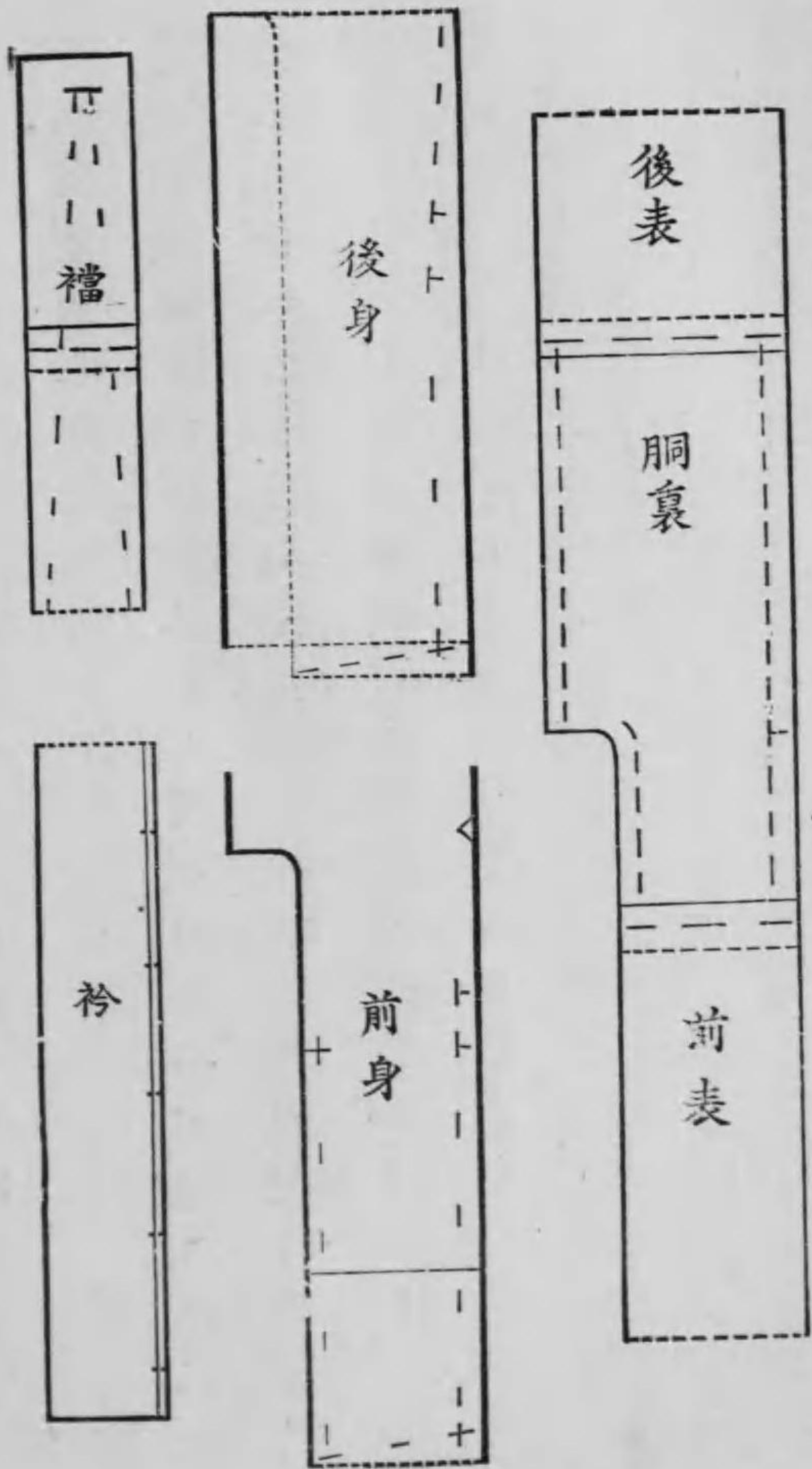
1 袖 女物綿入の通り表袖の表を中にして二つに折り、正しく揃へて山丈口明附幅の標を付け、次に裏の上に袖口を載せ先づ袖口掛けの標をなし、それより表に準じて各部の標をなすべし、又裏袖丈及び八つ口のつめ方等はすべて女物綿入に同じ。

2 胴接ぎ及び身頃 表身頃の表を中にして二枚揃へ、衿肩を右に脊を手前にして下に置き、その上に裏を載せて脊及び脇を假綴し、山標を付け、地質硬きものは二分軟きものは一分後身へ越す、後前の丈を極め、後は脊にて仕立上げより三分長く前は後丈に前下りと外に二分を加へたるものとす、裏の方に折り返し、胴接ぎの標を付け、次に山標より二つに折り、脊を手前に、後身を上に出して袖附身八つ口、後幅、肩幅、前幅、前丈、前下りの標を付け、次に後身を左に開き紐附及び所々に前幅の標をつくべし。

3 襠 表裏の襠を接ぎ表を中に二つに折り、四枚重ね、丈幅をきめ、丈は脇の丈より脇明に一分を加へて減きたる残りとする、部分縫の通り下の襠幅より上の襠幅をひき残りを三分してその一を後身に附く方に、其の二を前身に附く方に曲げ、定規を置きてその間處々に標を附くべし。

4 衿 羽織部分縫の如くにして折りをつけ、薄き品には心を入れ、横に二つに折り、山標、丈標、前身頃衿付の丈に衿肩明と外に三分を加ふ、及び合標を付け、次に烙熨をかくべし。

注意 衿半幅なるときは、別に木綿若くは金巾等の餘り硬からぬ布半幅を取ってこれを裁ち目の方に縫ひつけ、次に表を衿幅の二倍に四分を加へて折り、裏即ち中の布は夫れより三分五厘を減きて折りをつけ、裁ち目の方は二枚共に四分に折り、次に此の處を一分出して二つに折り、烙熨をかくべし。この他心の入れ方、合標の付け方等凡べて並幅衿に同じ。



三 縫ひ方順序

女羽織の縫ひ方は、袖の八つ口を最初に縫ひおくものと、綿を入れたる後紵けるものとの二種あり、次にこの二種につきて

述ぶべし。

い 八つ口を縫ふ時の仕方

- 一 表裏の袖及び八つ口縫
- 二 後前身の胴接ぎ
- 三 脊縫
- 四 前下り
- 五 後前襦及び身八つ口
- 六 表裏の袖附
- 七 袖口の含み綿
- 八 綿入れ
- 九 裾口及び衿附の假綴
- 一〇 袖口紵
- 一一 紐附
- 一二 衿附及び衿紵
- 一三 脊及び襦の縦綴
- 一四 衿附の袂
- 一五 仕上げ

1 表裏の袖 裏袖に袖口をかけ、表裏の袖を縫ひて躰をかけ、次に表裏の八つ口を合せて稍裏を張り目にして待針をなし、表の方を見て袖附の標より二分程の針目にて縫ひ表の方に折りをつけ、夫れより一寸幅程の綿一枚を八つ口の裏の縫ひ目に

稍、弛めにあて、表の方より見て縫ひ目のすぐ上に綴ちつけ、引き返して表を出し、八つ口に平襷をなすべし。

2 後前の胴接ぎ及び脊縫 標を合せて後前身頃の胴接ぎをなし、裏の方に返して襷をかけ、胴接ぎの縫ひ目を合せて待針をなし、表裏の脊を縫ひ並の着せにて長着の如く折りをつけ平襷をなすべし。

3 前下り 前下りの輪の山標を一分表の方に越して表は前下りの斜の標の一分上、前下りの縫ひ込みによりたる方、裏は一分下を合せて待針をなして縫ひ、裏の方に返し平襷をなすべし。
4 後前襷 後前身頃の脇幅及び襷に標の通り折りをつけ、先づ後身頃の脇と襷の後とを合せ稍、襷を張りめにして待針をなし、身頃の方を見て縫ひ身頃の方に折り返して平襷をかけ、次ぎ

に前身頃の脇と襷の前とを合せて縫ひ、前身頃の方に返して折りをつけ平襷をかくべし。

5 身八つ口及び表裏の袖附 先づ表裏の身頃を取りて身八つ口を合せ、襷の上に留をなし身八つ口を縫ひ、次ぎに表の袖と身頃との山標を合せて待針をなし、袖附の長さをくらへ袖の方を稍、弛めにして袖附元の後前を留め、留めの仕方は先づ表袖の縫代の折り角より針を出して表身頃を抄ひ、次ぎに裏袖、裏身頃といふ順序に抄ひて、更に裏袖及び表袖の縫代の折り角裏に通して前の絲はしと合せて細結をなす、次ぎに表裏の袖をつけて表袖は袖の方へ、裏袖は身頃の方へ折り返して襷をかくべし。

6 袖口の含み綿 含み綿は女物綿入の時と同じく綿の幅一寸及び七分程の二枚を重ね、丈は口明の二倍より二寸程長くし

て之れを縦に二つに折り、綿の中央と袖口の山標とを合せ、綿を稍弛めにして袖口元の一針下より含め行くこと總べて女綿入の時の如くすべし。

7 綿入れ 袖口の含み綿終らば、表裏の身頃を裏返しとなし左右の前身頃を中に入れ裏の後身頃を上にして正しく伸ばしおき、上に眞綿をひき、上下三四寸づつ出して後身頃に綿を入れ、敷き切れに附綿をなし、又裾口の處に別に二寸幅程の綿を入れ、丈標の少し下より折り返し眞綿をひき、表裏の衿肩の間より左右の手を入れて裾口を綿と共に持ちて引き返し、裏の前身頃を上にして表裏の身頃及び綿をよく整へ、次に上前身頃及び袖に眞綿をひきて後身頃に入れたる綿の餘りを返し、袖及び身頃に綿を入れ敷き切れに附綿をなしてまた眞綿をひき、袖口及び

裾口より手を入れて引き返し、表身頃をかぶせて能く引き伸ばし、次に同じ仕方にて下前を入れ、袖身頃共によく表裏の縫ひ目を合せて全體に引き伸ばすべし。

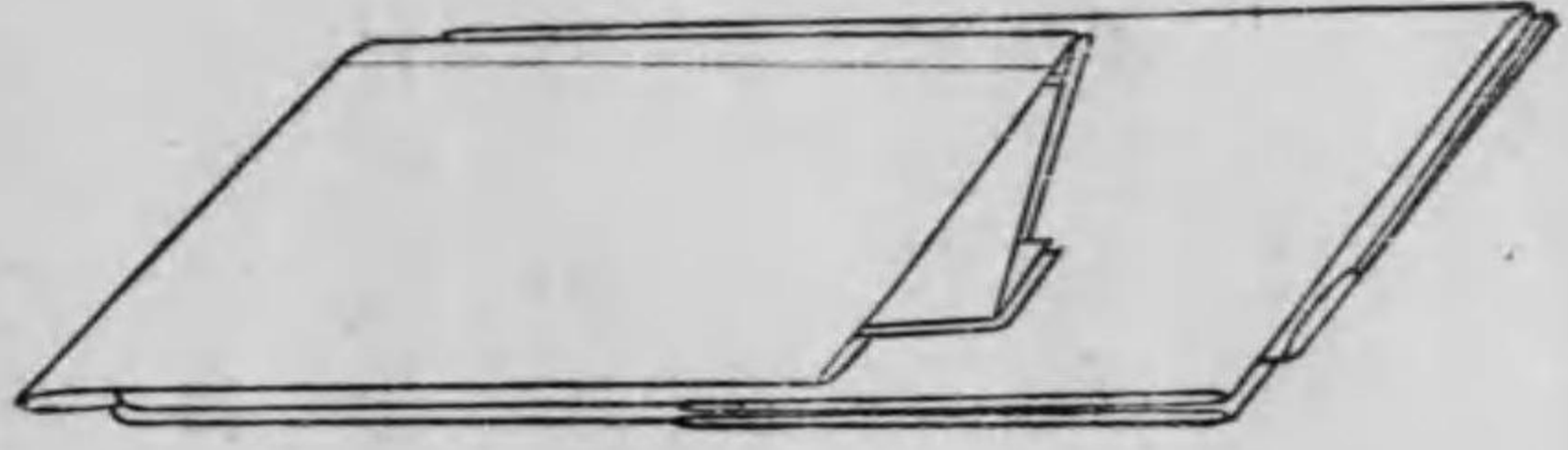
8 假綴・袖口衿並に紐附 裾口に能く綿をひきよせて後、五分程上に假綴をなし、衿附の處にも亦假綴をなすべし。

但し衿附は綿を取り去りて綴づべし、然らざれば仕立上げたる後、衿の返り悪しきものなり。次に綿入の通り袖口を衿紐附を衿付けて左右を拵へ標の處につけおくべし。

9 衿附及び衿衿 衿の輪の方の山標を裏の脊線に合せて三分の縫代に待針をなし、衿肩廻しより紐附の處までは稍、衿を弛めに合せ、其の他は衿も身頃も同じくして處々に待針をなし、衿先の處にて前身頃の幅一分五厘程を縫代の方に入れ、衿の方を

見て左前の下より一針抜きに縫ひ上げ、地厚の品は衿先五六寸

羽織疊み方圖



の間返し針をなすを可とす。紐附の處は返し針に、衿肩廻しは小針に、脊線はまた一針返し、次に右前も左前の通り待針をなして縫ひ下げ、それより左右の衿先を縫ひ、縫ひ込みを裏即ち衿附の方に返して綴ちつけ、能く合標を合せて衿筋をなし、脊及び左右の後襠を綴ち、衿附に襠を掛けて仕上げをなすべし。
10 仕上げ 仕上げの仕方は先づ裏を出して袖口・八つ口・袖附・襠・脊・胴接ぎ等に、烙熨又は火熨斗をかけ、次ぎに表を出して總體にかけ、のち圖の如く疊みおくべし。

ろ 八つ口を紵ける時の仕方

八つ口を紵ける時の仕方は袖口に含み綿をなしたるのち、長着綿入の時の如く八つ口にも含み綿をなし、次ぎに綿を入れる。綿の入れ方は先づ表身頃の後を伸べて綿を入れ、裏を其の上に返して前身頃を入れ、引き返して袖口・八つ口・衿を紵け、脊・襠を綴ち、衿附を折りて襠をかけ、仕上げをなすこと前に同じ。

注意 羽織の仕立方に於て最も肝要なる處は、衿の附け方にあり、されば仕立方に於ても、仕上げ方に於ても十分此の處に注意して丁寧にするべし。又袖口八つ口等は仕立上げの際、山の處に折り目の附かぬ様注意すべし。

【設問】

本裁女羽織の普通仕立上げ寸法を述べよ。
本裁女羽織の長着に對して寸法を伸縮する箇所及び其の寸法を擧げよ。
女羽織の縫ひ方順序を問ふ。

第九章 一つ身袖無綿入羽織

第一 一つ身袖無綿入羽織裁ち方

い 表用布 並幅五尺

裁ち切り寸法

後丈 一尺五寸七分

前丈 一尺六寸三分

衿丈 一尺八寸

衿幅 三寸

襜幅 二寸

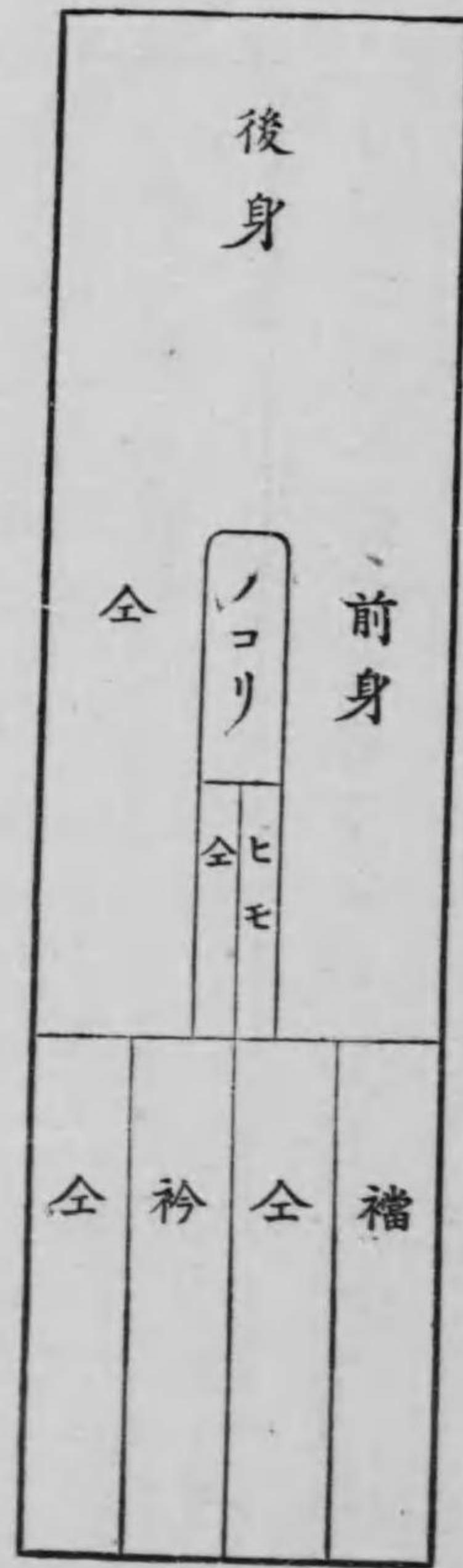
衿肩明 一寸内二分の廻し

紐丈 六寸

ろ 裏用布 並幅三尺

裏の寸法は表身頃の寸法に準じて裁つべし。

裁ち方の圖



第二 一つ身袖無綿入羽織仕立方

一 普通仕立上げ寸法

身丈 一尺五寸

後幅 いっぱい

前幅 いっぱい

脇明 五寸五分

前下り 二分

襜幅 上九分 下一寸五分

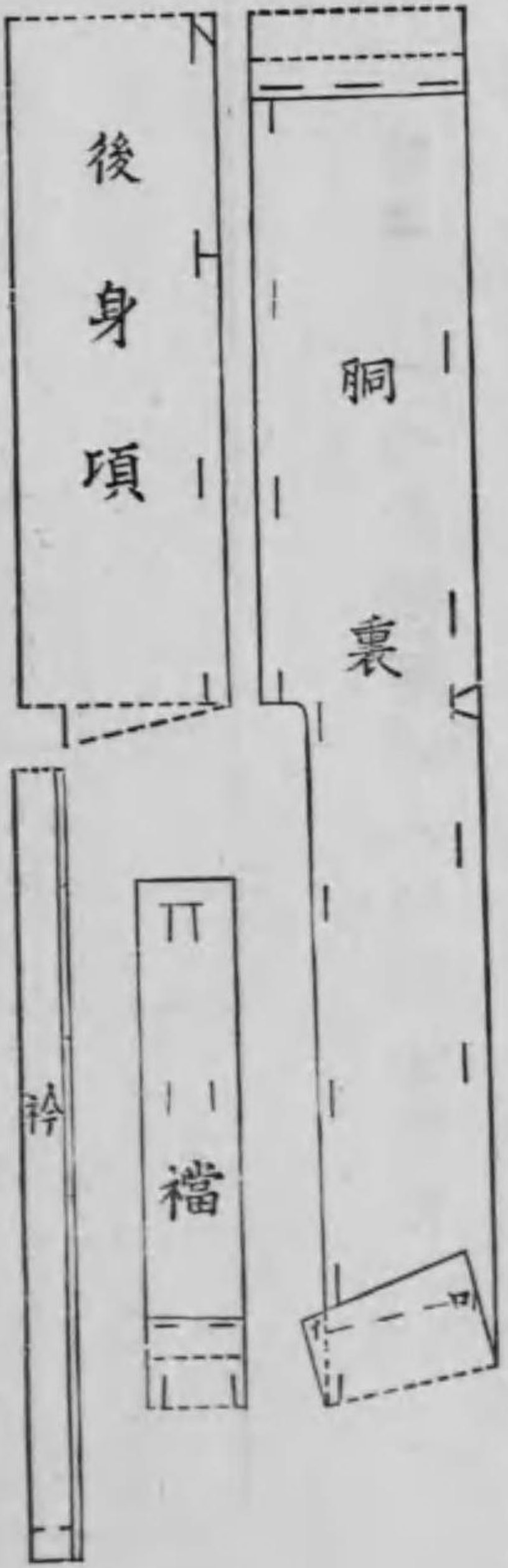
紐附 五寸用より

衿幅 一寸二分

二 標付け方

- 一 後前の身頃
- 二 襠
- 三 衿

1 身頃 表裏とも表を中にして縦に二つに折り、圖の如く表の上に裏を載せて下に置き、兩脇を綴ち山標を付け、後前の丈を極め、二分衿肩を後身に越し、前下りは二分下ぐるものとして表



裏にて二分づつ斜に標す、此の下りの仕方は表の見返し少きものに限る(肩より二つに折り幅・脇明・紐附の標を附くべし。

2 襠 表裏を接ぎ中表に二つに折り、丈幅を極め後身に附く所は眞直に、前身に附く所は寸法通り斜に曲げて標をつくべし。
 3 衿 先づ衿の山接ぎをなし、羽織の半幅衿の如く衿に裏布を縫ひ付け、次に衿幅の二倍に三分五厘を加へて折り、裏布はそれより三分五厘を減きて折り、今縫ひたる方も亦三分五厘の縫代に折り、表に出づる方を五厘出して二つに折りて、山・丈及び合標をつくべし。

三 縫ひ方順序

- 一 後前身頃の胴接ぎ
- 二 後前襠
- 三 脇明
- 四 綿入れ
- 五 紐附
- 六 衿附
- 七 仕上げ

1 身頃 後前の胴接ぎをなし、躰をかけ、襠を入れ、身頃の方に

返して亦襷をかけ、脇明の處表裏を合せて襠の上を留め裏を稍張りめに縫ひ合せ裏の方に折り返して襷をかけ、次に表の後身を出して綿を入れ、裾口及び脇明の處は別に一枚つつ狭き綿を載せて之れを折り、肩より兩手を入れ引返して裏の前身頃を出し綿を入れるべし。

2 衿附 裾に假綴をなし、衿附をとち紐を縫ひてつけ、羽織の通り衿をつけ、衿先を縫ひ裏に返して綴ち附け、合標を合せて衿に襷をかけて仕上げをなすべし。

注意 袖無羽織の種類により、肩入と稱して肩より七八寸の間別布を入れることあり、斯る時には後前とも此の布と腰廻りの布とをばぎ肩入の方に返して襷をかけ、然る後通し表のものと同じく標すべし。

【設問】

並幅の用布にて袖無羽織を裁つに衿を山接ぎになさずして通し衿となさ

んとせば、如何なる裁ち方によるべきか。

袖無羽織の表地として並幅一尺の價四十五錢のメリンスと、同裏一尺の價十五錢のメリンスとを使用せんとす、之れに要する綿及び絲代等を合せて總計何程となるか。

出來上り一尺六寸五分の袖無綿入羽織を仕立てんとせば、表裏の總用布何尺づつにて可なるか。

大振りの二つ身裁袖無羽織の裁ち方及び各部の寸法を記せ。

第十章 四つ身綿入羽織

第一 四つ身綿入羽織裁ち方・積り方

い 表用布 並幅長さ一丈八尺

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸五分

後丈 二尺五寸五分

前丈 三尺三寸五分
 前幅 五寸一分
 衿丈 四尺八寸以上
 袖口丈 一尺二寸

後幅 七寸一分
 衿肩明 二寸内三分の廻し
 衿幅 三寸九分以上
 袖口幅 二寸

裁ち方の圖



折り方の圖



積り方

$$(15.5 + 25.5) \times 4 + 8 \times 2 = 180^{\circ} \dots \dots \dots \text{總丈}$$

$$\{180 - (15.5 \times 4 + 8 \times 2)\} \div 4 = 25.5^{\circ} \dots \dots \dots \text{後丈}$$

$$25.5 + 8 = 33.5^{\circ} \dots \dots \dots \text{前丈}$$

$$\{180 - (25.5 \times 4 + 8 \times 2)\} \div 4 = 15.5^{\circ} \dots \dots \dots \text{袖丈}$$

之を公式にて示せば左の如し。

$$\text{總丈} = (\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 4 + \text{前後の差} \times 2$$

$$\text{後丈} = \{ \text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{前後の差} \times 2) \} \div 4$$

$$\text{前丈} = \text{後丈} + \text{前後の差}$$

$$\text{袖丈} = \{ \text{總丈} - (\text{後丈} \times \text{前後の差} \times 2) \} \div 4$$

用布並幅一丈五尺四寸にて元祿袖になさんとするときは次ぎの寸法によるべし。

袖丈九寸

他の寸法は總べて前の裁ち方に同じ。

裁ち方の圖・積り方算式等も亦前に同じ。

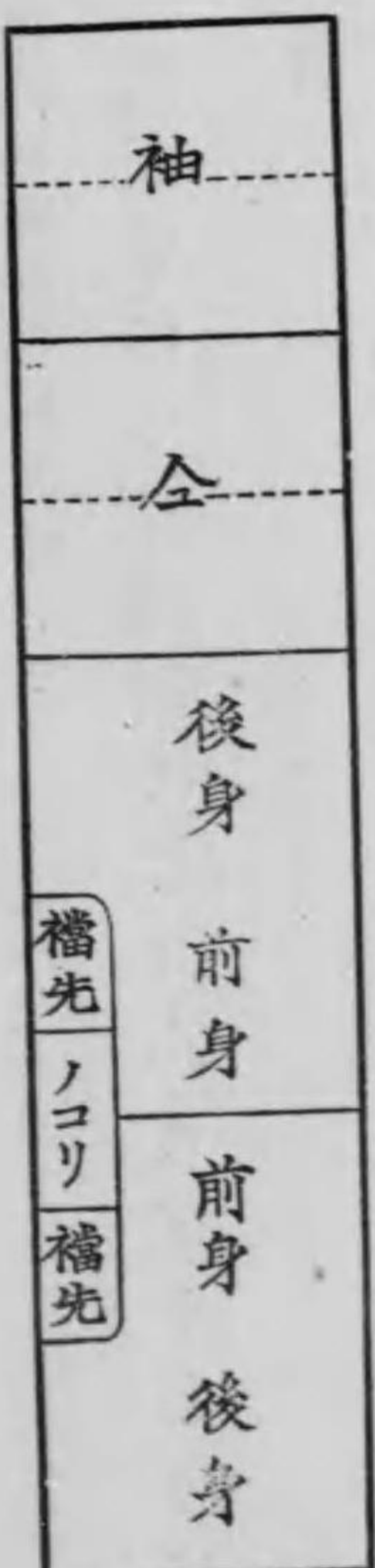
注意 幅九寸以上あるときは今少しく衿幅を廣くすべし。

ろ 裏用布 並幅一丈一尺六寸

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸五分 後丈 一尺六寸三分 前丈 一尺七分

裁ち方の圖



積り方

$15.5 \times 4 = 62^*$ 裏袖丈
 $25.5 - (1.0 + 0.4) = 5.1^*$ 表後身の折返し
 但 20 = 身丈 0.4 = 衿肩縫代及後へ繰越しの分
 $20.4 - 5.1 = 15.3^*$ 後胴裏丈
 $33.5 - (20.4 + 1.2) = 11.9^*$ 表前身の折返し
 但 1.2 = 前下り

$20.4 + 1.2 - 11.9 = 9.7^*$ 前胴裏丈
 $62 + (15.3 + 9.7) \times 2 + 4 = 11.6^*$ 裏地總丈
 但 4 = 胴接縫代

之を公式にて示せば左の如し。

袖 總 丈 = 袖丈 $\times 4$
 表後身の折返し = 裁切後丈 - (仕上身丈 + 0.4)
 後 胴 裏 丈 = 仕上身丈 + 0.4 - 表後身の折返し
 表前身の折返し = 裁切前丈 - (仕上身丈 + 0.4 + 1.2)
 前 胴 裏 丈 = 仕上身丈 + 0.4 + 1.2 - 表前身の折返し
 裏 地 總 丈 = 袖總丈 + (後胴裏丈 + 前胴裏丈) $\times 2 + 4$

【設問】

一丈五尺の用布にて元祿袖の四つ身羽織を裁つに袖丈八寸五分、前後の差七寸とせば、後丈及び前丈は裁ち切り幾尺となるか。
 右羽織の裏地を積るに、仕立上げ身丈一尺九寸となすときは、總尺何程を要するか。

第二 四つ身綿入羽織仕立方

一 普通仕立上げ寸法

い 袂袖

袖丈 一尺四寸八分内外長着より三分長く

袖口明 四寸乃至四寸五分

袖附 四寸六分長着より一分多く

袖幅 七寸七分乃至八寸二分長着より二分廣く

身丈 二尺内外

身八つ口 二寸

前下り 七分

衿肩明 一寸八分乃至二寸

後幅 六寸五分

前幅 いっぱい

紐附 六寸用より

襷幅 下いっぱい 上四分

衿幅 一寸四分

ろ 元祿袖及び筒袖 元祿袖も袂袖の一種なれば、袖丈短かき

のみにして他の寸法の割合は凡べて袂袖に同じ。

但し袂丸の標は丈幅共に長着より二分多くすべし。

筒袖は袖丈三分長く、口明三分多く、袖附二分多く、袖幅一二分廣くなすべし。

二 標附け方

一 袖

二 胴接ぎ

三 後身頃

四 前身頃

五 襷

六 衿

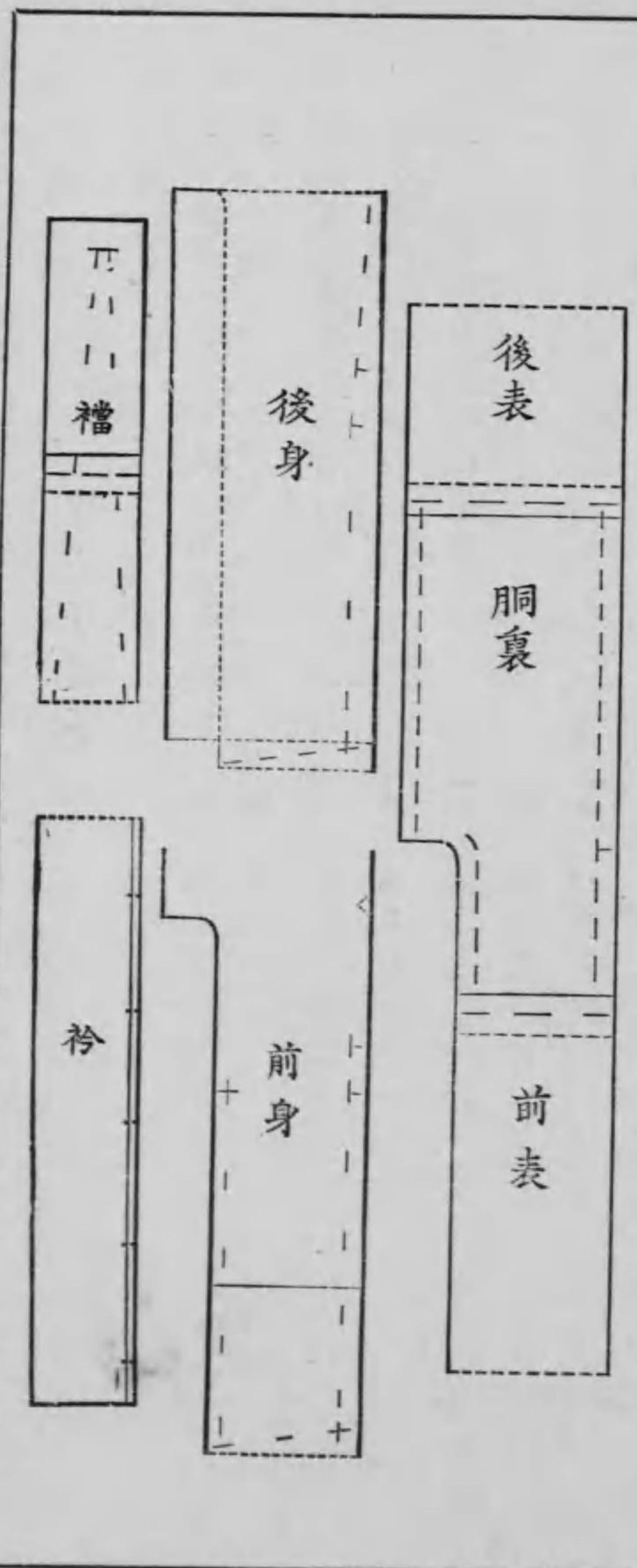
1 袖 四つ身綿入の通り表袖の表を中に二つに折り、正しく揃へて山丈口明附幅の標をつけ、次に裏の上に袖口ぎれを載せ先づ袖口掛の標をなし、それより表に準じて各部の標附けをなすべし。但し裏袖のつめ方は四つ身綿入の時と同じく袖口

明にて五厘、八つ口にて一分をつめ、袖幅は五厘をつむべし。

2 胴接ぎ及び後前の身頃 表身頃の表を中にして、兩身頃を揃へ、木裁羽織の時の如くにして下に置き、其の上に裏を載せて脊及び脇を假綴し、山標・丈標及び胴接ぎの標を附け、次に山標より二つに折り袖附身八つ口・後幅・肩幅・前幅・前丈・前下りの標を附け、次に前身頃を出して紐附及び所々に前幅の標をつくることすべて本裁羽織の時の如くすべし。

3 襠 表裏の襠を接ぎ表を中に二つに折りて四枚重ね、丈幅をきめ、定規を置いて其の間處々に標を附くべし。其の曲げ方等は總て本裁羽織の時に同じ。

4 衿 四つ身の衿は幅狭きを以て別に木綿若しくは金巾等の餘り硬からぬ布半幅を取りて之を裁ちめの方に縫ひ附け、次に表を衿幅の二倍に四分を加へて折り、裏即ち中の布は夫れより三分五厘ひきて折をつけ、裁ちめの方は二枚共に四分に折り、次に此の處を一分出して二つに折り、烙熨をかくべし。次に本裁羽織の時と同じく心切れを入れ、山標・丈標・前身頃衿附の丈に衿肩明と外に三分を加ふ及び合標を附くべし。



第十章 四つ身袖入羽織

三 縫ひ方順序

- 一 表裏の袖及び八つ口縫
- 二 後前身の胴接ぎ
- 三 脊縫
- 四 前下り
- 五 後前襠及び身八つ口
- 六 表裏の袖附
- 七 袖口の含み綿
- 八 綿入れ
- 九 裾口及び衿附の假綴
- 一〇 袖口紵
- 一一 紐附
- 一二 衿附及び衿紵
- 一三 脊及び襠の縦綴
- 一四 衿附の襌
- 一五 仕上げ

1 袖及び胴接ぎ脊縫 裏袖に袖口をかけ、表裏の袖を縫ひて、襌をかけ、八つ口を縫ひ綿を含ますこと本裁羽織の時に同じ。次ぎに後前の胴接ぎをなし、表裏の脊縫をなし折をつけて平襌をなすべし。

2 前下り及び襠附 前下りの山標を一分表へ越して下りを縫ひ、裏の方に返して平襌をかけ、後前の脇及び襠を合せて標通り縫ひ、身頃の方に折り返して平襌をかゝることすべて本裁羽織の時に同じ。

3 身八つ口及び表裏の袖附 身八つ口を合せて襠の上に留をなし、身八つ口を縫ひ、袖附元の後前を留めて袖を付け、表袖は袖の方へ、裏袖は身頃の方へ折り返して襌をかゝること及び四つ留の仕方等すべて本裁羽織に同じ。

4 含み綿及び綿入れ 本裁羽織の時の如くして袖口に含み綿をなし、全體に綿を入れるべし。

5 假綴、袖口紵並に紐附 すべて羽織に同じ。

6 衿附、衿紵並に仕上げ 衿も本裁羽織の時の如くにして附

け衿先を縫ひ、衿紵をなし脊及び左右の後襠を綴じ衿附に躰をかくべし。

右仕立終らば本裁羽織の時の如く、裏より烙熨又は火熨斗をかけ、次に表より總體にかけて正しく疊みおくべし。

若し八つ口を紵ける場合には本裁羽織と同じく、袖口の含み綿をなしたる後、八つ口にも含み綿をなし、次に綿を入れるべし。其の仕方も前に同じく引き返したる後は袖口を紵け、袖附の前後及び襠の上に四つ留をなして八つ口を紵け行くべし。其の他の仕方はすべて前に同じ。

【設問】

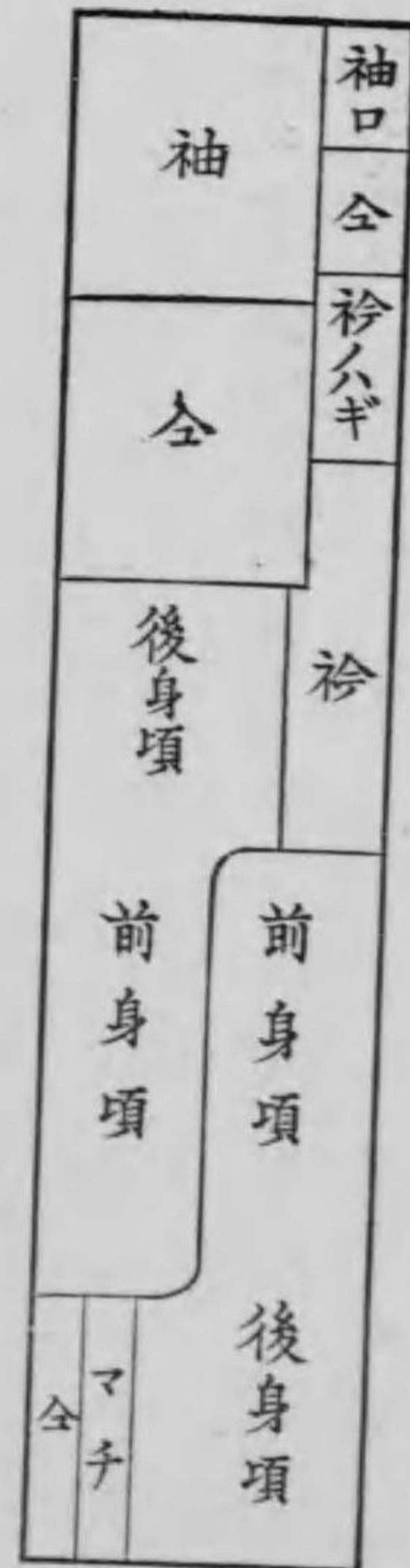
中裁女羽織の普通仕立上げ寸法を述べよ。
半幅衿の折り方は如何にすべきか。
四つ身羽織の仕立方順序を問ふ。

第三 三つ身羽織裁ち方積り方仕立上げ寸法

一、並幅長さ一丈四尺にて三つ身羽織袂袖の裁ち方
裁ち切り寸法

袖丈 一尺四寸五分	袖幅 七寸二分	後丈 二尺五寸
前丈 三尺二寸	後幅 六寸	前幅 四寸五分
衿肩明 一寸六分 <small>内三分の廻し</small>	襠丈 いっぱい	襠幅 いっぱい
衿丈 四尺三寸	衿幅 三寸	袖口丈 一尺一寸

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = 袖丈 × 4 + 後丈 × 3 + 後前の差

後丈 = [總丈 - (袖丈 × 4 + 後前の差)] ÷ 3

前丈 = 後丈 + 後前の差

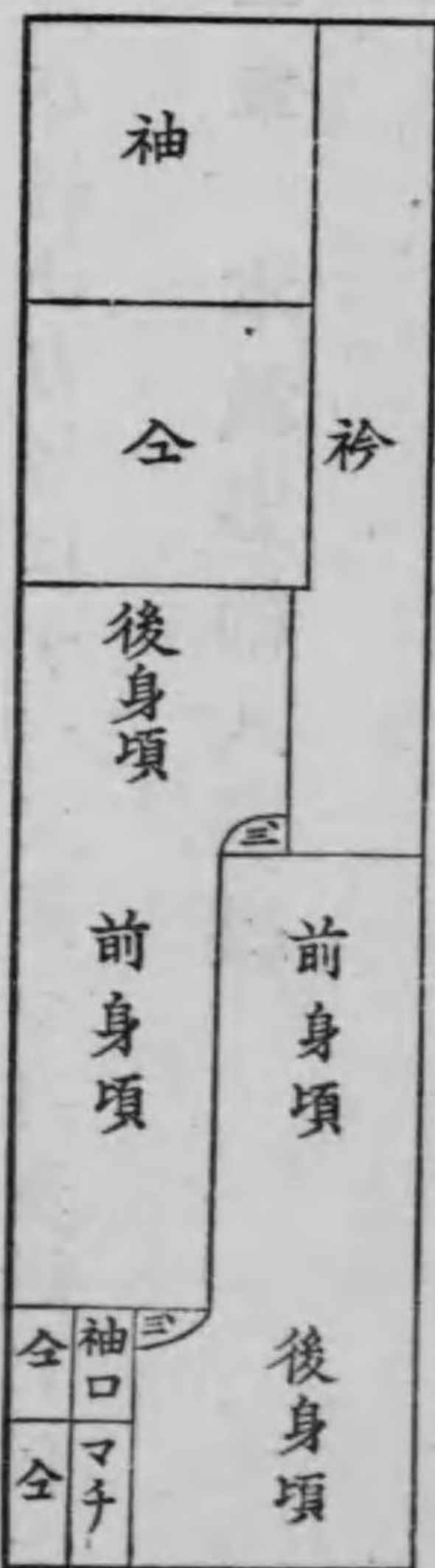
袖丈 = [總丈 - (後丈 × 3 + 後前の差)] ÷ 4

二一尺幅長さ一丈一尺にて三つ身筒袖羽織の裁ち方

裁ち切り寸法

- 袖丈 七寸 袖幅 七寸 後丈 二尺四寸七分
- 前丈 三尺二寸 後幅 六寸 前幅 四寸五分
- 衿肩明 一寸六分内三分の廻し 襷丈 一尺五寸 襷幅 二寸
- 衿丈 四尺三寸以上 衿幅 三寸 袖口丈 一尺
- 袖口幅 二寸

裁ち方の圖



積り方公式

前題に同じ。

但し第二項後丈の算法は總丈より袖丈の四倍と前後の差とを減じ之れを三にて除したるものより更に三分を減じたるものとす。

三三つ身羽織普通仕上げ寸法

い 袂袖

- 袖丈 一尺三寸八分長着より三分長く 袖口明 三寸五分乃至四寸
- 袖附 四寸一分長着より一分多く 袖幅 六寸六七分長着より二分廣く

身丈 一尺七寸

身八つ口 二寸

前下り 六分

衿肩明 一寸四分

後幅 いっぱい

前幅 いっぱい

紐附 五寸五分肩より

襠幅 下一寸三分 上五分

衿幅 一寸二分

ろ 筒袖

袖丈 六寸三分 長着より三分長く

袖口明 三寸三分乃至三寸八分 長着より三分多く

袖附 四寸五分内外 長着より二分多く

袖幅 六寸六七分内外 長着より一分長く

右の標附け方及び縫ひ方等はすべて四つ身羽織に同じ。

第十一章 本裁男綿入羽織

第一 裁ち方・積り方

い 表用布 並幅二丈八尺二寸

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸

衿丈 六尺四寸

後丈 三尺四寸五分

前丈 四尺四寸五分

衿肩明 二寸七分 内四分の廻し

袖口 一尺八寸

ろ 裏用布 並幅一丈二尺三寸二分

裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸

後丈 一尺九寸三分

前丈 一尺二寸三分

此の他裁ち方及び折り方の圖積り方算法等は、表裏共に總べて前の女綿入羽織に同じ。

【設問】

二丈九尺の反物にて男物羽織の表を裁たんとするに、身丈二尺七寸五分に仕立上げんとせば、衿丈何程に裁ち切るべきか。又之れに要する裏地の總丈を述べよ。
但し袖丈は一尺四寸七分の裁ち切りとす。
地厚の品は衿肩を何分後身に繰り越すべきか。

第二 本裁男綿入羽織仕立方

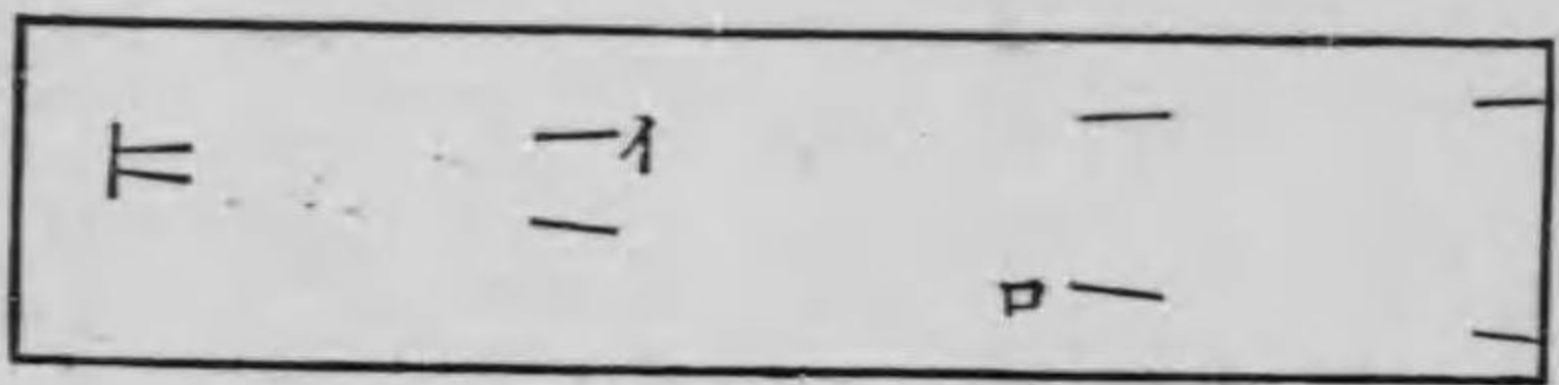
一 普通仕立上げ寸法

袖丈 一尺四寸二三分 長着より二分長く 袖口明 七寸五分乃至八寸
袖附 全體 袖幅 八寸八分乃至九寸 長着より二分長く
身丈 二尺六七寸 前下り 一寸
衿肩明 二寸五分 後幅 八寸
前幅 五寸 紐附 八寸 肩より

襠幅 下一寸八九分 上いっばい 衿幅 二寸
衿 一尺七寸六分

二 標附け方

標附けの順序は女綿入羽織の時の如く袖胴接ぎ。後身頃・前身頃・襠・衿と順次に附け行くべし、又其の法に於ても袖・身頃・衿等は、八つ口を除く、全く同じことにして、只襠のみは上部をあげざるを以て圖の如く先づ丈をはかり、次に前身頃につく方に並の縫代を取り、これより襠の仕立上げの幅に一分を加へてはかりて残り、後の縫込みとなし、幅の三分一を後身につく方の曲りとして、(イ)の標をつけ、丈標の處



にて着せの分一分あけて其の残りを前身頃の曲りとして(口)の如く標すべし。

三 縫ひ方順序

袖の八つ口を除くの外縫ひ方の順序方法及び綿の入れ方等すべて前章女綿入羽織に同じ。

但し紐付けは女物と反對に、上より下へ向けて重ねべし。

【設問】

本裁男羽織の普通仕立上げ寸法を述べよ。

男綿入羽織の標付け方を圖解せよ。

男綿入羽織袖附の留め方を述べよ。

第十二章 本裁男袴羽織

第一部分縫

一 前身頃及び襠

標付け方

い 前身頃の標附は第十章女綿入羽織部分縫の時と同じく、二尺三寸の部分縫用布二枚を表裏の前身頃と看做して前幅(いっばい)前下り(一寸)脇明(八寸六分)紐附(五寸)の標をつくべし。

ろ 襠 襠も亦女綿入羽織部分縫の時の如く四つ割り幅一尺八寸の布一枚を取り、表を外にして二つに折り丈を度りて上の縫代を裏の方に折り返し、躰をかけ、真中に假綴をなして後前の曲りの標を附くべし、其の仕方は前章男綿入羽織の時に同じ。
縫ひ方 先づ前下りを縫ひ、裾口の山を五厘表の方にずらして

表の標の五厘上と裏の標の五厘下とを合せて縫ふ裏へ返して平簾をかくべし。

二 衿の折り方及び付け方

い 衿の折り方 前の女綿入羽織の時と同じ方法にて折り、折り目に烙鏝をかけて合標をつくべし。其の寸法は最初衿幅の二倍に六分を加へて外表に折り、中になるべき布はそれより六分五厘をひきて折り、次に縫代として輪の方を三分五厘一枚の方を三分に折り、輪の方を五厘出して幅を二つに折り山丈及び合標をつくるなり。

ろ 衿の付け方 前身頃の裏に衿の二枚になりたる方を合せ、前身頃を三つ或は四つに折りて其の中に畳み込み、裾口より紐

附迄は衿も身頃も同じ張り方にして合標を合せて待針をなし、それより上は衿を稍弛めにして肩より三寸程手前迄縦の折り目の七厘程上を一枚の方は二厘程上一針抜きに四つ縫ひになり、此の處にて一針返して之れより衿の一枚の方をはなし、輪即ち二枚の方と身頃とのみを縫ひ付け、衿先を縫ひて裏の方に返し縫ひ込みを綴ちつけ、次に上方より衿をひき返し衿先を整へ、衿の一枚の方の残りを小針に紵けつけ、次に前襠を前身頃に合せ襠を稍張りめにして待針をなし、下より一針抜きに四つ縫ひにすべし、其の仕方は下方は留結にして襠の折り目の裏の方より身頃の折り目に通し小さき針目にて輪を造りこれに貫き通して能く引きしめ、上方は一針返して更に一寸程返し針をなすべし、又地薄の品は留の處に小さき布を附するをよしとす、

次に襟及び衿に襷をかくること綿入羽織に同じ。

【設問】

本裁男衿羽織の襟付け方を述べよ。

本裁男衿羽織衿の折り方及び付け方を述べよ。

第二 本裁男衿羽織裁ち方・積り方

裁ち方・積り方共に前章綿入羽織に同じ。(本書一三二頁参照)

第三 仕立方

一 普通仕立上げ寸法

二 標付け方

右何れも前章綿入羽織に同じく、只袖口の掛け方に於て袖口
ぎれを幅一分出して裏布の上に置き、並の縫代にて標すること

男衿の如くするのみなり。

三 縫ひ方順序

- 一 表裏袖
- 二 後前の胴接ぎ
- 三 脊縫
- 四 前下り
- 五 後襟
- 六 衿附の假綴
- 七 紐附
- 八 衿附
- 九 衿先
- 一〇 表衿の衿肩紵
- 一一 前襟
- 一二 表袖附
- 一三 裏袖附
- 一四 衿附の襷
- 一五 仕上げ

1 表裏の袖 先づ裏袖に袖口をかけ、表裏の口明を合せ袖口
元に四つ留をなし、口明を合せて袖口下より袖下の二寸程手前
まで四つ縫ひにし、それより先きは表裏別々に縫ひ行くべし。

2 胴接ぎ・脊縫及び前下り 標の通り表裏の胴接ぎをなし裏
へ返して襷をかけ、表裏の脊を合せ(裏を向ふに衿肩を右にもち

て胴接ぎの處を揃へて待針をなし、表を見て衿肩の方より一針抜きに四つ縫ひにし終りは襠の下方と同じ留をなして二寸程返し針をなし、表を出して平襠をかくべし。次に前下りを部分縫の通り裾口の山を表へ五厘ずらして表の標の五厘上と裏の標の五厘下とを合せて裏の幅を稍弛めにして縫ひ、裏に返して平襠をかくべし。

3 後襠及び衿附 襠丈の縫ひ込みを折り平襠にて止め、後身頃にて後襠を包み一針抜きに四つ縫ひにし始め終りを部分縫の通りにとめ身頃の方に折り返して表より平襠をかけ、次に前身頃衿附の處に假綴をなし紐附をつけ、それより裏身頃の脊線と衿の真中とを合せて待針をなし衿の表裏にて前身頃を挟み標を合せて待針をなし、左前より一針抜き若くは返し針に四

つ縫をなし紐附の處はよく針留めをなして第一の合標の處まで縫ひ、一針返して表衿(一枚の方)をはなし裏衿のみを身頃の方につけ右前の第一の合標の處まで縫ひ、此處にて返し針をなし左前の時の如く身頃を表裏衿にて挟み四つ縫をなすべし。

4 衿先及び表衿の衿肩筋 衿の裏身頃につきたる方を稍弛めに合せて衿先を縫ひ裏に返して縫ひ込みを綴ちつけ、衿肩明の處より靜かに引き出し前に明け置きたる處の表衿を小針に紵けつくべし。

5 前襠及び袖附 前襠を前身頃の表裏にて包み襠を稍張りめにして後襠と同じ仕方にて四つ縫をなし、前身頃の方に返して表より平襠をかくべし。

次に表袖を稍弛めに表身頃に合せ袖下の處に四つ留をな

し留の仕方は袖にて身頃を包む留め際一寸五分程の間は身頃の幅標より五厘先きを斜に折りて小針に刺し縫ひにし、其の他は開きて合せ縫ひをなし袖の方に折りて表より平襷をかけ、縫ひ込み多きものは裏に割り襷をかく、次に裏袖に留をなし、身頃にて袖を包み表の縫ひ込みにかけて四つ留をなす留め際の處は袖の方を斜に折りて後身の方より附け始め、前身頃の方五寸程を残しおき此の處より引き返して小針に紵けつけ折り目は身頃の方に返すべし。

又袖の開きつけとて袖をつくるに、前の如く最初に袖の全體を縫ひおかずして初め袖口のみを合せ置き、後襷及び衿をつけたる後、先づ表袖をつけ袖の方に折りて表より平襷をなし、次に裏袖を前身頃の方五六寸残してつけ身頃の方に折り返して

また襷をかけ、それより表裏の袖附元を合せて表袖二枚裏袖二枚に針を通し、これを小さく返して後の表裏身頃二枚前の表身頃一枚を抄ひ、細結こむすびにして四つ留をなし、次に袖の口明元より袖下の四つ留まで表裏合せて四つ縫ひをなし、袂丸を拵へ前袖附の明け置きたる處より引き返してよく折りをつけ襷をなし、前襷をつけて裏袖附の残りを紵けつくるなり。

注意 此の仕方は技術の進みたる上ならでは手ぎは巧みに行かぬもの故、初學者は前に述べたる仕方によるを可とす。

6 衿附の襷及び仕上げ等、前章綿入羽織に同じ。

【設問】

- 男衿羽織衿丈のはかり方及び衿附の時の弛め加減を述べよ。
- 男衿羽織の縫ひ方順序を問ふ。
- 男衿羽織の袖の開きつけの仕方如何。

第十三章

片面物及び中幅大幅物にて
羽織の裁ち方・積り方及び各
種羽織普通仕立上げ寸法表

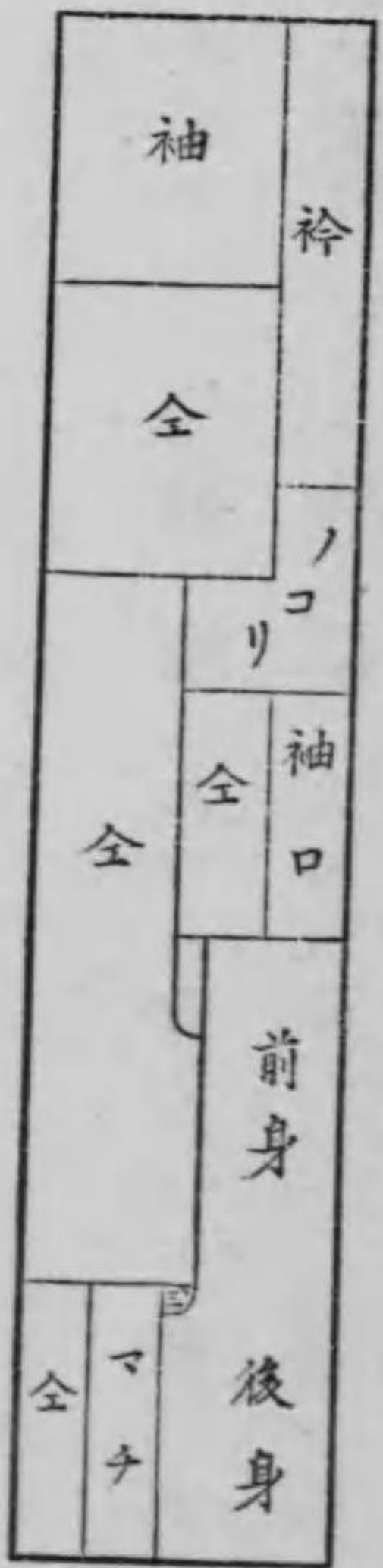
第一 片面物にて小裁羽織の裁ち方

幅一尺長さ一丈四尺の片面物にて小裁羽織の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈	一尺五寸	袖幅	七寸	後丈	二尺五寸
前丈	二尺九寸七分	後幅	五寸九分	前幅	四寸一分
衿肩明	一寸八分	衿幅	三寸	袖口丈	一尺二寸
衿丈	四尺五寸				

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = 袖丈 × 4 + 後丈 × 3 + 後前の差
 後丈 = {總丈 - (袖丈 × 4 + 後前の差)} ÷ 3
 前丈 = 後丈 + 後前の差
 袖丈 = {總丈 - (後丈 × 3 + 後前の差)} ÷ 4

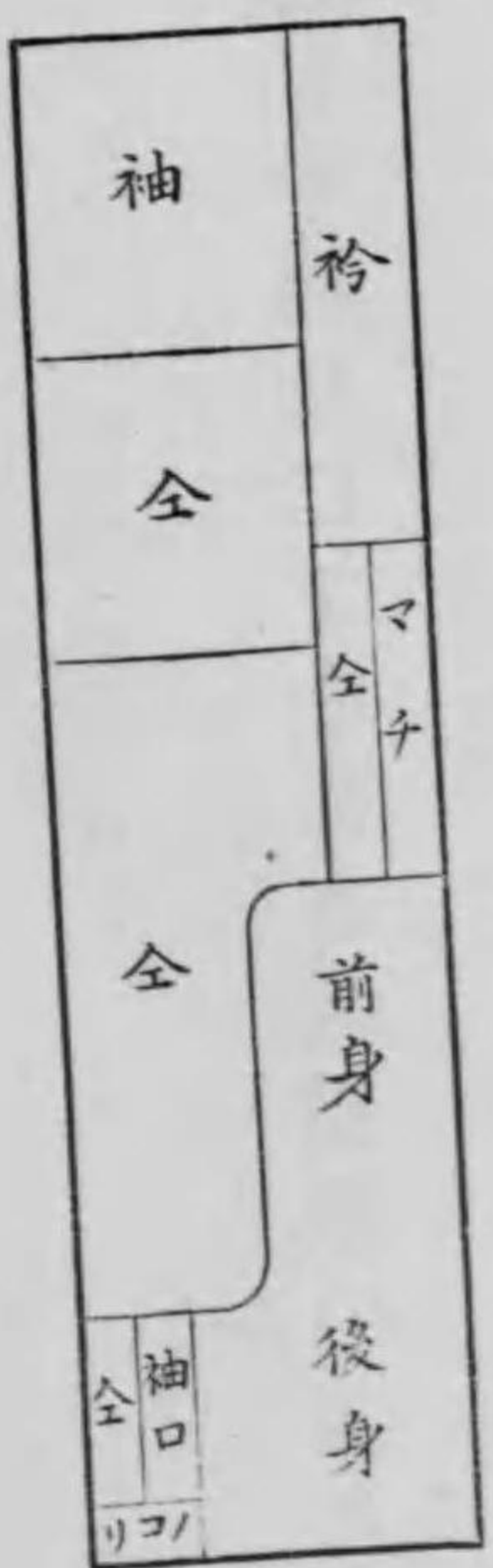
第二 中幅物にて中裁本裁羽織の裁ち方

一、幅一尺二寸長さ一丈五尺の布にて中裁羽織の裁ち方
裁ち切り寸法

袖丈	一尺六寸	袖幅	八寸	後丈	二尺六寸
----	------	----	----	----	------

前丈 三尺四寸 後幅 八寸 前幅 六寸
 衿幅 四寸 衿肩明 二寸 衿丈 五尺二寸
 袖口丈 一尺二寸

裁ち方の圖



積り方公式

前題小裁羽織に同じ。

二幅一尺二寸長さ二丈二尺の用布にて本裁男衿羽織の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸 袖幅 九寸八分 後丈 三尺五寸
 前丈 四尺五寸 後幅 九寸五分 前幅 六寸八分

衿幅 五寸二分 衿肩明 二寸七分内四分の返し 袖口丈 一尺七寸

裁ち方の圖



積り方公式

總丈 = (袖丈 + 後丈) × 4 + 後前の差 × 2
 後丈 = {總丈 - (袖丈 × 4 + 後前の差 × 2)} ÷ 4
 前丈 = 後丈 + 後前の差
 袖丈 = {總丈 - (後丈 × 4 + 後前の差 × 2)} ÷ 4

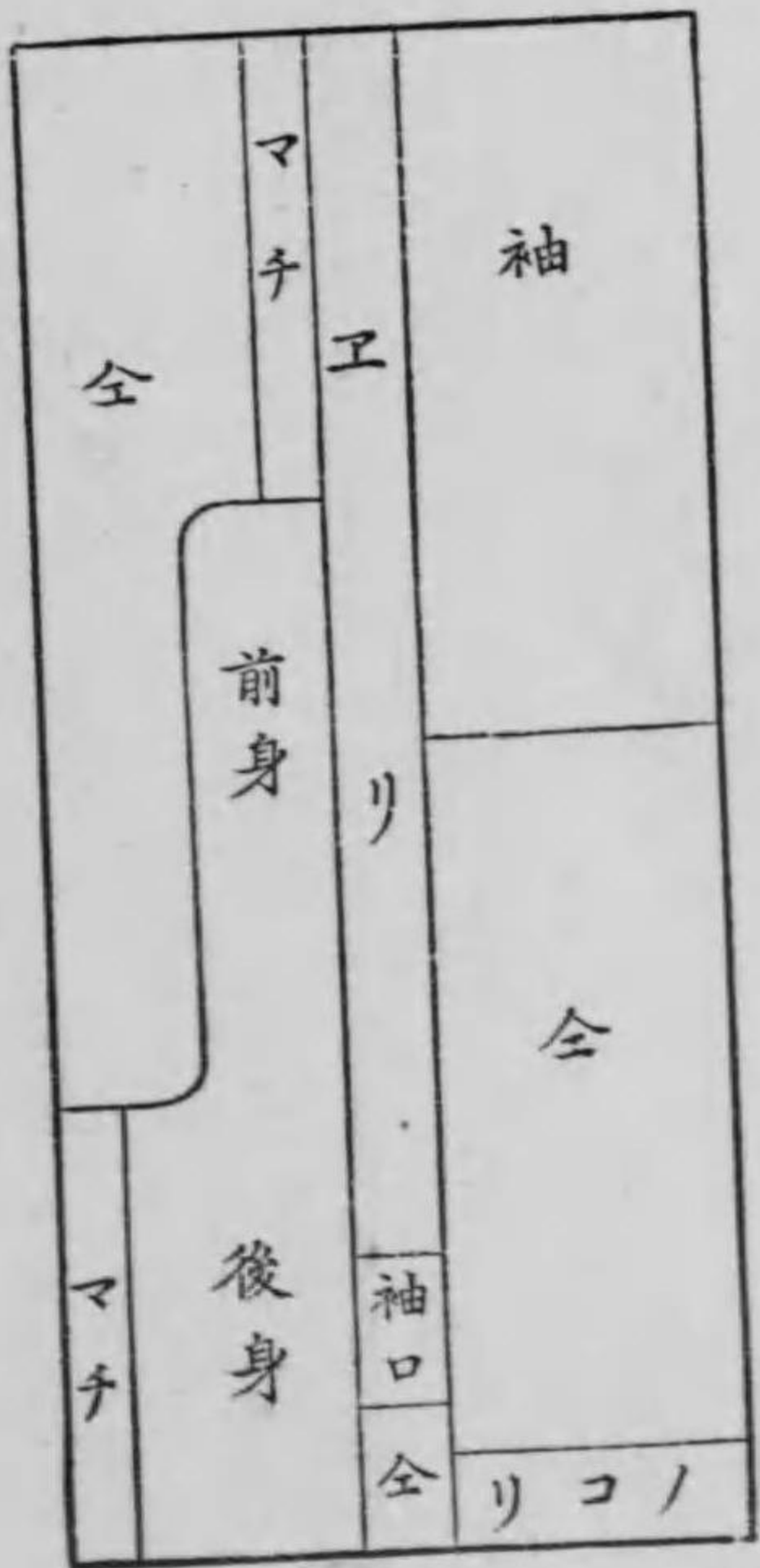
第三 大幅物にて小裁中裁本裁羽織の裁ち方

一 幅二尺長さ六尺五寸の両面物にて小裁羽織の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸	袖幅 七寸五分	後丈 二尺
前丈 二尺五寸	後幅 六寸三分	前幅 四寸七分
衿肩明 一寸六分	衿丈 四尺三寸	衿幅 三寸一分
袖口丈 一尺一寸		

裁ち方の圖



積り方公式

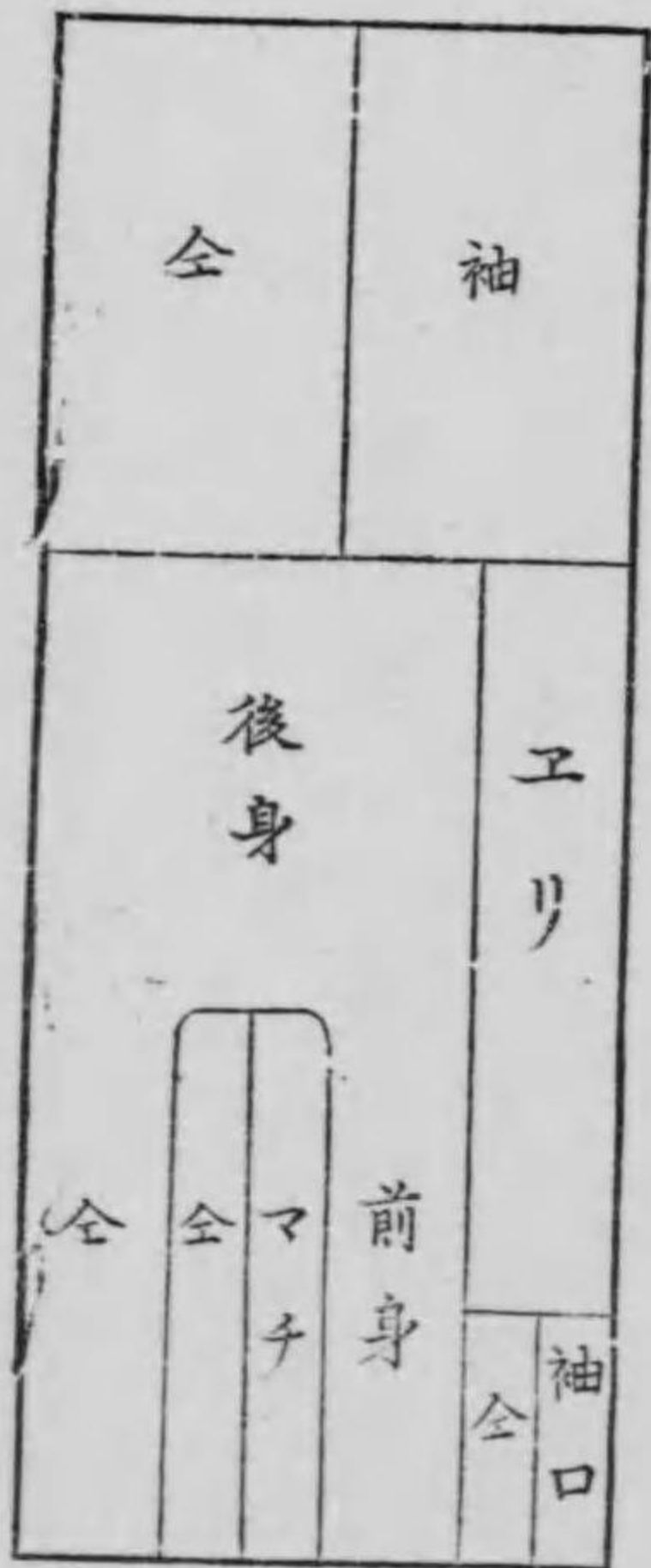
總丈 = 後丈 × 3 + 後前の差

後丈 = (總丈 - 後前の差) ÷ 3
前丈 = 後丈 + 後前の差

二、幅一尺八寸長さ九尺の用布にて中裁羽織の裁ち方
裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸	袖幅 九寸	後丈 二尺六寸
前丈 三尺二寸	後幅 一尺四寸	前幅 五寸
衿肩明 二寸	衿幅 四寸	袖口丈 一尺二寸
襷幅 二寸		

裁ち方の圖



積り方公式

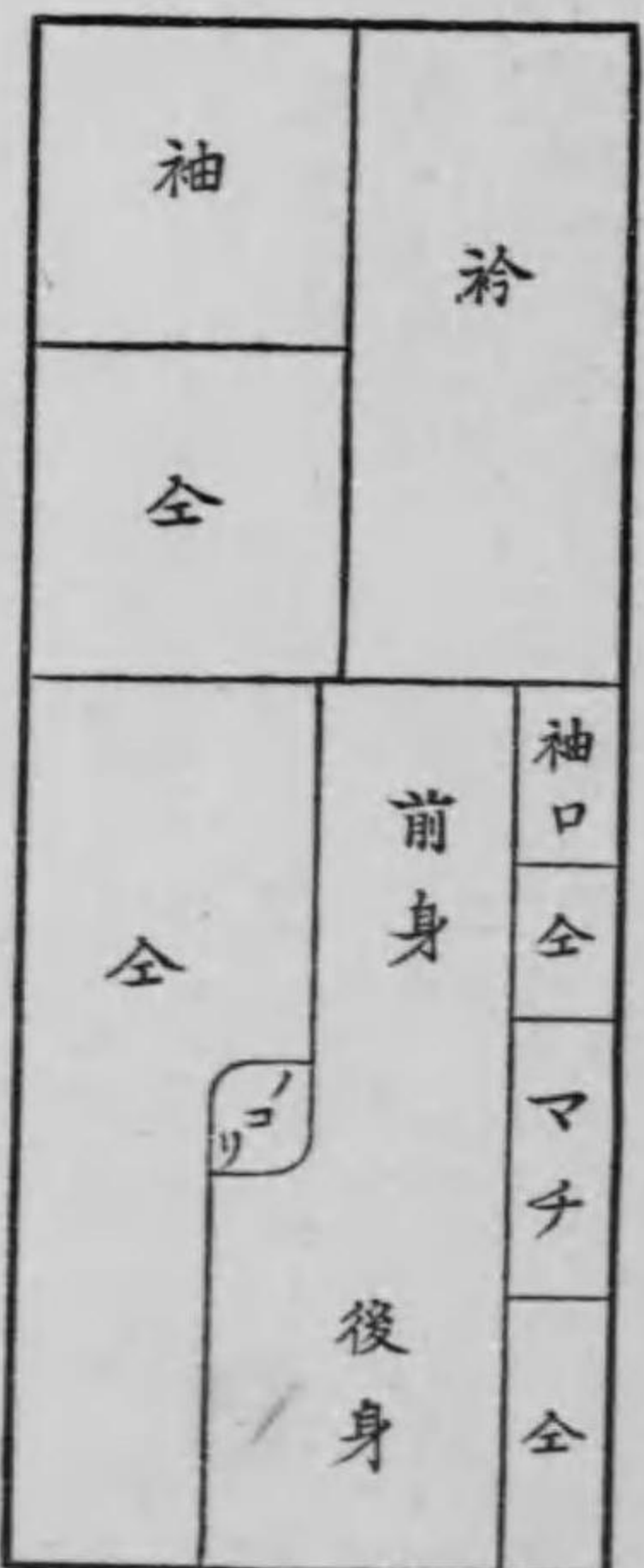
$$\begin{aligned} \text{總丈} &= \text{袖丈} \times 2 + \text{後丈} \times 2 + \text{後前の差} \\ \text{後丈} &= \{ \text{總丈} - (\text{袖丈} \times 2 + \text{後前の差}) \} \div 2 \\ \text{前丈} &= \text{後丈} + \text{後前の差} \\ \text{袖丈} &= \{ \text{總丈} - (\text{後丈} \times 2 + \text{後前の差}) \} \div 2 \end{aligned}$$

三幅一尺六寸五分長さ一丈五尺の用布にて本裁女物羽織の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈	一尺六寸	袖幅	九寸五分	後丈	三尺九寸
前丈	四尺七寸	後幅	八寸五分	前幅	五寸八分
衿肩明	二寸七分	衿幅	七寸	袖口丈	一尺六寸
袖口幅	二寸四分				

裁ち方の圖



積り方公式

$$\begin{aligned} \text{總丈} &= \text{袖丈} \times 4 + \text{後丈} \times 2 + \text{後前の差} \\ \text{後丈} &= \{ \text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{後前の差}) \} \div 2 \\ \text{前丈} &= \text{後丈} + \text{後前の差} \\ \text{袖丈} &= \{ \text{總丈} - (\text{後丈} \times 2 + \text{後前の差}) \} \div 4 \end{aligned}$$

以上の説明により各種羽織の種類を終りたれば、左にその普通寸法を述べし。

但し袖丈身丈等は時の流行によりて長短を異にすべく、又

身幅・襠幅等は着用者の肥瘦によりて廣狹あるものなれば能く斟酌して仕立つ可きなり。

第四 各種羽織普通仕立上げ寸法表

各部の名稱	種類	袖無羽織	三つ身	四つ身	本裁女物	本裁男物
袖丈		一尺三寸八分 <small>(長着より三分長)</small>	一尺四寸八分 <small>(同上)</small>	一尺五寸七分 <small>(長着より三分)</small>	一尺四寸二分 <small>(同上)</small>	
袖口		三寸五分 <small>(長着より一分多)</small>	四寸五分 <small>(同上)</small>	六寸五分 <small>(長着より二分)</small>	七寸五分 <small>(同上)</small>	
袖幅		六寸七分 <small>(長着より三分)</small>	四寸六分 <small>(同上)</small>	六寸七分 <small>(長着より二分)</small>	八寸八分 <small>(同上)</small>	
身丈		一尺七寸	二尺内外	二尺五六寸	二尺六七寸	
身八つ口		一尺五寸	二尺内外	二尺五六寸	二尺六七寸	
脇明		五寸五分	二寸	二寸五分	二寸五分	

各部の名稱	種類	袖無羽織	三つ身	四つ身	本裁女物	本裁男物
前下り		二寸	六寸	七寸	一寸	一寸
前肩明		一寸一分	一寸四分	一寸八分	二寸五分	二寸五分
後幅		いっばい	いっばい	六寸五分	七寸五分	八寸
肩幅		いっばい	いっばい	八寸	八寸	八寸
前幅		いっばい	いっばい	四寸八分	五寸	五寸
紐附		五寸 <small>肩より</small>	五寸五分 <small>肩より</small>	六寸 <small>肩より</small>	八寸 <small>肩より</small>	八寸 <small>肩より</small>
襠幅		上下 九寸五分	上下 一寸三分	上下 いっばい	上下 一寸七分	上下 一寸八分
衿幅		一寸二分	一寸二分	一寸四分	一寸七分	二寸
衿		九寸 <small>内長</small>	九寸 <small>外長</small>	一尺二寸二分 <small>(同上)</small>	一尺六寸六分 <small>(同上)</small>	一尺七寸六分
脊紋下り		一寸三分	一寸三分	一寸四分	一寸五分	一寸五分
袖紋下り		一寸六分	一寸六分	一寸八分	一寸八分	一寸八分
抱紋下り		三寸	三寸五分	三寸五分	四寸	四寸

筒袖仕立上げ寸法

各部の名稱	種類	身		前		衿	裁
		三	つ	六	八		
袖丈		六寸	三分(長着より)	六寸	八分(同上)		
袖口		三寸三分乃至三寸八分(長着より)		三寸八分乃至四寸三分(同上)			
袖附		四寸二分内(長着より)		五寸内(同上)			
袖幅		六寸六分内外(長着より)		八寸二分内外(同上)			

【設問】

メリンス友禪一丈五尺にて小裁羽織を裁つに袖丈一尺五寸後丈二尺五寸になすときは前丈は何程となるか。
及びその裁ち方を圖解して寸法を記入せよ。
中幅物(一尺二寸)にて袖丈一尺七寸後丈二尺八寸前丈三尺五寸の中裁羽織を裁たんとするときは用布何程を要するか。

第十四章 手提袋の類

手提袋の類は時々流行によりて、其の形の變化し行くものにして、一定すべきものにあらず、今其の内仕立方も簡易にして、且つ實用的のもの二三種を選びて記述すべし。

第一 桔梗形手提袋

一 裁ち方

表用布 幅一尺三寸長さ六寸五分或は二尺幅の三つ割にて長さ一尺三寸
裏用布 表と同寸

二 縫ひ方順序

1 表用布の貼り方 前に裁ち置きたる型紙の周圍に細く糊をつけ、之を表用布に貼りて四枚とも型紙通りに裁ち切り、其の

切り口に細く縁糊をなしおくべし。

2 表の縫ひ方 表用布を取りて二枚づつ合せて小針に返し縫をなして片返しに折をつけて烙鋺をかけ、更に今縫ひたる布と布とを合せて、紐通しの部分を残し其の上下を亦返し針に縫ひ、折を附けて烙鋺をかけ、口のところを型紙の筥標通りに折り置くべし。

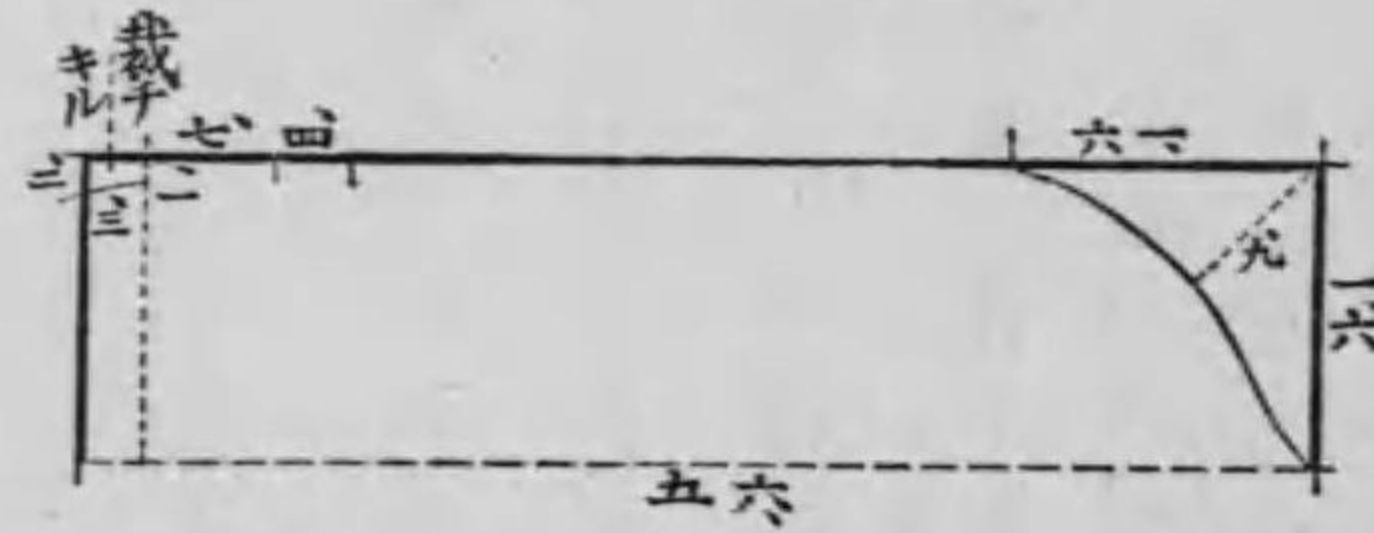
但し折は何れも向ふへ向ふへと返し、又下部の縫ひ終りは四枚とも凡そ一分程づつを縫ひのこしておくものとす。

生半紙 二枚(型紙用)

外に打紐太さ直径一分程にて長さ四尺五寸と總用として絹絲若しくは小町絲五分ばかりを要す。

先づ半紙を取りて幅三寸二分、長さ六寸二分に裁ち切り、更に

圖の方ち裁



之を二つに折りて圖の如き寸法に標を附け、能く其の形を見て標の通りに裁ち切り、口の處に點線通り筥にて強く線を附け、脇に紐通しの穴を明くべき標をつけ、之を型紙として同じ形に別に半紙三枚、裏用布四枚とを裁ち切り置くべし。

3 裏の縫ひ方 裏用布四枚を取りて表より縫代を稍深目に小針に縫ひ合せ、表と反對に折りを返すべし。

4 紐通し及び口の折け方 豫め用意し置きたる打紐四尺五寸の中より三寸程を裁ち切り、之を二つに折りて紐の長さ七八分を残して其の尖に長さ一寸二三分の總をつけ、輪の方を表布の下部の縫ひ残したる穴

圖の總



に引き通して布と紐とを確かと留め、之に裏用布の下部の四枚合せたるところを縫ひ合せて表裏の底を合せ、次に口の處表より裏を一分引きて折りをつけ

小針に紵け合すべし。

5 門留並に仕上げ 紐通しの穴の處、表布の折り返しを裏に折

出 來 上 の り の 圖



りて小針にまとひつけ、其の上下に門留をなし、次に此の穴の幅に上下表裏共に小針に縫ひ、紐を兩方より通して其の尖を圖の如く石疊みに結び置くべし。

注意 此の袋の名稱は、桔梗の花瓣に似たるより名づけたるものなれども、花瓣の数の異なるは紐通しのところを簡單になさんが爲なり。若し實物通り五瓣になさんとせば、一方は布幅の中央に鳩目穴をあけ、之より紐を通すことゝせば可なり。

第二 千代田袋

一 割り出し方

- 一、底を基本として他の部分の寸法を定むべし。
 - 一、底の丈は底幅の二倍とす。
 - 一、身頃の表幅は底の廻りの二分の一の寸法と、二角の弛みの分二分五厘と、外に縫代を加へたるものとす。
- 但し二枚を要す。

- 一、裏は表より丈幅共に一分を減ず。
- 一、袋の丈は底丈と同寸又は二三分を加へたるものとす。
- 一、籠付きのものは籠の深さだけの寸法を身頃の丈より減ずるものとす。

二 裁ち方

用布 凡そ幅一尺七寸五分、丈七寸

裁ち切り寸法

表身頃 幅七寸二分、長さ五寸二分

裏身頃 幅、丈共に表より一分を減ず。

底切 幅二寸八分、長さ五寸六分、角丸一寸

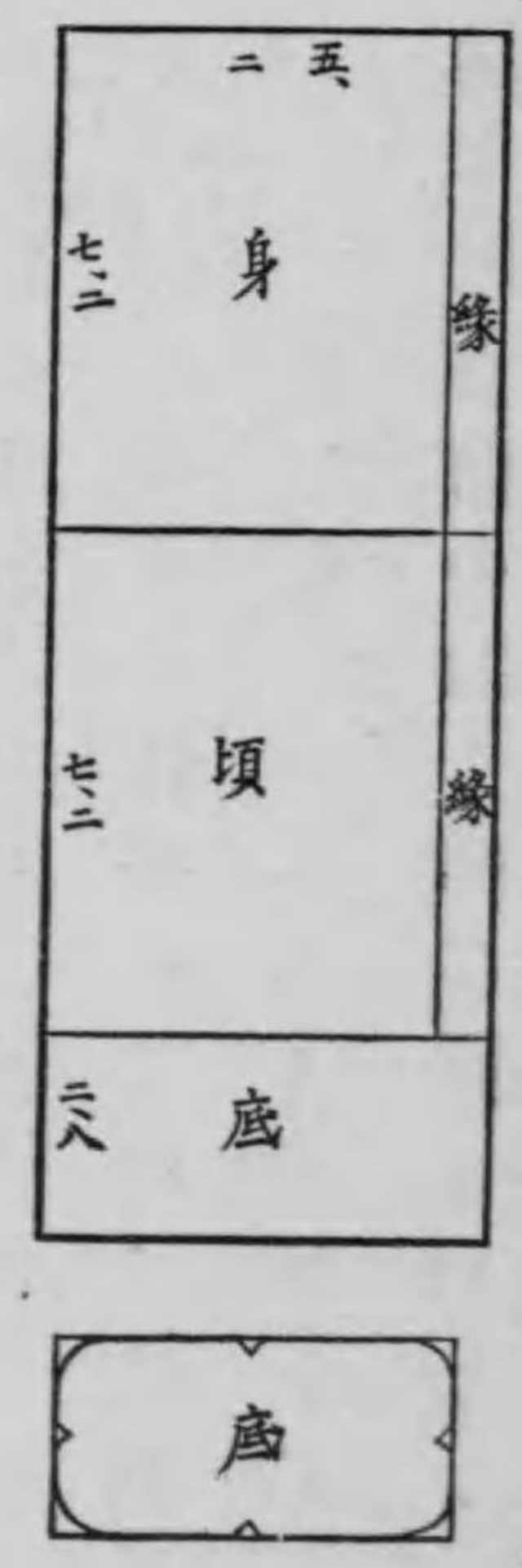
右表裏各一枚を要す。

縁切 幅一寸五分、長さ七寸二分

厚紙(ボール紙)丈幅共に底切より縫代四分を減ず。

外に打紐長さ四尺を要す。

裁ち方の圖



三 縫ひ方順序

- 一 底拵
- 二 身頃の兩脇及び縁附
- 三 底入れ
- 四 口拵
- 五 紐通し

1 底拵 身頃を底幅に合せ待針を打ちよく釣合を檢へ、次ぎに底紙に糊をつけ篋にて拭ひ取り、表底布を貼り付け、それより裏底布に糊を引きて、底紙の全面及び縁廻りより表布の縫代にかけて貼り合せ、廻りを二分の縫代に不同なく裁ち落す。

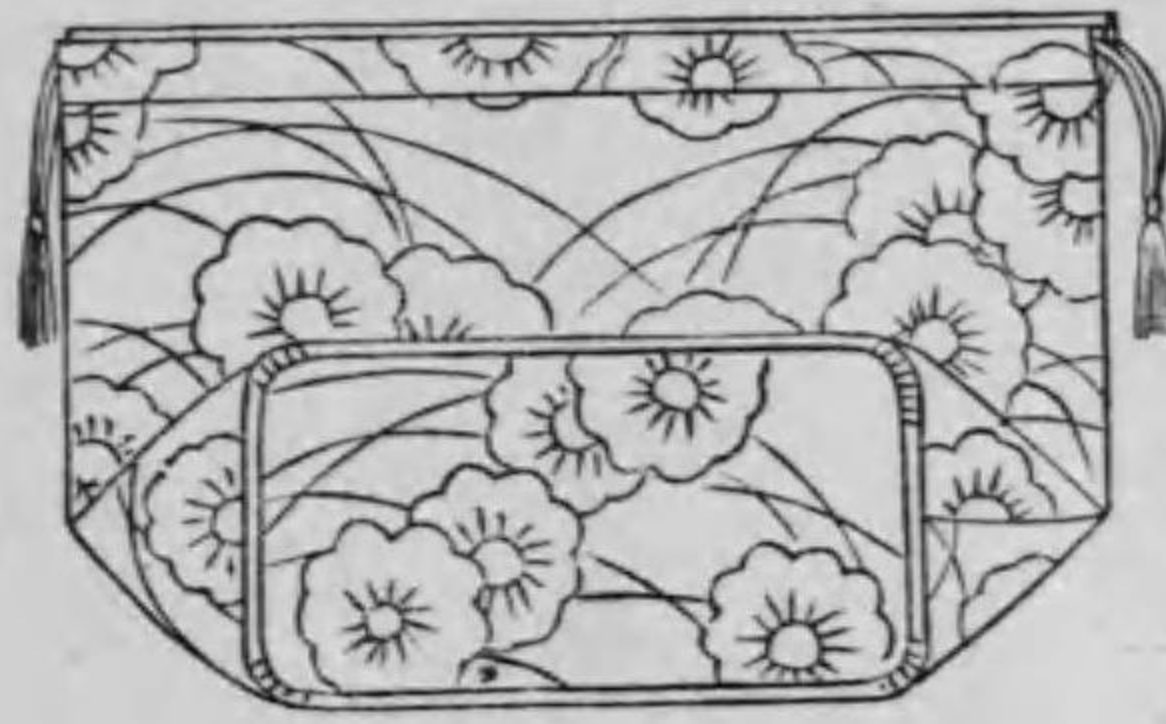
2 身頃の兩脇及び縁附 表裏共に兩脇の上部を八分程除き

て返し針に縫ひ、これを割りて左右に開き、縁切れの兩端を身頃の幅に合わせて伏せ縫をなし、二つに折りて表を縫ひ合せ、折りは表布の方に返し置く。

3 底入れ及び裏の口先まとひ 裏身頃の下方に糊をつけて底布を貼り、これに表身頃を合せて底布の縫代を挟み、表の方を見て底紙より三厘程離れたるところを返し針に縫ひ、裏の上部及び馬乗即ち左右の明きを小針に表にまとひつけ、よく仕上げをなすべし。

次に打紐を二つに切りて一本は左より通し左にかへりて兩端を結び、一本は右より通して右に戻り之も前の如く結び置くべし。

出來上りの圖



注意 表地質薄きものは、豫め裏打ちをなして用ふるを可とす。

第三 四季袋

寸法割出し方、裁ち方、底の拵へ方等すべて前の千代田袋に同じくすべし。仕立方は表裏身頃の兩脇を縫ひたる後底を入れ、次に口先は表を一分程裏に見返すか若しくは、口の處の馬乗明の寸法だけ裏に返し、裏を小針に紵けつけ、別に六尺許りのかぶり紐を用意し置き、口先一分位の深さに五六分程づつの間を置いてかぶり行き、之に前の如くして太き打紐を通して仕上げをなすべし。

旅行用の大なるものも亦同じ割出しにて寸法を定め、口先のかぶりの處には細き丈夫なる木綿切一枚を心に入れ置き、これ

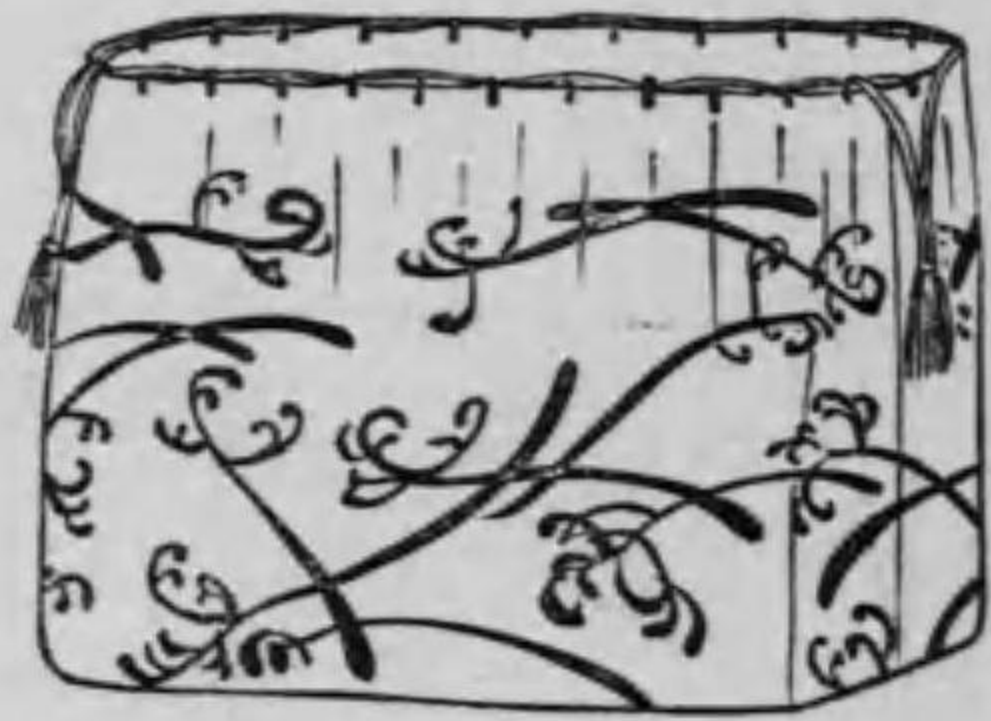
にかゝりの紐をかけ行くべし。底の心紙は中央より二つに裁ち、底折れになすもあり。

又底の厚紙の代りに籠を用ふることあり、此の時は前に述べたる割り出し法にて深さを定めたるものより、凡そ籠の深さだけを減ずるものとす、此の仕立方は口先の方を先づ作り置き、底附の際は身頃の表裏を共にして籠の外側に合せ、別に細き裏切れを籠の内側の方にあて、縫ひつけ、終らば前の細き布にて籠の縁を包み身頃の裏にまとひつけおくべし。(第二圖)

又携帯に便なるやう底を全く附けずして、表裏共布を二つに折り前の如く馬乗をあけて兩脇を縫ひ、中央の折れ角にオペラの如く五六分程の厚みとなる様横につまみて縫ひ底を作り、口は四季袋の如くかゝりて太き打紐を通しおくべし。(第三圖)

圖のり上來出

圖一第



圖二第



圖三第



【設問】

千代田袋寸法の割出し方を述べよ。

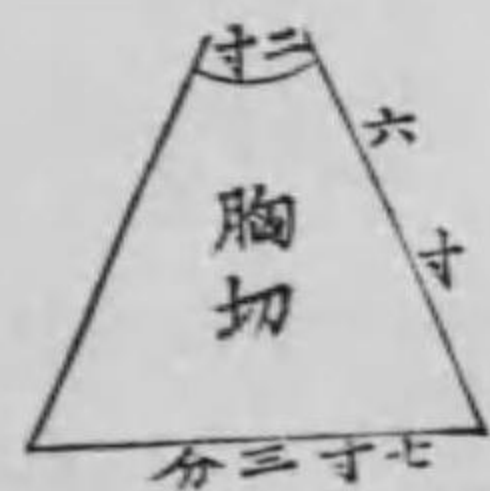
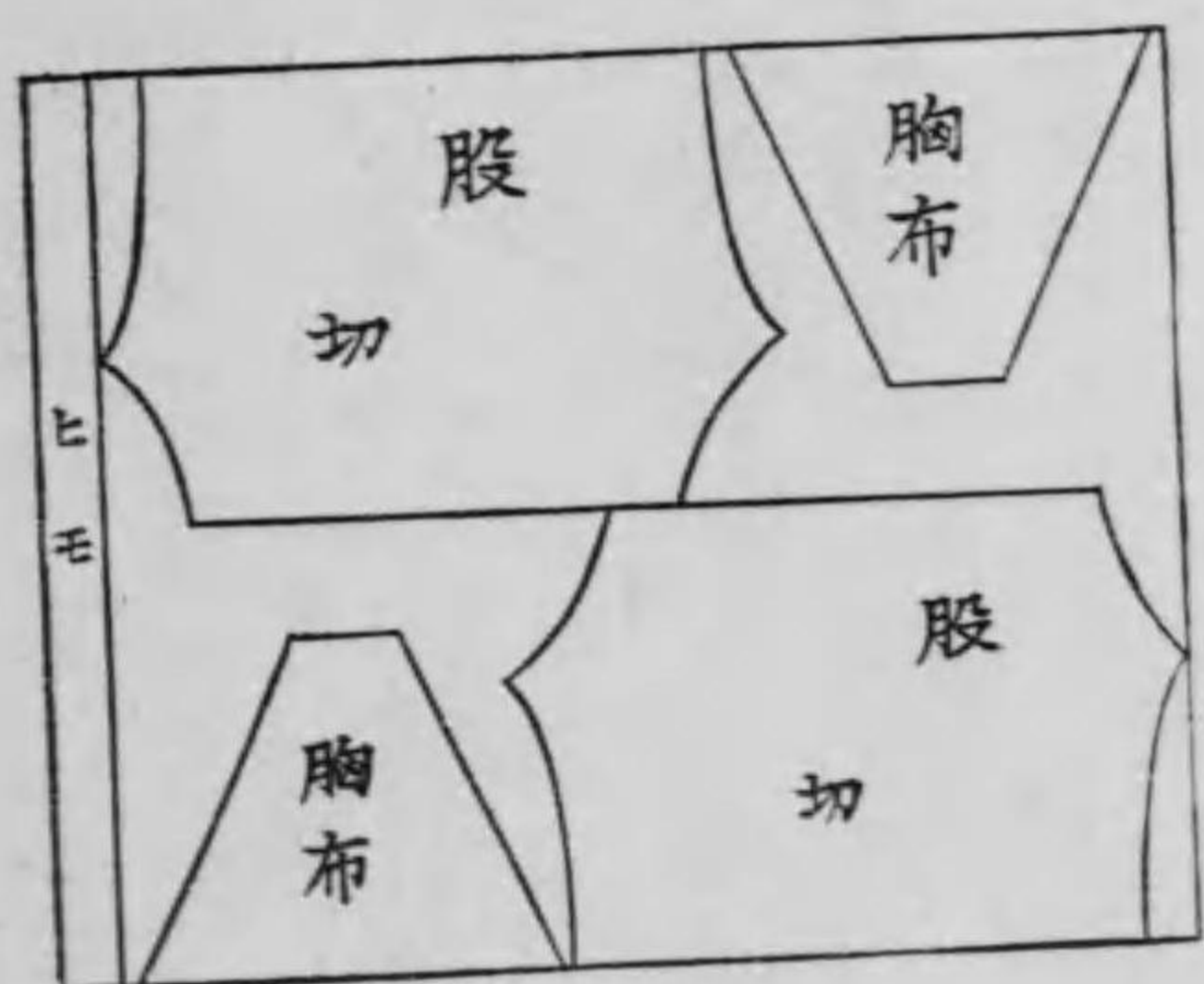
第十五章 子供腹掛

子供腹掛には裁縫の簡單なるものと複雑なるものと種々あれども中につきて實用的なるもの二種を擧ぐべし。

地質は單のものにはネル又はタオル地等にて作り裏附のものは表は多くメリンスを用ひ裏にはネル・金巾等を用ふ。

一用布 大幅(二尺幅)長さ一尺六寸にて四五歳兒用腹掛の裁ち

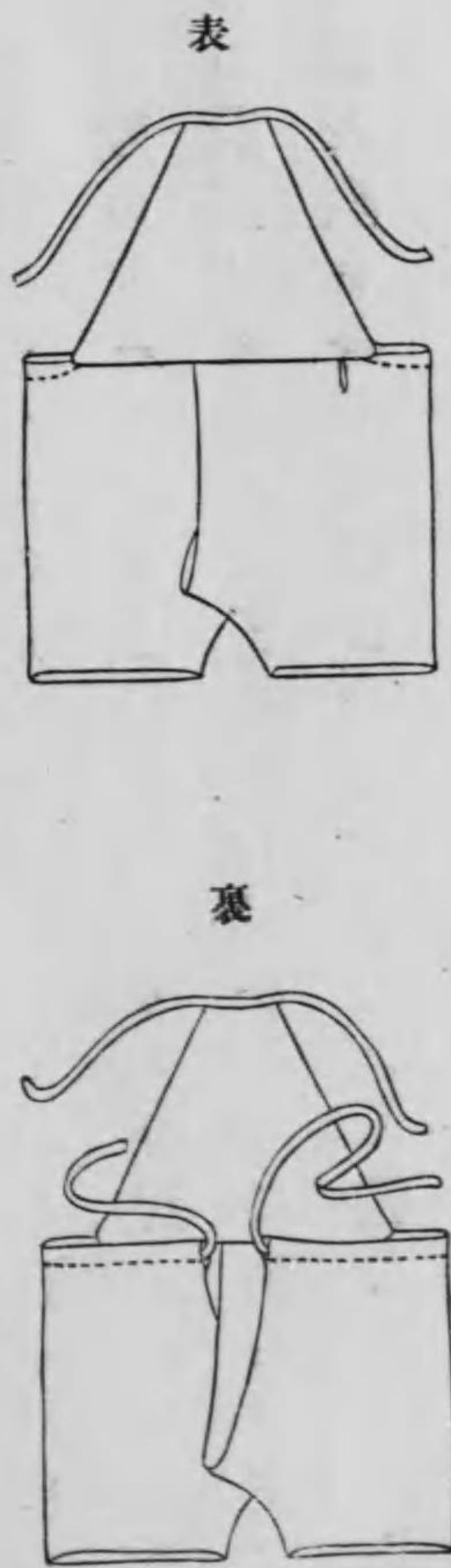
方



同縫ひ方

- 1 兩股の布を取り、縦に二つに折りて前後を合せ、胯下を縫ひ前の方に折り返して伏せ縫をなす。
- 2 内胯及び裾口を細く三つ折にして纏ひ縫をなし、上部は前の方四寸を除きて残りを四分幅の三つ折にし纏ひ縫をなすか三つ折縫をなし、中に一尺五寸のテープ若しくは細き紐を通し、テープの端は三つ折の始の處にて堅く留め置くべし。
- 3 兩股の前を左脚を上にして一寸五分程重ねて留め置き、胸切れの表裏にて挿みて三枚共に縫ひ、次に胸布の左右何れか一方は表裏を合せて縫ひ、一方は下方より縫ひ得る處まで縫ひ残りは紵け置きて上部に一尺三寸ばかりの細き紐又はテープを附くべし。

右終らば仕上げをなして疊み置くべし。



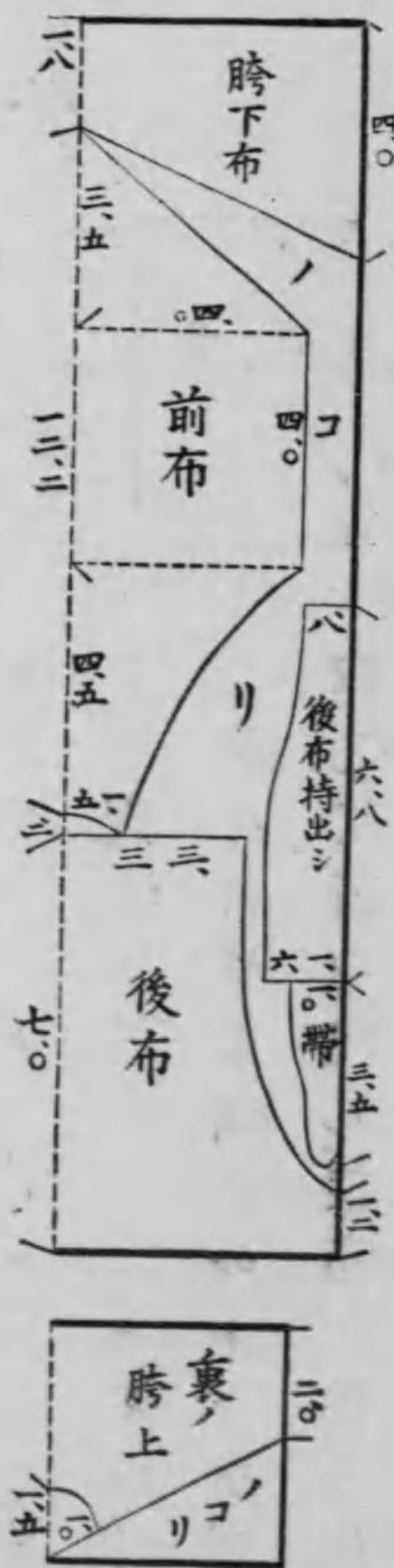
注意 紐の動かさざる様股切れと胸切れとを附けざる前に、左脚の前方胸切れの

附く處より一寸程内に入りたる處に紐通しの穴を附くるも可なり。

ニ、表用布 一尺幅長さ二尺一寸にて裏附腹掛の裁ち方
裏用布 幅長さとも表に同じ。

外にネル或は晒木綿幅八寸、長さ四寸のもの一枚(裏の
上用)を以て三四歳兒用裏附腹掛の裁ち方。

但し表裏とも裁ち方は同じ。



同縫ひ方

1 裏の胯上切れを取りて(イ)の部分に一二分幅の縁をかく、縁は共の斜切れ或は三四分幅のテープを用ふ。

2 表裏の胯下切れを取りて(ロ)の裾口を表裏縫ひ合せ、其の上部の表裏にて、胯上切れの(ハ)を挟みて三つ縫をなし、引き返して表を出すべし。

3 長さ七寸、幅二三分の紐二本を紵け置き、之を前布の(ニ)の左

右に挟みて表裏を合せて縫ひ、次に(ホ)及び(ハ)の四邊とも表裏を合せて、斜の延びぬ様注意して返し針に縫ひ、引き返して表を出し置くべし。

4 帶切れをとり(リ)の一方を残して(ト)の周圍を表裏合せて縫ひ、引き返して表を出し置くべし。

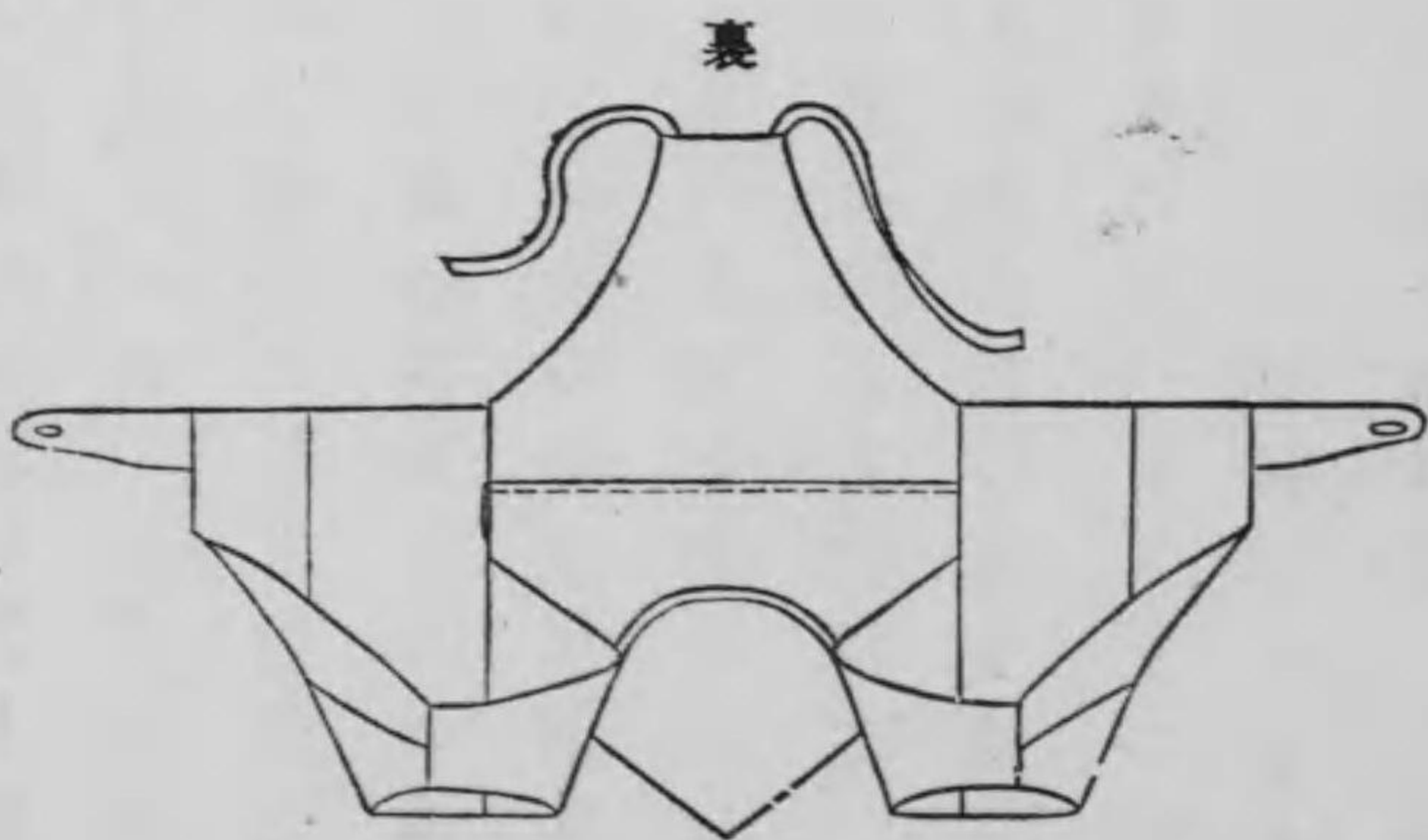
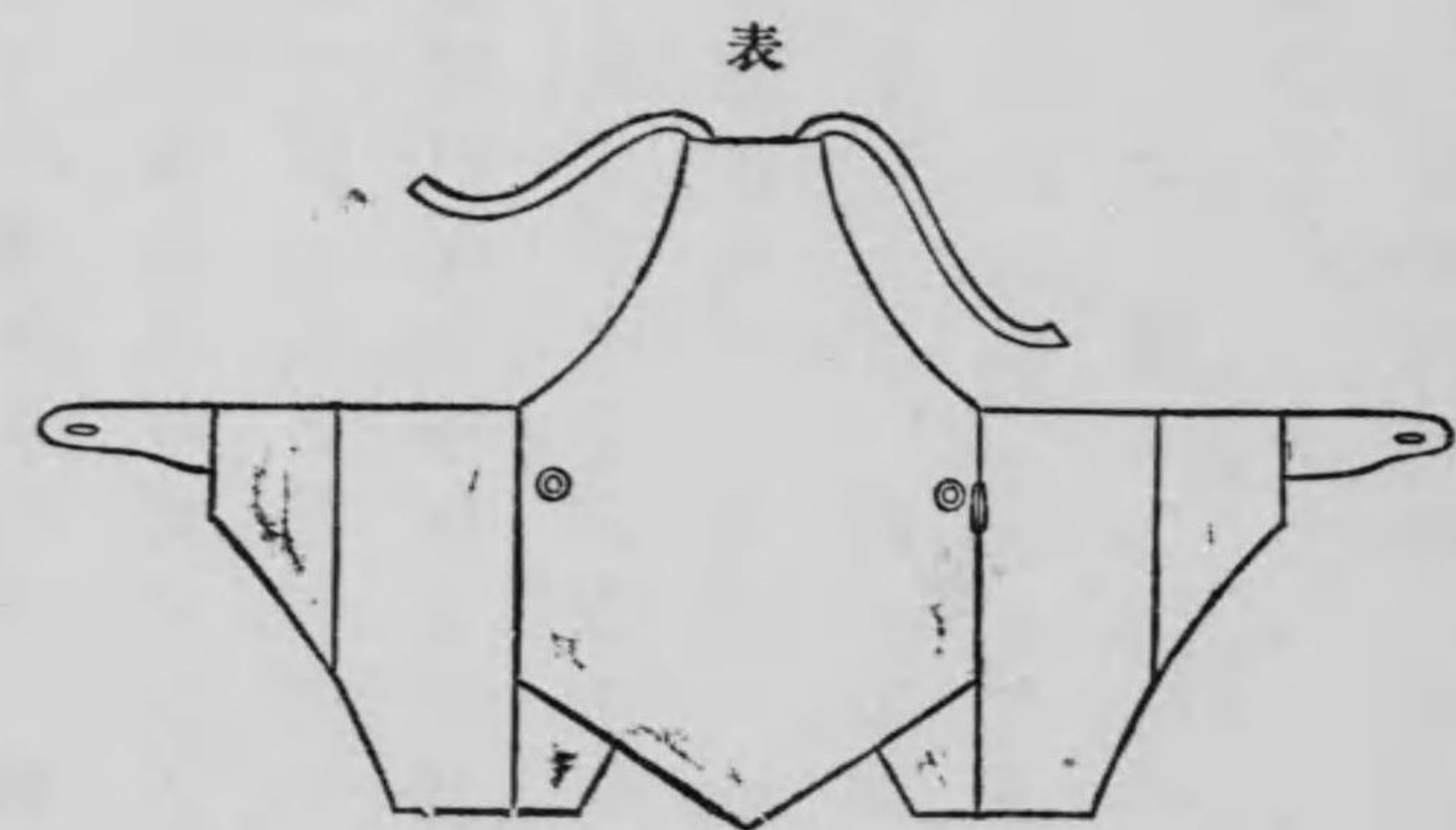


5 後布の持ち出し切れをとり(チ)の上部を表裏合せて縫ひ、帶切れの(リ)を挟みて(ヌ)のところを表裏合せて縫ひ、引き返しおくべし。それより後布の表裏を合せて(ル)(ヲ)の上下を縫ひ、引き返して表を出し、後布の持ち出し切れの眞直なる方にて(ウ)のところを挟み、

縫ひ合せの圖

返し針にて四つ縫をなし、下方三四寸程の間、持出し切れの裏を

仕立上りの圖



除きて三つ縫をなし、此の處より引き返して表を出し、裏の明けおきたるところを紵けつくべし。

6 裏の胯上布と胯下切れとを縫ひ合せたるものを取り、下は後布と裾口とを揃へ、上は前布の(ヨ)の處と、後布の(ル)の處との丈を揃へ、能くつりあひを見て胯上切れの(カ)の部分を前布の裏に合せて縫ひ、次に後布の表裏にて(ヨ)の表裏を挟み裾口まで四つ縫をなし、下方三四寸の間後布の裏を除きて縫ひ、此の處より表を引き返し、残し置きたる部分を紵け、次に胯下切れの(レ)の表と後布及び持出し切れの(タ)の表裏とを合せて三つ縫をなし、(レ)の裏にて紵け上ぐべし。但し右方の(ヨ)の部分は上より一寸程下りたる處に、帶通しの穴一寸程を縫ひあけ置くべし。次に帶の兩端に鈕穴をあけ、前布の左右に鈕をつくべし。

【設問】

裏附子供腹掛の裁ち方を述べよ。
又其の縫ひ方は如何なる順序によりしか。

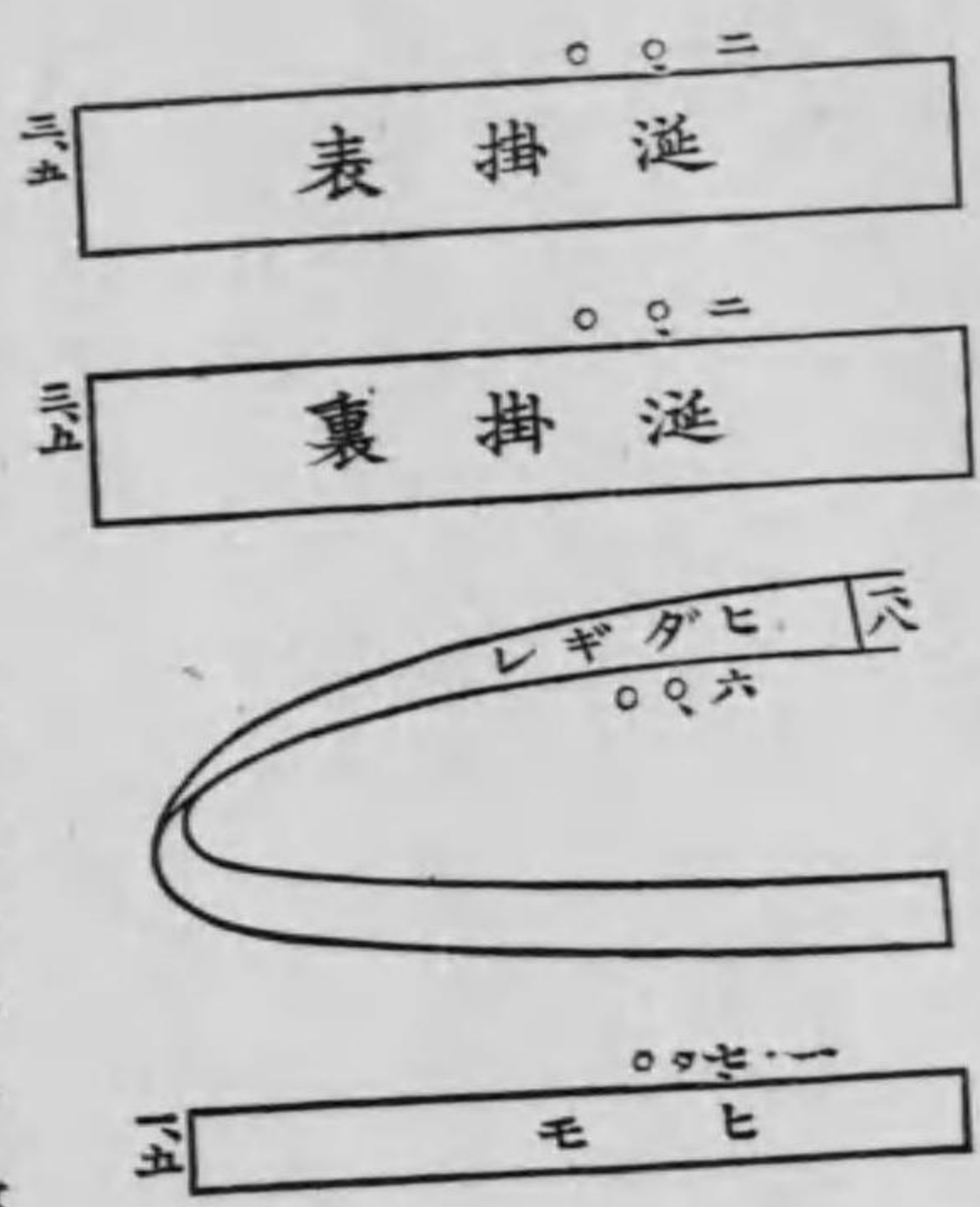
第十六章 涎掛

涎掛には其形狀種々あり、左に其の裁ち方及び縫ひ方順序を述べべし。

一、扇形涎掛

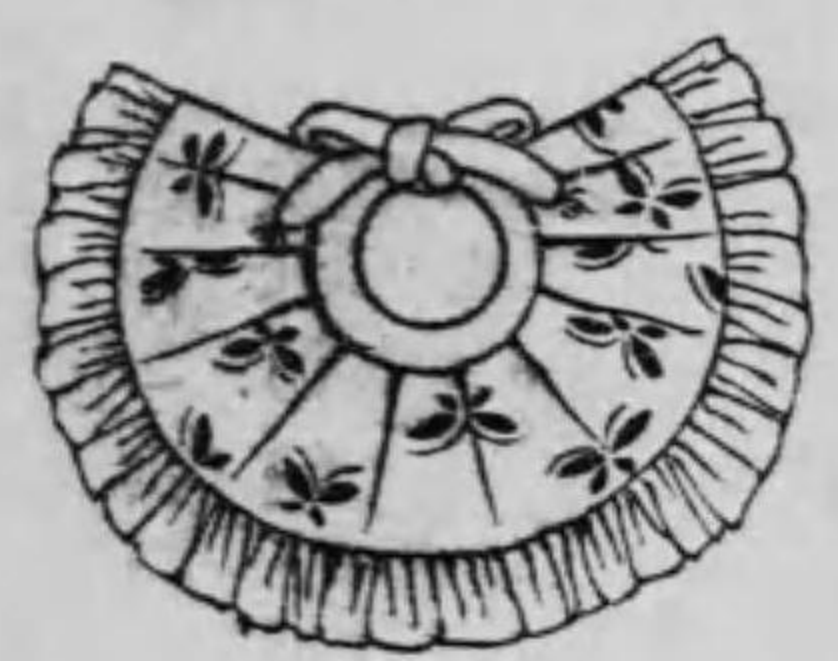
之れは從來我國にて用ひ來りたるものにして、メリンス羽二重縮緬絞等の材料品にて仕立つるものなり。

用布の寸法は左圖の如く幅三寸五分長さ二尺の表裏用布と、幅一寸八分長さ六尺程の襷切れ一枚と、幅一寸五分長さ一尺七寸の紐布一枚とを要す。



其の仕立方は最初襷切れを取
りて横の両端を伏せ縫ひになし、
之れを二つに折りて四五分幅程
の片襷を取り、涎掛の長さだけに
縮め返し針にて留めおき、次に
表裏の布にて表切れに晒木綿綿

仕立上りの図



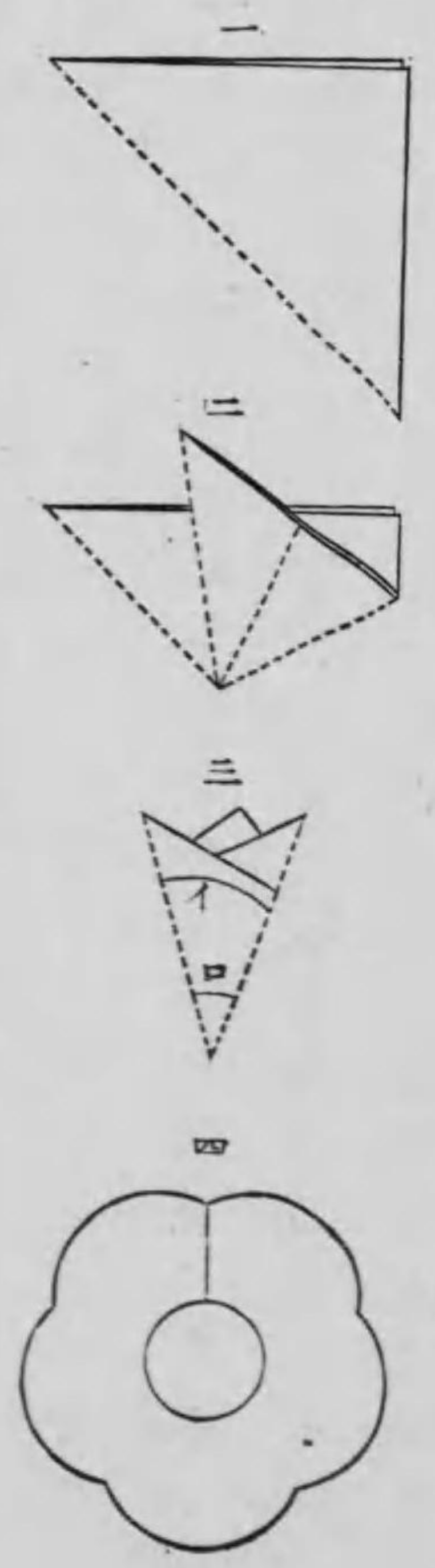
ネル等の心を入れる之れを挟み、二分程の縫代にて返し針に縫ひ
行き、横の両端を縫ひて裏の方に折り返し、表
を出して縫ひ目の上及び紐附のところを平
襷をかけ、次に此の二尺の布の中央に割り
襷一つ両側に片襷三つ程づつか、或は割り襷
のみ五つ程を取りて八寸位の長さに縮めて、

紐を附け、之れに少しく眞綿を入れて紘け上ぐべし。
三、梅形涎掛

用布は扇形と同じくメリンス羽二重或は白ネル等を用ひ、寸
法は凡そ八寸四方の表裏各一枚及び幅一寸二三分丈一尺五六
寸の紐布一枚を要す。

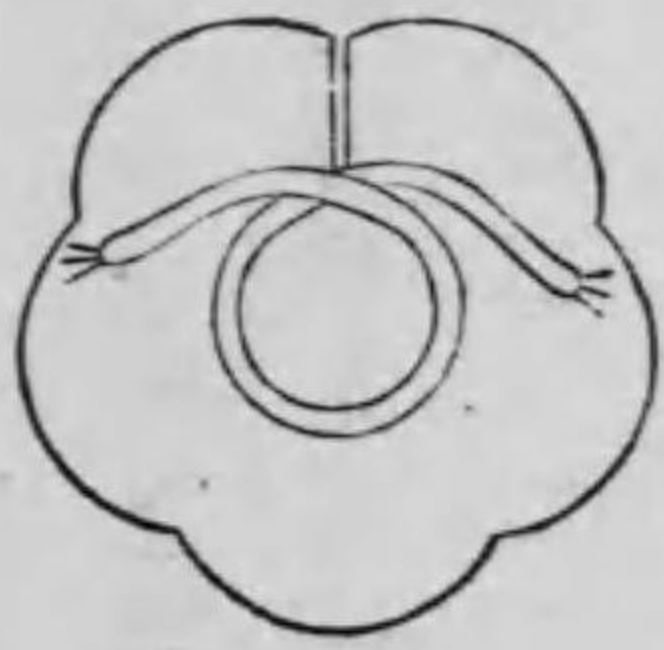
裁ち方は先づ用布と同じ大いさの正方形の紙をとりて第一
圖の如く二つに折り、次に第二第三圖の如く五つに折り、第三

裁ち方の図



圖中の(イ)の線を裁ち切る時は第四圖の如き梅形を得、此の型紙に合せて用布を裁つべし。

仕立上りの圖



仕立方は先づ表裏の布を合せて周圍を形通りに返し針に二分程の縫代に縫ひ、裏の方に折り返して角の出來ざる様よく之を整へ、表を返して周圍及び紐附のところを縫綑をかけ、次に紐の中央を表の紐附の中央に合せ、返し針にして紐を附け、扇形の時の如く少しく心を入れて新け上ぐべし。

注意 メリンス等の薄き地質を用ふるときは晒木綿又は白ネル等の裏打をなし、又表布無地物なるときは廻りに飾縫をなすも可なり。又此の梅形と同じ方法にて裁ち方の際、瓣の中央を少しく切り込むときは櫻形となり、瓣の中央

に角をつくるときは桔梗形となすことを得るなり。

【設問】

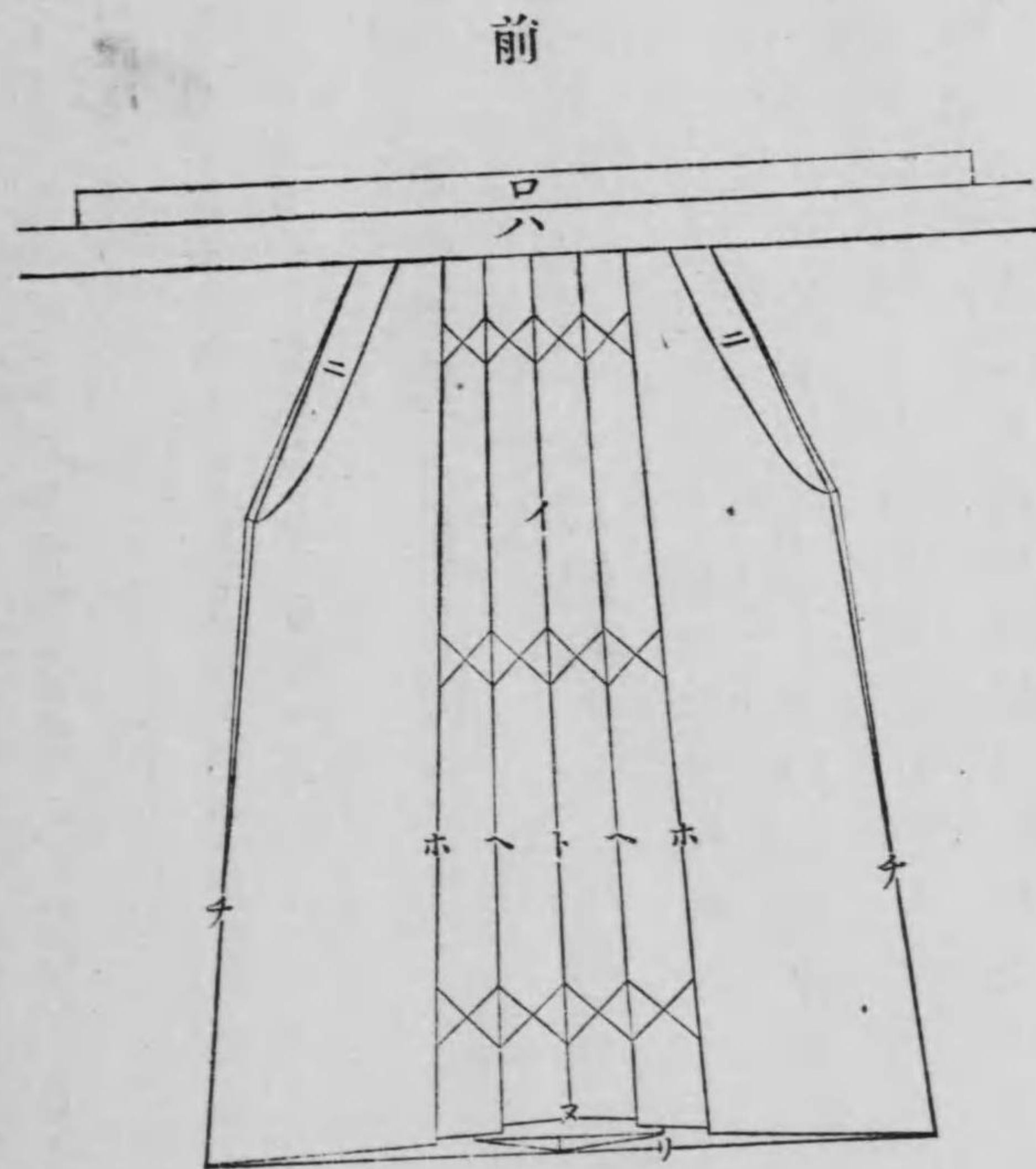
扇形涎掛の用布の種類及び其の寸法を問ふ。
梅形涎掛の型紙裁ち方を述べよ。

第十七章 女袴

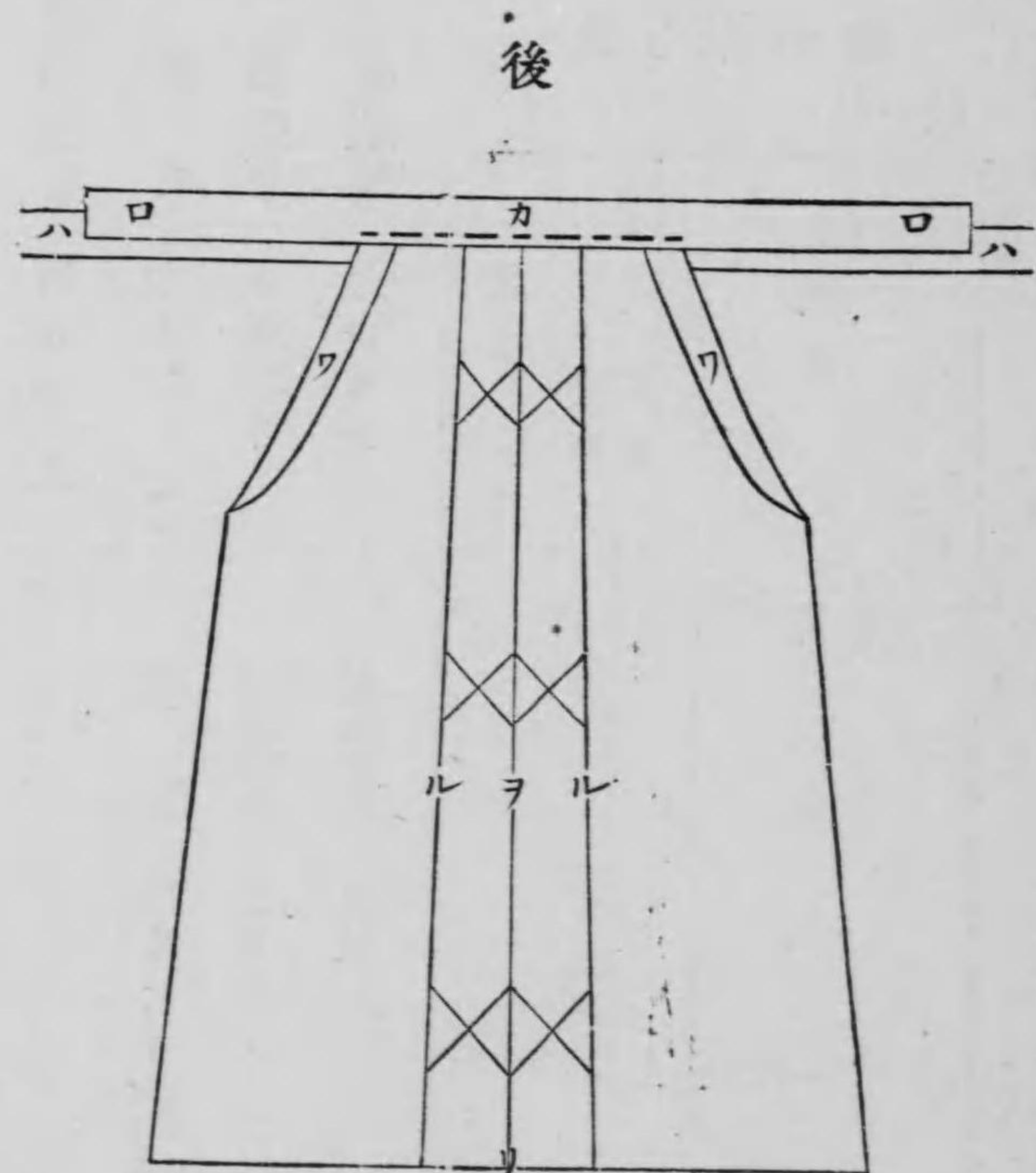
女子の袴を用ふるは近來の美風にして衛生上容儀上最も賞すべきこととなり、如何となれば之れが爲めに下半身の包被を十分ならしむるを得べく、また歩行・運動等の際にも、脚部の顯はるる虞なければなり。而して之れを調製するには木綿・メリンス・セル・カシミヤ・紬・琥珀織・精好織等種々あれども、多くは木綿・毛織物等を用ふ。

左に其の各部の名稱を擧ぐべし。

第一 女袴各部の名稱



- イ 紐下
- ロ 後紐
- ハ 前紐
- ニ 前笹襷
- ホ 一の襷
- ヘ 二の襷
- ト 三の襷
- チ 相引
- リ 蹴廻けりまわし
- ヌ 切り上げ



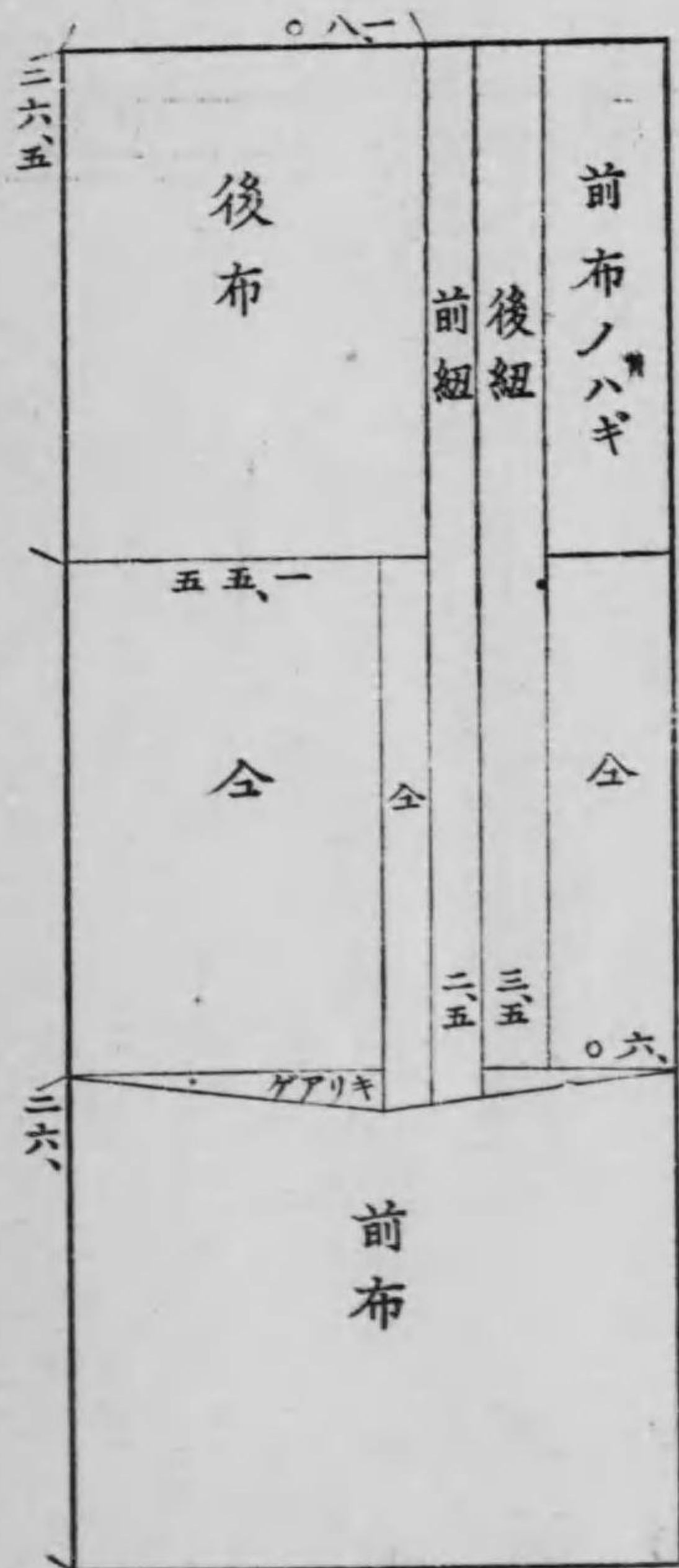
- ル 後一の襷
- ヲ 後二の襷
- ワ 後笹襷
- カ 飾糸

第二 大人女袴裁ち方・積り方

一 三尺幅物にて女袴の裁ち方積り方
 普通裁ち切り寸法

- 後丈 二尺六寸五分 前丈 二尺六寸五分内切り上げ五分乃至七分
- 前接ぎ 布幅六寸 後紐丈 五尺三寸
- 後紐幅 三寸五分 前紐丈 八尺
- 前紐幅 二寸五分

裁ち方の図



積り方公式

總丈 = 後丈 × 3 - 後前の差
 後丈 = (總丈 + 後前の差) ÷ 3
 前丈 = 後丈 - 後前の差

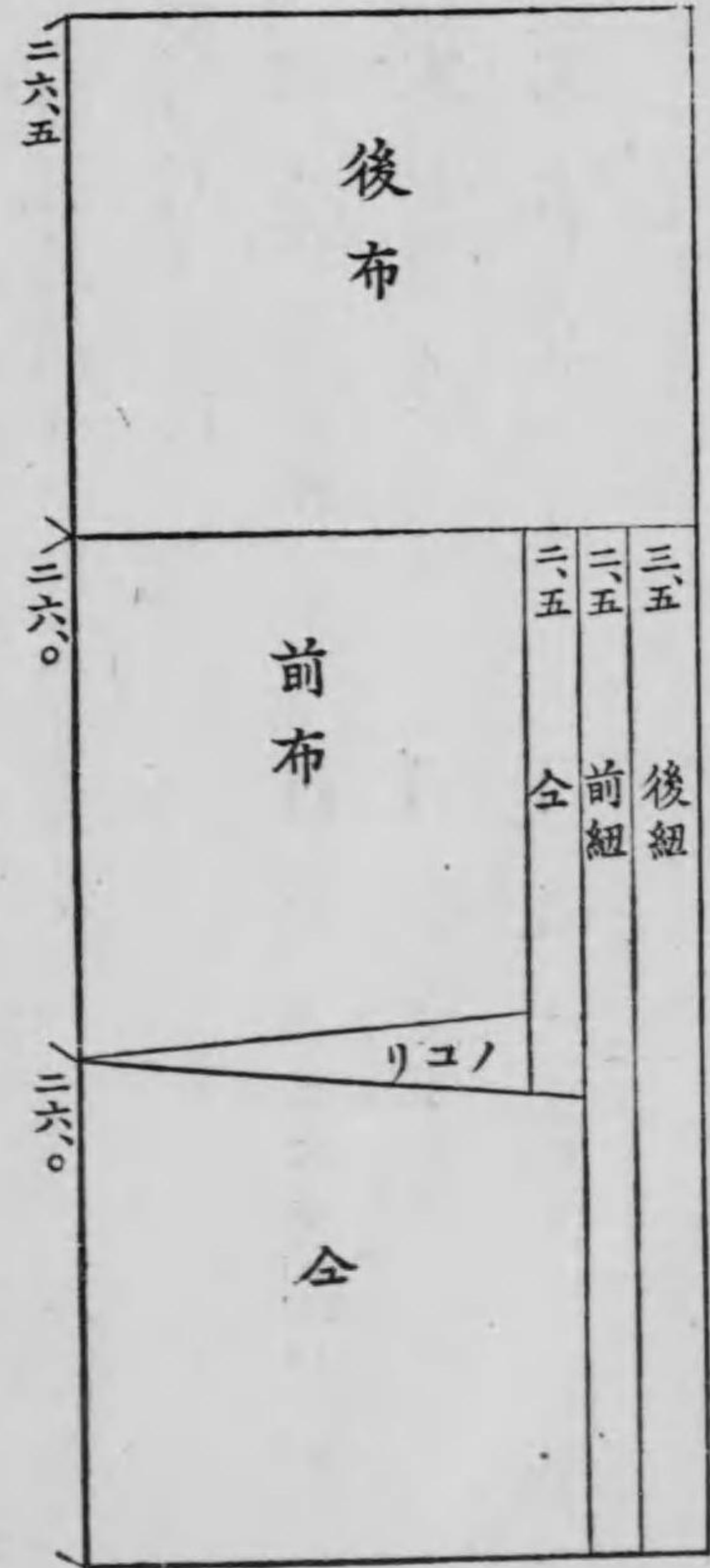
又場合によりては、着用者の便宜に従ひ次ぎの如き裁ち方によるも可なり。

二 用布 幅三尺長さ七尺八寸五分

普通裁ち切り寸法

- 後丈 二尺六寸五分 前丈 二尺六寸五分内切り上げ五分乃至七分
- 後紐丈 五尺二寸 同幅 三寸五分
- 前紐丈 七尺九寸 同幅 二寸五分

圖の方ち裁



注意 右の裁ち方は後前共に接ぎ合せ少き利あれども、後幅割合に狭きを以て三つ襷となすには、稍、襷の淺くなる嫌ひあり。但し一つ襷ならば此の裁ち方にて可なり。

積り方公式

總丈 = 後丈 × 3 - 後前の差 × 2
 後丈 = 總丈 + 後前の差 × 2 + 3
 前丈 = 後丈 - 後前の差

二 二尺幅物にて女袴の裁ち方積り方

一 用布 幅二尺長さ一丈三尺七分

普通裁ち切り寸法

- 後丈 二尺六寸五分
- 前丈 二尺六寸内切り上
- 前奥 二尺五寸七分内切り上げ二分乃至四分
- 後紐丈 五尺二寸
- 後紐幅 三寸五分
- 前紐丈 七尺八寸七分
- 前紐幅 三寸

圖の方ち裁



注意 右の裁ち方に於て表裏なきものは、前布を裁ち違ひとなすも可なり。

積り方公式

$$\begin{aligned} \text{總丈} &= \text{後丈} \times 5 - (\text{後前の差} \times 3 + \text{前布の切上}) \\ \text{後丈} &= (\text{總丈} + \text{後前の差} \times 3 + \text{前布の切上}) \div 5 \\ \text{前丈} &= \text{後丈} - \text{後前の差} \end{aligned}$$

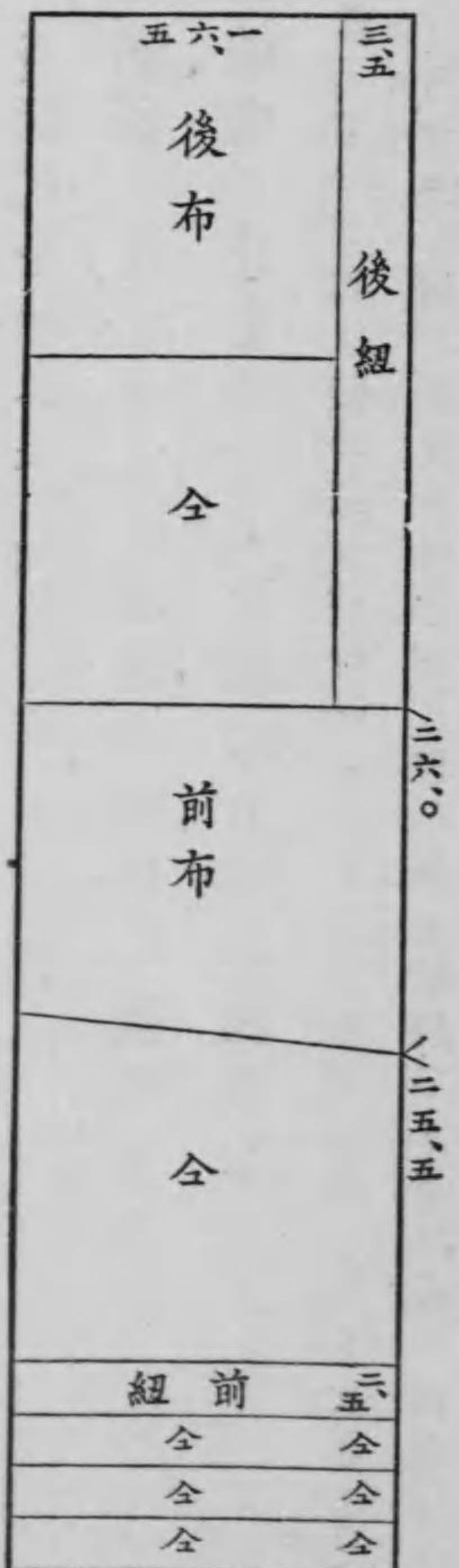
又用布の尺數を少くして裁たんとせば、次ぎの如き裁ち方によるべし。

二、用布 幅二尺長さ一丈一尺四寸五分

普通裁ち切り寸法

後丈	二尺六寸五分	前丈	二尺六寸 _{内切り上}
後紐丈	五尺三寸	同幅	三寸五分
前紐丈	八尺	同幅	二寸五分

裁ち方の圖



注意 用布片面物なるときは右の如く裁ち違ひとなすこと能はざるを以て、前の圖の如く兩方より切り上げをつくべし。又前紐は成る可く堅布を用ふる方可なるを以て半幅二尺を求むるを得ば、之れを四つ割りとなして用ふべし。

積り方公式

$$\begin{aligned} \text{總丈} &= \text{後丈} \times 4 - (\text{後前の差} \times 2 + \text{裁違} + \text{紐布丈}) \\ \text{後丈} &= (\text{總丈} + \text{後前の差} \times 2 + \text{裁違} - \text{紐布丈}) \div 4 \\ \text{前丈} &= \text{後丈} - \text{後前の差} \end{aligned}$$